Multimet SOHO Router

NTT-ME

導入/設定ガイド

ISDN

■商標についてのお知らせ

・MS、Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。
・Macintosh、Apple Remote Accessは、アップルコンピュータ社の登録商標です。
・Ethernetは、富士ゼロックス社の登録商標です。
・Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の商標です。
・Hayesは、Hayes Microcomputer Products Inc.の商標です。
・MN128SOHOは、株式会社エヌ・ティ・ティ エムイーの商標です。
・AutoARA、AutoBACP、AutoDNS、AutoMP、AutoNAT、AutoPAD、AutoPPP、ローカルアクセスサーバ（LAS)、マルチアンサーは、株式会社ビー・ユー・ジーの商標です。
・その他の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

■ご注意

・この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
取扱説明書にしたがって正しく取り扱いをしてください。
・本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外的要因によって、通信などの機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
・通信不良によって生じた損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。また、通信内容の漏れにつきましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
・このマニュアルの著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべて株式会社ビー・ユー・ジーに帰属します。
・このマニュアルの内容の一部または全部を無断で転用することは禁止されています。
・このマニュアルおよびソフトウェア、ハードウェア、外観の内容について、将来予告なしに変更することがあります。

※必ず「設置する際の注意」〈P.1〉、「安全にお使いいただくためにお読みください」〈P.5〉をお読みください。

本製品を設置しましょう

ISDN回線に接続　機器などを接続（電話機やFAX／パソコンやハブ／ほかのISDN機器）　アースを設置　電源コードのプラグをコンセントに差し込む　電源をON

液晶ディスプレイ・LEDを確認しましょう

本体前面

液晶ディスプレイについて　※必ず「液晶ディスプレイを見る」〈P.2〉をお読みください。

本製品の前面上部にあるバックライト付き液晶ディスプレイには、本製品の設定状態、通信状態やエラーなどのさまざまな情報を絵文字で表示します。液晶ディスプレイを見ると、使っている機器が電話機なのかパソコンなのか、通信に使っているBチャネルが1本なのか2本なのか、などの情報が分かります。
また、電話番号や通信料金などの詳細情報、機能設定ガイダンスを12文字×2行の文字（英数カナ）で表示します。

絵文字の種類	内　容
D	Dチャネルを使うと点灯します。
B1 B2	B1またはB2チャネルを使うと点灯します。 ▲：発信すると点灯 ▼：着信すると点灯 └─┘：MP通信すると点灯
1 2 3	アナログポート（1/2/3）につないだ電話機などのアナログ機器を使うと点灯します。
✔	INSネット64のフレックスホンサービスの着信転送を設定すると点灯します。

右表のほかにも、プロバイダのメールサーバに電子メールが到着したときや、本製品にPHSメールが到着したときに、液晶ディスプレイで通知することができます（設定が必要です）。詳しくは下記のページを参照してください。
電子メールの到着を表示 ：活用ガイド CD-ROM 第１部「5-20　メール着信通知機能を利用する」
PHSメールの到着を表示 ：活用ガイド CD-ROM 第１部「5-19　PHS電話機とメッセージを送受信する」

◎本製品の電源をONにしたときの表示（INSネット64使用時）

状　態	表　示	備　考
電源ON後、正常に起動したとき（約1秒経過）	MN128-SOHO- SL11 V1.40	製品名とファームウェアのバージョンを表示
電源ON後、エラーが発生したとき	ｶｲｾﾝｲｼﾞｮｳ ﾚｲﾔ1ｴﾗｰ	エラーを表示 ※「切断理由の表示（液晶ディスプレイ）」〈P.118〉を参照
起動後、通信していないとき	1999/12/08 12:00	本製品に設定されている日時を表示 ※日時が設定されていないときは、すべて「-」（ハイフン）で表示

◎B1/B2を使った通信情報の表示
B1を使った通信情報は上部に、B2を使った通信情報は下部に表示されます。

状　態		表　示	備　考
発着信	発信するために受話器を上げたとき（アナログ機器のみ）	1999/12/08 12:00	本製品に設定されている日時を表示
	発信したとき	0312345678	相手先電話番号を表示 電話帳に登録している相手先に発信したときは［フリガナ（液晶表示）］の内容を表示 ※電話帳については「電話帳について」〈P.44〉を参照
	着信したとき	0312345678	相手先電話番号を表示（相手先から通知されたときのみ） 電話帳に登録している相手先に発信したときは［フリガナ（液晶表示）］の内容を表示 ※電話帳については「電話帳について」〈P.44〉を参照
通信中	応答後	00:00:03	経過時間を表示 ※以降、切断するまで表示
切断（発信時のみ）※	切断したとき	100円	通信料金を表示
	切断後、5秒経過	017	切断理由を表示 ※正常切断したときは非表示
	切断後、10秒経過	ﾙｲｾｷ3000円	現在までの累積料金
	切断後、15秒経過	1999/12/08 12:00	本製品に設定されている日時を表示

※切断したときの状況によって次のように表示が異なります。
正常切断時　：「通信料金→現在までの累積料金→日時」の順に表示
PPPエラー（認証など）時　：「切断理由→通信料金→現在までの累積料金→日時」の順に表示
レイヤ1エラー時（課金通知なし）　：「切断理由→日時」の順に表示

◎常時接続サービスを利用しているときの表示（ルータ機能・TA機能のみ）

状　態	表　示	備　考
電源ON後、約1秒経過	MN128-SOHO- SL11 V1.40	製品とファームウェアのバージョンを表示
正常に専用線に接続したとき	ｾﾝﾖｳｾﾝ1B ﾙｰﾀ	常時接続サービスを使用する機能（ルータ機能またはTA機能）と通信スピードを表示
回線側でエラーが発生したとき	ｶｲｾﾝｲｼﾞｮｳ ﾚｲﾔ1ｴﾗｰ	エラーを表示 ※「切断理由の表示（液晶ディスプレイ）」〈P.118〉を参照

◎停電したときの表示（乾電池を入れている場合のみ）

状　態	表　示	備　考
停電中	ﾃｲﾃﾞﾝﾁｭｳ	左記のように表示
停電復旧	1999/12/08 12:00	本製品に設定されている日時を表示

設置する際の注意

ISDN回線につなぐとき

注意

ほかのDSUを使う（本製品のDSUを使わない）ときは、必ず本体背面のDSUスイッチを［OFF］にしてください。［OFF］にしないと、本体の故障の原因になります。

◇制限事項

本製品のDSUを単独で使用することはできません。

◇ISDN回線を利用しているときの終端抵抗について

ISDN回線に本製品とともにほかのISDN機器がつながっている場合は、いずれか1つの機器の終端抵抗をONにしてください（ほかのISDN機器の終端抵抗をONにしたときは、本製品の終端抵抗切替スイッチを［OFF］にしてください）。
ISDN回線に本製品だけがつながっている場合は、本製品の終端抵抗切替スイッチを［ON］にしてください。

◇専用線、OCNエコノミーサービスなどを利用しているときの終端抵抗について

専用線、OCNエコノミーサービスを使用する場合は、常に本製品の終端抵抗切替スイッチ（TERM ON/OFF）を［ON］にしてください。

! Trouble ? B1とB2のLEDが同時に点滅するときは
→参照　P.114

電話機やFAXをつなぐとき

◇制限事項

アナログ機器は、プッシュボタン（PB）式のものを使用してください。
また、アナログ機器に切り替えスイッチがある場合は、「トーン」または「PB（プッシュボタン）」に設定してください。

- アナログ機器は、1つのアナログポートに1台だけつないでください。2台以上つないだ場合は、動作保証していません。
- アナログ機器の種類によっては、使用できないことがあります。なお、ビジネスホンは動作保証していません。
- アナログポート2/3は兼用です。同時に外線通話することや、双方で内線通話することはできません。

◇推奨するアナログポートの接続形態

アナログポート1/2/3には、次のようにアナログ機器をつなぐことをお勧めします。
アナログポート1：電話機（乾電池によるバックアップ可能）
アナログポート2：電話機またはFAX
アナログポート3：モデム（発信専用）

Etherポートに機器をつなぐとき

◇つなぐパソコン

Etherポートにつなぐパソコンや、ハブにつなぐパソコンには、Ethernetボードなどが必要です。Ethernetポートが内蔵されていないパソコンの場合は、Ethernetボードを別途用意してください。

◇制限事項

- 使用できる10BASE-Tケーブルは、カテゴリ3あるいはカテゴリ5に限ります。
- ４台以上のハブをデイジー・チェイン型でつながないでください。

ほかのISDN機器をつなぐとき

注意

本製品のDSUを使うときは、S/TポートにほかのDSUを接続しないでください。故障の原因になります。

◇制限事項

「ディジタルでんわS-2000」など端末給電を必要とするISDN機器は、1台しか使えません。本製品には1台だけつないでください。

◇終端抵抗について

「ISDN回線につなぐとき」の「◇ISDN回線を利用しているときの終端抵抗について」や「◇専用線、OCNエコノミーサービスなどを利用しているときの終端抵抗について」を参照してください。

アースを付ける

注意

必ずアース線を接続してください。アース線を接続しないと、火災や感電の原因になります。またアース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。

各スイッチについて

◇ETHERNET切替スイッチ（toPC/toHUB）

Etherポート1につなぐ機器の種類を設定します。
ハブをつなぐときは［toHUB］に、パソコンをつなぐときは［toPC］に設定します。どちらの機器の場合でも、Etherポート1につなぐときは、ストレートの10BASE-Tケーブル（付属）を使います。

◇終端抵抗切替スイッチ（TERM ON/OFF）

ISDN回線の終端抵抗のON/OFFを切り替えます。
ISDN回線に本製品とともにほかのISDN機器がつながっている場合は、いずれか1つの機器の終端抵抗をONにしてください（ほかのISDN機器の終端抵抗をONにしたときは、本製品の終端抵抗切替スイッチを［OFF］にしてください）。ISDN回線に本製品だけがつながっている場合は、本製品の終端抵抗切替スイッチを［ON］にしてください。
また、専用線、OCNエコノミーサービスを使用する場合は、常に本製品の終端抵抗切替スイッチを［ON］にしてください。

◇DSUスイッチ（DSU ON/OFF）

本製品のDSUを使うかどうかを設定します
本製品のDSUを使うときは［ON］に、本製品のDSUを使わない（ほかのDSUを使う）ときは［OFF］に設定します。

注意

ほかのDSUを使う（本製品のDSUを使わない）ときは、必ず本体背面のDSUスイッチを［OFF］にしてください。［OFF］にしないと、本体の故障の原因になります。

◇U点極性反転スイッチ（REV/NOR）

U点の極性を反転させます。詳しくは、「そのほかのトラブル」〈P.114〉を参照してください。

電源をONにするとき

注意

本製品は、必ず縦置きで使用してください。

ほかのDSUを使う（本製品のDSUを使わない）ときは、必ず本体背面のDSUスイッチを［OFF］にしてください。［OFF］にしないと、本体の故障の原因になります。

電源をONにする前に、各ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

! Trouble ?　B1とB2のLEDが同時に点滅するときは
→参照　P.114

液晶ディスプレイを見る

◇液晶バックライトの点灯

液晶バックライトは、液晶ディスプレイの表示内容に変更があると自動的に点灯します。設定によっては、常に点灯させたり、消灯させたりできます。詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用設定ページリファレンス」を参照してください。

◇相手先電話番号の表示

相手先電話番号の表示には、次のような制限があります。
・12桁まで表示できます。13桁以上の場合、11文字めの後ろに「＞」と表示されます。
　サブアドレスは表示できません。

◇着信時に相手先電話番号が表示されないとき

相手先電話番号（発信者番号）が通知されなかった場合は、次のような非通知理由が表示されます。
・相手が発信者番号を通知しないとき、あるいは、こちらがINSナンバー・ディスプレイの契約をしていないとき
　　ﾂｳﾁﾅｼ
・相手が発信者番号の通知を拒否しているとき
　　ﾂｳﾁｷｮﾋ　：P
・相手が公衆電話を使用しているとき
　　ｺｳｼｭｳﾃﾞﾝﾜ　：C
・通知できない地域から相手が発信しているとき
　　ﾋｮｳｼﾞｹﾝｶﾞｲ　：O　または　ﾋｮｳｼﾞｹﾝｶﾞｲ　：S

◇アナログ回線からの着信の表示

INSナンバー・ディスプレイ<有料>を契約していると、アナログ回線からの着信のときも、相手先電話番号を表示できます。INSナンバー・ディスプレイについては、最寄りのNTTまで問い合わせてください。

◇通信中の表示方法の選択

通信中の表示を次のように変更できます。詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　設定ページリファレンス」を参照してください。
・経過時間のみ表示（購入時）
・接続後5秒間は番号を、その後は経過時間を表示
・番号と経過時間を交互に表示

停電時に使うとき

警告

乾電池は正しく使用してください。使い方を間違えると、液漏れしたり破裂したりすることがあります。次の点にご注意ください。

・保証期間内の単三アルカリ乾電池をお使いください。

・乾電池をショートさせたり、分解したり、加熱したりしないでください。

・乾電池は充電式ではありません。充電しないでください。

・乾電池の＋－方向を確認してください。

・乾電池の液漏れによる本体の故障については、当社の保証対象外となります。

・アルカリ性溶液が衣服に付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。眼に入ったり、皮膚に付着したときは、ただちにきれいな水で洗ったあと、医師に相談してください。

・新しい乾電池と古い乾電池を混用しないでください。

・停電がなくても、１年に１度の割合で新しい乾電池と交換してください。

・使用済みの乾電池を火中に投げないでください。

乾電池はそのほかにもさまざまな原因で液漏れする事があります。注意してください。

注意

・乾電池に直接ハンダ付けしないでください。

・使いきった乾電池は、すぐに器具から取り出してください。

・乾電池は、直射日光・高温・多湿の場所を避けて保管してください。

・落下などによって、乾電池を加圧変形させないでください。

・乾電池を取り外した場合は、小さなお子さまが乾電池をなめたり、誤って飲み込むことがないようにしてください。乾電池は幼児の届かないところに置いてください。

◇乾電池について

・電源コードをコンセントから抜くときは、必ず先に本製品の電源をOFFにしてください。電源をONにしたまま電源コードを抜くと、乾電池によるバックアップ機能が働いてしまいます。

・乾電池は停電するたびに交換することをお勧めします。交換しない場合、次の停電時には動作時間が短くなります。

・乾電池を交換するときは、本製品の電源をOFFにしてください。

◇乾電池によるバックアップ機能

本製品には、停電時でもアナログ機器を使えるように、乾電池によるバックアップ機能があります。バックアップ機能が働くのは、アナログポート1だけです。
したがって、停電時はパソコンやS/T点ポートにつないだ端末給電が必要なISDN機器を使えません。
なお、停電時以外は、乾電池を入れなくても本製品は正常に動作します。バックアップ機能を使いたいときだけ、乾電池を入れてください。
停電時の設定については、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　設定ページリファレンス」を参照してください。

◇停電時の動作

停電すると、乾電池によるバックアップ機能が働き、本体前面の液晶ディスプレイに「テイデンチュウ」と表示され、POWERが点滅します。
停電復旧すると、液晶ディスプレイの表示は日時に戻りますが、POWERは点滅したままです。停電復旧後は、本製品を再起動してください。また、乾電池は消耗していますので、交換することをお勧めします。
なお、POWERの点滅の間隔は、次のように変わります。

・停電で電池使用時→点灯と消灯が同じ時間で点滅しています。
・停電復旧後→点灯のほうが消灯の時間より長くなります。

◇MEMO

バックアップ機能が働くと、次のようにアナログポート1を使用できます。
待ち受け時：約2時間
※アナログポートを使用するときだけ給電する場合の数値です。設定を変更すると、常に給電することもできます。詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　設定ページリファレンス」を参照してください。
通話時　　：約1時間
停電時の動作時間は、乾電池の使用状況、種類、周辺温度、使用環境などによって異なります。上記の数値を目安にしてください。

ISDNサービスは申し込みましたか？

本製品を使用する前に、ISDN回線やハイ・スーパーディジタル回線（専用線）への加入が必要です。加入契約がお済みでない方は、注意事項をお読みの上、手続きを行ってください。詳しくは、最寄りのNTTまで問い合わせてください。
なお、ダイヤルインサービス、発信者番号通知サービスを合わせて契約すると、本製品の機能を有効に使用することができます。

◎ISDN回線を使用するとき

「INSネット64お申込票」の次の項目に、必要な内容を記入してください。

- 「(9)接続する通信機器」
  通信機器の名称：MN128-SOHO SL11
  DSU折り返し機能：有
  メーカ：他社
  認定番号：CD99-1126JP　L99-1276
  台数：1
  ※本製品の台数を記入します。
- 「コンサルティング項目」
  インタフェース形態及びレイヤ1起動種別：P-MP呼毎またはP-MP常時
  発信者番号通知サービス：「通話ごと非通知」（「呼毎通知許可」）で契約することをお勧めします。
  ユーザ間情報通知サービス：「着信許可」で契約することをお勧めします。
  通信中着信通知サービス：許可

◎ハイ・スーパーディジタル回線を使用するとき

「NTT専用契約申込書」の次の項目に、必要な内容を記載してください。

- 「(3)契約形態」
  「単独専用」を選択してください。
- 「(4)品名」
  通信スピードを64Kbpsにするときは、「HSD 64Kbps/s(I)」と記入してください。
  通信スピードを128Kbpsにするときは、「HSD 128Kbps/s(I)」と記入してください。
- 「(5)回線数」
  4線式：1
- 「(7)端末設備の品名等」
  品名：MN128-SOHO SL11
  製造会社名：（株）NTT-ME
  適合認定番号：CD99-1126JP　L99-1276
- 「(8)端末設備の設置場所」
  （1）起点/（2）終点の設置場所：本製品を設置する場所の住所と電話番号を記入してください。
  品目番号及び台数：「(7)端末設備の品名等」で「MN128-SOHO SL11」と記入した欄の番号と、台数を記入してください。
  例）（1）×1
  引き込み・配線工事区分：NTTがすべて施工する場合は「端末直前まで」を選択してください。
- 「(10)分岐」
  分岐：無
- 「(11)使用態様」
  他回線との接続：無

◇MEMO

・INSネット64は、NTTのISDN回線サービスのことです。詳しくは、「これだけは知っておきましょう」の「INSネット64について」〈P.119〉を参照してください。

・本製品は、OCNエコノミーサービスに対応しています。OCNエコノミーサービスの加入手続きについては、最寄りのNTTまで問い合わせてください。

・ISDN回線に変更後、一般電話回線利用時に契約していた各種サービスを使用したい場合は、すべて再契約が必要です。詳しくは、最寄りのNTTまで問い合わせてください。
　例）銀行振り込み/キャッチホン/Fネット/テレジョーズ

安全にお使いいただくためにお読みください

注意

- 煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。本製品の電源ケーブルをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してからMN128-SOHOサポートセンターへご連絡ください。お客様による修理は大変危険ですから、絶対におやめください。
- 本製品を分解したり、改造したりしないでください。発熱・火災・感電・故障の原因になります。
- 誤って本製品を落下させたり、強い衝撃を与えた場合、内部の部品が外れる可能性があります。本製品を振ってカタカタという音がしたとき、あるいは本製品の動作が不安定なときは、本製品の電源ケーブルをコンセントから抜き、MN128-SOHOサポートセンターへご連絡ください。そのまま使用すると、火災・故障の原因になります。
- 本製品の内部に水などが入った場合は、まず本製品の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いて、MN128-SOHOサポートセンターへご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。
- 本製品の換気口をふさがないでください。発熱などにより、火災・感電・故障の原因になります。
- 本製品のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり本製品の内部に入った場合、火災・感電の原因になります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、きつく束ねたりしないでください。また重いものを載せたり、加熱したりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電・故障の原因になります。電源ケーブルが傷んだら、MN128-SOHOサポートセンターへご連絡ください。
- 本製品を設置する場合は、必ずアース線を接続してください。アース線を接続しないと、火災・感電の原因になります。また、アース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。火災・感電の原因になります。
- ぬれた手で電源ケーブルを抜き差ししないでください。感電・故障の原因になります。
- AC100Vの家庭用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因になります。
- 本製品が薬品や有害ガスに触れないようにしてください。腐食する恐れがあります。また、本製品に有害な物質が付着することになり、人体に害をおよぼす恐れがあります。

◎設置場所

- 屋外での使用は、故障の原因になります。屋内でご使用ください。また、直射日光のあたるところや、湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。
- 冷暖房機器の近くや、通風口からの風があたるところに置かないでください。火災や故障の原因となることがあります。
- 極端な高温または低温は、故障の原因になります。通常の室温（10〜35℃）でご使用ください。
- 結露するような場所で使用しないでください。温度差の激しい環境を急に移動した場合、本製品は結露する恐れがありますのでご注意ください。故障の原因になります。結露した場合、本製品を乾燥させるか、長い時間同じ環境に置いた後、ご利用ください。
- ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因になります。
- 調理台のそばなど油飛びや湯気の当たるような場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因になります。
- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本製品の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 動作中は内部の温度が上がり、本製品の外側も熱くなるため、他の装置等の上に本製品を重ねて設置しないでください。また、ビニール製のものなどを本製品のそばに置かないでください。変色・変形の原因になります。
- 磁界、ガス腐食等を伴う環境（塩・酸・アルカリ等）には置かないでください。故障の原因になります。
- 各ケーブルは所定のコネクタに接続してください。接続を誤ると、故障の原因になります。
- 本製品やケーブルが人体などと接触するような場所に置かないでください。ケーブルの切断の原因や、落下による本製品の故障の原因になります。
- 高圧線や通信用アンテナのそばでは、正しく通信できないことがあります。

◎お使いのとき

- 本製品は、必ず縦置きで使用してください。
- 本製品底面の小さな穴を含むすべての穴に、異物を挿入しないでください。感電・故障の原因になります。
- 電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張るとケーブルが傷つき、火災・感電や断線の原因になります。
- ケーブルを接続するときは、本製品および接続機器の電源を切ってから行ってください。火災・感電・故障・事故の原因になります。
- 近くに雷が発生したときは、電源ケーブルのコンセントを抜き、ISDNケーブル（S/Tケーブル含む）を外して、ご使用をお控えください。ケーブルの接続や切断、または製品の導入や保守の作業も行わないでください。雷によって、火災・感電の原因となることがあります。
- 本製品の外装が汚れたときは、水で薄めた中性洗剤に軟らかい布を浸し、よくしぼってから拭き取り、さらに乾いた布で拭いてください。
- 本製品に乗らないでください。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください。本製品が壊れて、けがの原因となることがあります。
- 本製品の電源をOFFにした後、再度電源をONにする場合には、10秒以上待ってください。瞬時に電源をONにすると、正常に本製品がリセットされない場合があります。

注意

◎お使いのとき

・日本国以外で使用しないでください。本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造されています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊す恐れがあります。また、当該国の法令に抵触する場合があるので、使用できません。

お願い

◎お使いのとき

・動作中に接続ケーブルなどがはずれたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクタをしっかり接続し、動作中は、コネクタの接続部に触れないでください。

Trouble

・本製品には、Ethernet上のパソコンが自動的に回線を接続して相手先にアクセスできる機能があります。

自動接続の設定をしていると、ネットワークの設定内容、運用やパソコンにインストールされているソフトウェアの設定などによって、回線が長時間接続されていたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。ご注意ください。詳しくは、「Ethernet上のパソコンの通信によって意図しない自動接続をする」〈P.104〉を参照してください。

また、本製品を設置した後は、必ず設定ページ［切断／接続状況］画面、［通信料金情報］画面、あるいは本体前面の液晶ディスプレイ・LEDを確認してから運用ください。

［切断／接続状況］画面については「接続状況を確認する」〈P.93〉を、［通信料金情報］画面については活用ガイド CD-ROM 第１部「6-8　通信料金の情報を見る／消去する」を参照してください。

・次の場合は、ISDN回線網から料金情報が通知されないため料金による自動接続制限が正しく働きません。ご注意ください。

・PHS電話機に発信した場合
・電話をかける際、先頭に「001（KDD株式会社）」「0088（日本テレコム株式会社）」などの番号を付けた場合
・PHS電話機を利用した機器にPIAFSで発信した場合
・PHS電話機を利用した機器からのアクセスを受信した際に、本製品からコールバックした場合

自動接続制限については、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4 接続を制限する」を参照してください。

導入／設定ガイド（このマニュアル）のもくじ

1　こんなことができます～設定ガイド～

2　設定方法について

3　設定の準備をしましょう

4　電話機やFAXを使いましょう

5　インターネットにアクセスしましょう～Ethernet上のパソコンから～

6　こんなことがしたい

7　困ったときは

そのほかのマニュアルのもくじ

活用ガイド（PDFファイル）

リファレンス・ハンドブック

本製品のマニュアルの使い方

本製品のマニュアルについて

本製品のマニュアルは、３種類あります。

◎導入／設定ガイド（このマニュアル）

パッケージを開けてから、本製品を設置し、実際にアナログ機器を使ったり、インターネットにアクセスしたりするまでに必要な操作を順に解説しています。最初に必ずお読みください。

・マニュアルの使い方
・設定ガイド
・設置
・アナログ機器（電話やFAXなど）の使い方
・ルータ機能を使ったインターネット接続の方法

◎活用ガイド（PDFファイル）

導入／設定ガイドに記載していないすべての機能を解説しています。活用ガイドの使い方については、「活用ガイド（PDFファイル）の使い方」を参照してください。

・ルータ機能の使いこなし方法
・TA機能の使いこなし方法

なお、活用ガイドは本製品に付属のCD-ROMに収録されています。

◎リファレンス・ハンドブック

設定のしかたや設定項目（設定ページ・ATコマンド・設定コード）について解説しています。設定するときに、お手元に置いてお使いください。

・本製品の設定方法
・リファレンス

使用目的に応じた詳しいガイドラインについては、「1　こんなことができます ～設定ガイド～」〈P.12〉を参照してください。

このマニュアルの表記について

このマニュアルでは、次の用語を使用しています。

本製品：「MN128-SOHO SL11」を指します。

ISDN：NTTのISDN回線サービスである「INSネット64」を指します。

専用線：NTTの「ハイ・スーパーディジタル回線」、「ディジタルアクセス64」、「ディジタルアクセス128」を指します。

Windows95：Microsoft Windows95（日本語版）を指します。

インターネット：世界規模のコンピュータネットワークの通称です。

プロバイダ：インターネットへの接続サービスを提供している「インターネットサービスプロバイダ」のことを指します。

Ethernet上のパソコン：「本製品のEtherポートに接続しているパソコン」および「本製品のEtherポートにつないだハブに接続しているパソコン」のことを指します。

再起動：本製品やパソコンを起動している状態から、ふたたび起動し直すことを指します。

このマニュアルでは、パソコンの基本的な操作および用語についてご理解いただいていることを前提に解説しています。また、ISDN、インターネット、TCP/IPなどネットワークに関する知識を必要とする箇所があります。使われている用語がわからない場合は、「これだけは知っておきましょう」〈P.125〉、「用語解説」〈P.128〉またはパソコン雑誌などをお読みください。

使用しているマークについて

このマニュアルで、使用している記号の意味は次のとおりです。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、この製品本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。

活用ガイド（PDFファイル）の使い方

活用ガイドは、PDF形式のファイルです。お読みになるときは、Acrobat Reader（日本語版）が必要です。本製品に付属のCD-ROMには、「Acrobat Reader（日本語版）」が収録されているので、利用してください。

◎Acrobat Reader（日本語版）のインストール方法

付属のCD-ROMに収録されている、「Acrobat Readerインストーラ」（Windows95/98用：「ar40jpn.exe」、Macintosh用：「Japanese Reader Installer」）をハードディスクにコピーします。

※Acrobat Readerインストーラは、次のフォルダに収録されています。

Windows95/98用：［WIN］→［SOFTWARE］フォルダ→［ACROBAT］フォルダ

Macintosh用：［MAC］→［SOFTWARE］フォルダ→［Adobe Acrobat Reader 4.0］フォルダ

コピーしたAcrobat Readerインストーラのアイコンを、ダブルクリックします。

Acrobat Readerインストーラが起動します。表示されるダイアログの指示に従って、操作します。

インストールが終了したら、パソコンを再起動してください。

◎活用ガイドの使い方

付属のCD-ROMに収録されている「MANUAL」フォルダを、ハードディスクにコピーします。

Acrobat Readerを起動し、開くメニューから［MANUAL.pdf］ファイルを開きます。

活用ガイドが開きます。

電話機やFAXを使いましょう

◎一般電話回線用のアナログ機器が使えます
一般電話回線で使う電話機、ファクシミリ、モデムを、そのまま使えます。
※アナログ機器は、プッシュボタン式のものを使用してください。アナログ機器の種類によっては、使用できないことがあります。

◎設定方法を選べます
アナログポートの設定方法には、次の4種類があります。お好きな方法をお選びください。

（1）Ethernet上のパソコンからWWWブラウザを使う
→参照　P.28「4　電話機やFAXを使いましょう」

（2）DTEポートのパソコンからATコマンドを入力する
→参照　リファレンス・ハンドブック「1　設定方法について」の「DTEポートのパソコンからATコマンドを使って」

（3）アナログポートにつないだ電話機を使う
→参照　リファレンス・ハンドブック「電話機からの設定操作について」

（4）DTEポートのパソコンからアップデータ（MNMASTER11）を使う
※「MNMASTER11」は、Windows95/98とMacintoshに対応しています。Windows95/98用は、付属のCD-ROMの［WIN］→［MNMASTER］フォルダに収録されています。Macintosh用は、付属のCD-ROMの［MAC］→［MNMASTER］フォルダに収録されています。使用方法については、各フォルダ内のREADMEファイルを参照してください。

◎停電時にも使えます
乾電池によるバックアップ機能がありますので、停電時でもアナログポートにつないだアナログ機器を使えます。
※停電時はアナログポート1のみ使用できます。

◎3つのアナログポートを使えます
アナログポートが3つありますので、最大3つのアナログ機器をつないでおくことができます。ただし、アナログポート2と3は、合わせて1つのポートと見なされます。片方のポートを使っているときは、もう片方のポートは使えません。

◎こんな機能があります

機能	説明
代理応答	1つのアナログポートで鳴っている電話を、空いている他のアナログポートの電話機で受けられます。
内線通話	アナログポートにつないだ電話機どうしで内線通話ができます。 ※アナログポート2と3の間では、内線通話はできません。
内線転送	外からかかってきた電話を1つのアナログポートの電話機で受けて、他のアナログポートの電話機に転送できます。 ※アナログポート2と3の間では、内線転送はできません。
多彩な電話番号の設定	ダイヤルインを契約していれば、最大4つの電話番号を使い分けることができます。登録した番号ごとに呼び出し音や着信方法などを設定したり、特定の番号でかかってきたときに指定したアナログポートに着信するように設定することができます。
音量の調節	受話器の音量と、相手先の受話器に聞こえる音量を調節できます。
電話帳機能	相手先を手動または自動で電話帳に登録すると、短縮番号で電話をかけたり、呼び出し音の種類や着信の拒否などを設定できます。また、登録していない相手や電話番号を非通知でかけてきた相手の呼び出し音の種類や着信の拒否などを設定することもできます。
通話中電話帳登録	電話機からの操作で、通話中に相手先を電話帳に登録できます。迷惑な相手の場合は、次回から着信できないように登録することもできます。
プリ・ダイヤル機能	電話をかけるときに、相手先の電話番号の前に、あらかじめ登録した番号を自動的につけて発信することができます。発信者番号の通知／非通知を決める「186」「184」、NTTのサービスであるクレジットコールの番号、および「0077」「0088」「001」などの番号を登録しておくと便利です。

擬似フレックスホン機能	・擬似キャッチホン（マルチアンサー™）機能 フレックスホンのコールウェイティングを契約しなくても、コールウェイティングと同じように、通話中に他の相手からの電話を受けることができます。 ・擬似三者通話切替モード（通話中発信）機能 フレックスホンの三者通話を契約しなくても、三者通話（切替モードのみ）と同じように、通話中に別の相手に電話をかけることができます。
通信中機器移動サービスに対応	INSネット64の通話中機器移動サービス（無料）に対応しています。
発信者番号通知の設定	相手先に発信者番号を通知するかしないかを、発信者番号通知サービスの契約とは関係なく設定できます。また、どの番号を通知するかも選べます。
ナンバー・ディスプレイ/キャッチホン・ディスプレイ対応電話機接続可能	ナンバー・ディスプレイに対応した電話機（またはアダプタ）をつなぐと、電話がかかってきたときに相手の電話番号などを表示させることができます。また、キャッチホン・ディスプレイに対応した電話機をつなぐと、通話中に別の相手から電話がかかってきたときに、電話をかけてきた相手の電話番号などを表示させることができます。アナログ回線からの着信について電話番号を表示させる場合は、ナンバー・ディスプレイ（有料）の契約が必要です。
擬似ナンバー・アナウンス機能	電話機からの操作で、過去にかかってきた最大5件までの相手の電話番号を聞くことができます。アナログ回線で提供されているナンバー・アナウンスサービスと同じような機能です。また、電話番号を聞いた後、その相手に折り返し電話をかけたり、その相手を電話帳に登録することもできます。
リソースBOD機能	データ通信で2本のBチャネルを使用したMP通信中でも、アナログ機器を使うことができます。また、MP通信中に電話機から操作することによって、使用中のBチャネル数を増減することもできます。
i・ナンバーに対応	INSネット64のi・ナンバー（有料）に対応しています。2つの電話番号を利用して、本製品のTELポート1とTELポート2または3を使い分けることができます。
フレックスホンに対応	INSネット64のフレックスホンサービス（有料）に対応しています。キャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、着信転送、通信中転送のサービスを利用できます。
INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービスに対応	INSネット64のボイスワープサービス/ボイスワープセレクトサービス（有料）に対応しています。カスタマコントロール機能を使用して、転送先電話番号の登録などの操作を電話機から行うことができます。
なりわけサービスに対応	INSネット64のなりわけサービス（有料）に対応しています。カスタマコントロール機能を使用して、電話番号の登録などの操作を電話機から行うことができます。
迷惑電話おことわりサービスに対応	INSネット64の迷惑電話おことわりサービス（有料）に対応しています。自分から電話を切ったときだけでなく、相手が先に電話を切ったときや、相手と話している最中にも、迷惑電話を登録できます。
マジックボックスに対応	INSネット64のマジックボックス（有料）に対応しています。

◎使用目的を確認しましょう

使い方に応じて、必要な手順が異なります。
次の図に従って、マニュアルの参照ページを確認してください。

- 電話をかける／受ける　P.33
- 他のアナログポートの電話機で代わりに応答する（代理応答）　P.34
- 本製品につながった他の電話機に転送する（内線転送）　P.35
- 過去にかかってきた相手の電話番号を音声で聞く（擬似ナンバー・アナウンス）　P.36
- 通話中に相手先を電話帳に登録する　P.54
- 通信中機器移動サービスを利用する　P.61
- INSボイスワープサービス／マジックボックスを利用する　P.79
  ※ダイヤルインまたはi・ナンバーを契約していない場合
- 迷惑電話おことわりサービスを利用する　P.84
  ※ダイヤルインまたはi・ナンバーを契約していない場合

- ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を使う　P.31
- いろいろな設定
  - ・電話のかけ方を詳しく設定する　P.40
  - ・電話の受け方を詳しく設定する　P.41
  - ・電話の音量を調節する　P.43
- 電話帳を使う
  - ・相手先を登録する　P.47
  - ・登録した相手に電話をかける　P.51
  - ・相手によって呼び出し音を変える／迷惑電話を防止する　P.52
- プリ・ダイヤル機能を使う　P.55
- 通話中に他の電話を受ける（擬似キャッチホン）　P.56
- 通話中に他の相手に電話をかける　P.58
- 電話機とFAXを区別する番号を付ける（サブアドレス）　P.60
- 相手に電話番号を通知する／通知しないを設定する（発信者番号通知）　P.62
- パソコンでの通信を気にせずに電話機やFAXを使う（リソースBOD機能）　P.64
- 電話機とFAXに別々の電話番号を付ける（ダイヤルインサービスとグローバル着信）　P.65
- i・ナンバーを利用する　P.67
- フレックスホンを利用する
  - ・キャッチホン（コールウェイティング）　P.71
  - ・三者通話　P.73
  - ・通信中転送　P.76
  - ・着信転送　P.78
- INSボイスワープサービス／マジックボックスを利用する　P.79
  ※ダイヤルインまたはi・ナンバーを契約している場合
- なりわけサービスを利用する　P.81
- 迷惑電話おことわりサービスを利用する　P.84
  ※ダイヤルインまたはi・ナンバーを契約している場合

ルータとして使いましょう

◎WWWブラウザで設定できます

Ethernet上のパソコンからWWWブラウザを使って設定するので、操作が簡単です。
※詳しくは、「2　設定方法について」〈P.22〉を参照してください。

◎自動接続/自動切断できます

パソコンからアクセスする操作を行うと、本製品が自動的に電話をかけて回線を接続します。また、一定時間以上回線上で通信がないと、自動的に回線を切断します。

◎セキュリティ機能が充実しています

次の方法で不正なアクセスなどを防止します。

（1）パスワードや電話番号を使って認証できます。また、登録していない相手先からの着信を拒否できます。
（2）料金、接続時間、自動接続回数などを制限できます。
（3）フィルタを設定して、特定のパケットの処理を指定できます。
（4）やり取りするデータを暗号化できます（本製品同士の通信時あるいはMN128-SOHO SL10 、MN128-SOHO Slotin との通信時のみ）。

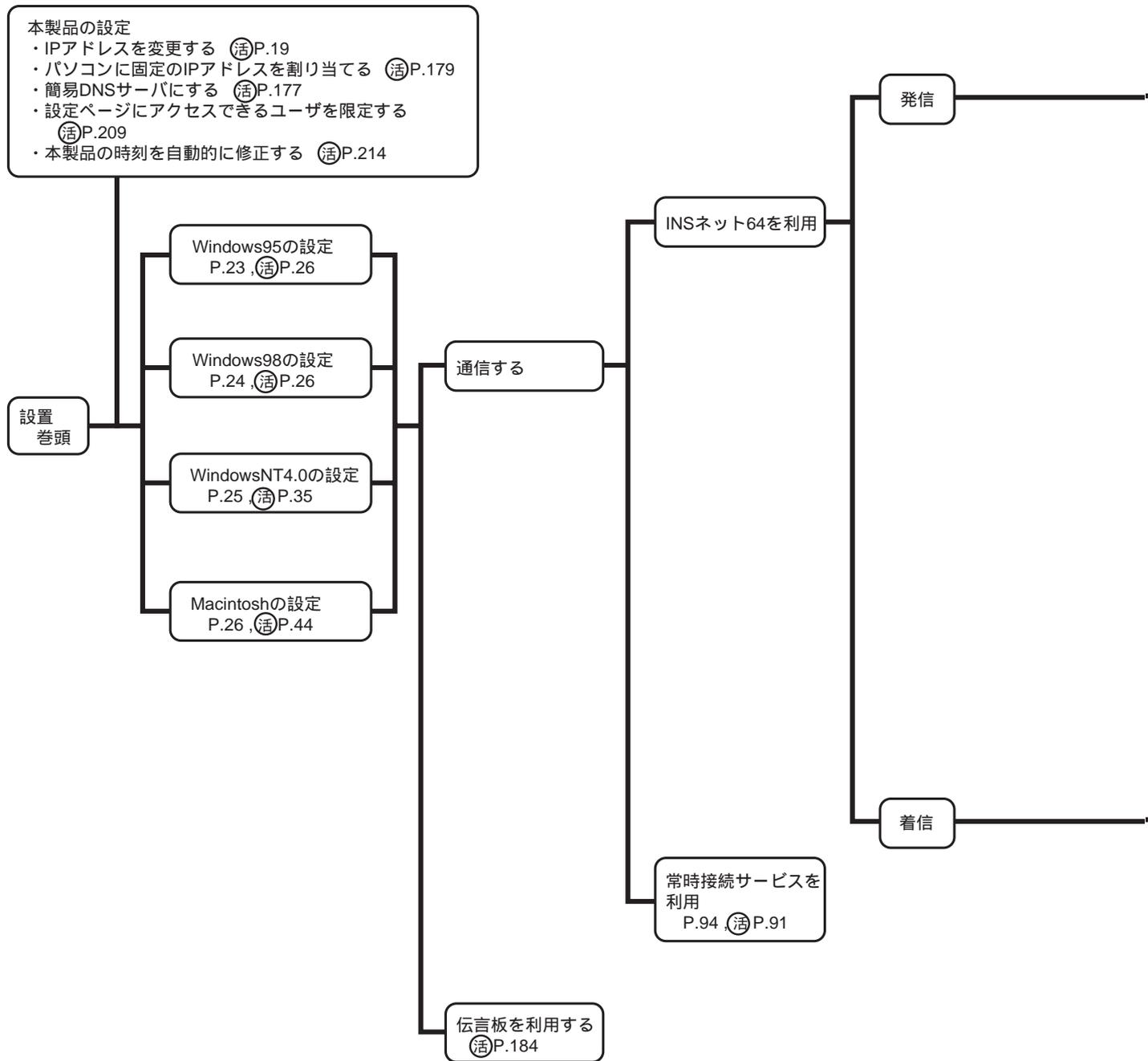
◎こんな機能があります

機能	説明
端末型ダイヤルアップ接続	通信に必要な最小限の設定（接続する相手先の電話番号、ユーザID、パスワードなど）で、接続できます。
LAN型ダイヤルアップ接続	インターネットのほかにも、支社と本社を接続するなどLANとLANとを接続できます（インターネットに接続しない場合は、プライベートIPアドレスを使用できます）。また、VLSMで分割したLAN同士も接続できます。
マルチダイヤル機能	発信時に2個の電話番号を使ったり、自動接続する相手先を2件登録できます。
常時接続サービスに対応	専用線やOCNエコノミーサービスなどの常時接続サービスを利用できます。
メール着信通知機能	パソコンを起動させなくても、設定した時間になると自動的に本製品がプロバイダに回線を接続して、電子メールの有無を確認します。電子メールが着信している場合は、本体前面のLED、液晶ディスプレイなどで通知します。また、認証方法としてPOP3とAPOPに対応しています。
メール転送機能	メール着信通知機能によって着信を確認した電子メールを、あらかじめ設定したメールアドレスに転送することができます。
PHSメール送受信機能	NTT DoCoMoのきゃらトークに対応しているPHS電話機と、メッセージ（PHSメール）を送受信できます。また、本製品同士で送受信することもできます。
リモートアクセスサーバ機能	遠隔地のパソコンから本製品にリモートアクセスして、Ethernet上のパソコンと同様に本製品のルータ機能を使用できます。
コールバック機能	遠隔地からアクセスしてきたときに、一度回線を切って本製品から電話をかけ直すことができます。また、本製品からアクセスするときに、電話をかけ直すことを相手先に要求することもできます。
PIAFS（32Kbps/64 Kbps）に対応	PIAFS通信可能な機器と通信できます。NTT DoCoMoの方式やDDI POCKETの方式のPIAFS 64Kbpsに対応しています。
PPTPに対応	インターネットを利用して、VPN（Virtual Private Network）を構築できます。また、本製品をPPTPサーバにすることもできます。 社内LANにアクセスするときなどにインターネットを利用すると、通信量が安くすむことがあります。
スループットBOD機能/BACP機能	通信時のデータ量に応じて、Bチャネルを1本だけ使用して64Kbpsで通信するか、2本とも使用して128Kbpsで通信するかを自動的に切り替えます。

優先ルーティング機能	データの種類ごとに送受信する優先度を指定できます。特定のサービスを利用したデータを、常に優先して送受信することができます。
INSテレホーダイに対応	自動切断しない時間帯を設定できます。INSテレホーダイの割引時間帯に不要な自動切断を行いません。
RADIUSに対応	LAN内のRADIUSサーバを使って、本製品に着信するユーザの認証やユーザの履歴を一括して管理できます。
AutoDNS™機能/簡易DNSサーバ機能	設定しておくと、異なる相手先に接続するたびに、パソコンのTCP/IP設定（DNSサーバ）を変更するという操作が不要になります。また、本製品を簡易DNSサーバにすることもできます。
AutoNAT™機能	限られたグローバルIPアドレスを有効に使って通信できます。端末型ダイヤルアップ接続の契約をして、プライベートIPアドレスを使用した複数台のパソコンから同時にインターネットを利用できます。
DHCP/BOOTPサーバ機能	設定しておくと、接続しているパソコンに動的にIPアドレスを割り当てます。また、パソコンと割り当てるIPアドレスの組み合わせを固定することもできます。
ソースルーティング機能	特定のプロバイダと通信できるパソコンを限定できます。
SYSLOGに対応	SYSLOGサーバ機能に対応しているパソコンで通信記録などを一括して管理できます。
様々な自動接続制限機能	設定している制限料金を超えると自動接続しない「料金制限機能」や、設定している接続回数を超えると自動接続しない「自動接続回数制限機能」など、様々な制限を設定できます。
暗号化機能	本製品同士を接続して通信するときは、暗号化したデータをやり取りすることができます。
伝言板	WWWブラウザを使って、伝言板を利用できます。本製品のユーザ間の連絡網として使うと便利です。
ユーザアカウント機能	ユーザごとにパスワードを設定して、本製品へのアクセスを限定したり、設定ページでの操作を制限することができます。
時刻修正機能	LAN内あるいは接続中の相手先のNTPサーバに時刻を問い合わせて、本製品に設定されている時刻を自動的に修正することができます。
「RVS-COM 2000」に対応	ドイツRVS社のソフトウェア「RVS-COM 2000」の「ISDN-DCP」に対応しています。ネットワーク上の複数のパソコンを使って、RVS-COM 2000を利用できます。 ※RVS-COM/RVS-COM 2000は、Windows95、Windows98およびWindowsNT4.0に対応しています。Macintoshでは使用できません。 ※添付のCD-ROMに収録されている「RVS-COM Lite for ROUTER」も利用できます。

◎使用目的を確認しましょう

使い方に応じて、必要な手順が異なります。
次の図に従って、マニュアルの参照ページを確認してください。㊗は、活用ガイド CD ROM をご覧ください。

※端末型ダイヤルアップ接続のときは登録する必要ありません。購入時の状態で、複数台のパソコンから同時に相手先にアクセスできます。
ただし、ローカルサーバを外部に公開する場合やアクセスするパソコンを限定する場合は、必要に応じてIPアドレスを変換する組み合わせを登録してください。

TAとして使いましょう

◎こんな機能があります

多彩な通信モード	次のような通信をサポートしています。 ・38.4KbpsまでのV.110通信 ・同期64Kbps通信 ・同期128KbpsのMP通信 ・32Kbps、64KbpsのPIAFS通信 ・38.4Kbps、64Kbps、128KbpsのARA通信 ・64Kbps、128KbpsのHDLC（無手順）通信 ・128Kbpsのバルク通信 ・Dチャネルパケット通信
リソースBOD機能	データ通信で２本のBチャネルでMP通信中でもアナログ機器を使えるように設定できます。
スループットBOD機能／AutoBACP™機能	MP通信時に２本のBチャネルの回線の通信量に応じて、使用するチャネル数を自動的に増減できます。 接続・切断作業をスムーズに行うことができます。
LAS（ローカルアクセスサーバ）機能	DTEポートのパソコンをEthernetのLANの一員にすることによって、DTEポートのパソコンでも本製品のルータ機能を使ったり、ネットワーク上の資源を利用したりすることができます。
常時接続サービスに対応	専用線やOCNエコノミーサービスなどの常時接続サービスに対応しています。
RVS-COMに対応	ドイツRVS社のソフトウェア「RVS-COM」「RVS-COM 2000」に対応しています。TA FAX機能により、パソコンからFAXのデータを送受信することができます。 ※RVS-COM、RVS-COM 2000は、Windows95、Windows98およびWindowsNT4.0に対応しています。Macintoshでは使用できません。 ※添付のCD-ROMに収録されている「RVS-COM Lite for ROUTER」も利用できます。

◎使用目的を確認しましょう
使い方に応じて、必要な手順が異なります。
次の図に従って、マニュアルの参照ページを確認してください。㊌は、活用ガイド CD-ROM をご覧ください。

設定方法について

本製品を設定する方法には、次の5種類があります。

Ethernet上のパソコンから簡単設定ソフトを使う

本製品のEtherポートにつないだパソコンから、簡単設定ソフト「設定らくだ」を使って設定する方法です（Windows 95/98)。
「設定らくだ」は、本製品のEthernetポートにパソコンをつなぐ方法やパソコンのTCP/IPの設定方法などを順に解説しています。
解説どおりに操作をすると、インターネットにアクセスできます。
- 設置する（本製品のEtherポートにWindows95/98をつなぐなど）
- Windows95/98のTCP/IPを設定する
- プロバイダに端末型ダイヤルアップ接続する

※「設定らくだ」は、Windows95/98に対応しています。
※添付のCD-ROMの［WIN］フォルダ→［S_RAKUDA］フォルダに収録されています。

Ethernet上のパソコンから設定ページを使う

本製品のEtherポートにつないだパソコンから、WWWブラウザの設定ページを使って設定する方法です。
次の設定をするときに使います。
- アナログ機能の設定をするとき
  →参照　P.28「4　電話機やFAXを使いましょう」
- ルータ機能の設定をするとき
  →参照　P.87「5　インターネットにアクセスしましょう～Ethernet上のパソコンから～」
- 液晶ディスプレイなど、本体の設定をするとき
  →参照　リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　設定ページリファレンス」

※設定ページを開くまでの操作については、「3　設定の準備をしましょう」〈P.23〉を参照してください。

DTEポートのパソコンからATコマンドを使う

本製品のDTEポートにつないだパソコンから、ATコマンドを入力して設定する方法です。
次の設定をするときに使います。
- アナログ機能の設定をするとき
- TA機能の設定をするとき
- 一部のルータ機能の設定をするときや、Etherポートのパソコンから設定ページを開けなくなったとき
- 液晶ディスプレイなど、本体の設定をするとき
  →参照　リファレンス・ハンドブック「1　設定方法について」の「DTEポートのパソコンからATコマンドを使って」

電話機から設定コードを使う

本製品のアナログポートに接続した電話機のプッシュボタンを押すことによって、設定コードを入力して設定する方法です。
次の設定をするときに使います。
- アナログ機能の設定をするとき
- 一部のルータ機能の設定をするときや、Etherポートのパソコンから設定ページを開けなくなったとき
- 液晶ディスプレイなど、本体の設定をするとき
  →参照　リファレンス・ハンドブック「電話機からの設定操作について」

DTEポートのパソコンからアップデータを使う

本製品のDTEポートにつないだパソコンから、アップデータ「MNMASTER11」を使って設定する方法です（Windows95/98、Macintosh)。
次の設定をするときに使います。
- アナログ機能の設定をするとき
- TA機能の設定をするとき
- 液晶ディスプレイなど、本体の設定をするとき

※「MNMASTER11」は、Windows95/98とMacintoshに対応しています。
Windows95/98用は、添付のCD-ROMの［WIN］フォルダ→［MNMASTER］フォルダに収録されています。
Macintosh用は、添付のCD-ROMの［MAC］フォルダ→［MNMASTER］フォルダに収録されています。
※「MNMASTER11」の使い方については、各フォルダ内のREADMEファイルを参照してください。

3 設定の準備をしましょう

Windows95編

Ethernet上のすべてのパソコンに、TCP/IPの設定を行ってください。TCP/IPの設定は、最初に1度行えば、あとは必要ありません。

※ここでは、本製品を購入時の状態で使用する場合の設定について解説します。購入時には、本製品のDHCP/BOOTPサーバ機能とAutoDNS機能がONです。
購入時の設定を変更した場合は、活用ガイド CD-ROM 第１部「第１章　LAN環境を整える」を参照してください。

設定しましょう

◎TCP/IPプロトコルが必要です

TCP/IPプロトコルがパソコンにインストールされているかどうか確認してください。
TCP/IPプロトコルは、Windows95に付属しています。コントロールパネルの［ネットワーク］に［TCP/IP->＊＊＊＊＊＊＊（Ethernetボードの種別）］が表示されない場合は、インストールしてください。

※「＊＊＊＊＊＊＊」に表示される内容は、使用しているEthernetボードによって異なります。

※インストールは、［コントロールパネル］の［ネットワーク］で［追加］ボタンをクリックします。詳しくは、Windows95のヘルプなどを参照してください。また、インストールしても表示されない場合は、［コントロールパネル］→［システム］→［デバイスマネージャ］→［ネットワークアダプタ］で、使用可能になっているか確認してください。使用可能にしても表示されない場合は、Ethernetボードの取扱説明書を参照してください。

1 パソコンをつないだ本製品の電源をONにします。

2 ［コントロールパネル］の［ネットワーク］を選択します。

3 ［現在のネットワーク構成］のリストから［TCP/IP->＊＊＊＊＊＊＊（Ethernetボードの種別）］を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。
※［TCP/IP->ダイヤルアップアダプタ］を選択しないように注意してください。

1：［IPアドレス］のタブをクリック
2：［IPアドレスを自動的に取得］を選択

4 ［OK］ボタンをクリックし、次のダイアログでも［OK］ボタンをクリックします。

5 ［ネットワーク］の設定を変更した場合は、パソコンを再起動する必要があります。表示されたメッセージに対して［はい］ボタンをクリックし、パソコンを再起動してください。

以上で、Windows95の設定は終わりです。「設定ページを開きましょう」〈P.27〉に進んでください。

One Point!

◇設置から端末型ダイヤルアップ接続まで行う簡単設定ソフト「設定らくだ」
「設定らくだ」は、本製品のEthernetポートにパソコンをつなぐ方法やパソコンのTCP/IPの設定方法などを順に解説しています。解説どおりに操作するだけでプロバイダに端末型ダイヤルアップ接続できます。
詳しくは、「2　設定方法について」〈P.22〉を参照してください。

◇IPアドレスを確認するには
動的に取得したIPアドレスは、「winipcfg.exe」というアプリケーションを使って確認することができます。
→参照　P.106「設定ページが開かない（Windows95/98編）」

◇以前、TCP/IPの設定を行ったことがあるとき
設定を次のように変更してください。
DNS設定：［DNSを使わない］を選択
ゲートウェイ：［インストールされているゲートウェイ］からすべてのIPアドレスを削除

Windows98編

Ethernet上のすべてのパソコンに、TCP/IPの設定を行ってください。TCP/IPの設定は、最初に1度行えば、あとは必要ありません。

※ここでは、本製品を購入時の状態で使用する場合の設定について解説します。購入時には、本製品のDHCP/BOOTPサーバ機能とAutoDNS機能がONです。
購入時の設定を変更した場合は、活用ガイド CD-ROM 第１部「第１章　LAN環境を整える」を参照してください。

設定しましょう

◎TCP/IPプロトコルが必要です

TCP/IPプロトコルがパソコンにインストールされているかどうか確認してください。

TCP/IPプロトコルは、Windows98に付属しています。コントロールパネルの［ネットワーク］に［TCP/IP->＊＊＊＊＊＊＊（Ethernetボードの種別）］が表示されない場合は、インストールしてください。

※「＊＊＊＊＊＊＊」に表示される内容は、使用しているEthernetボードによって異なります。

※インストールは、［コントロールパネル］の［ネットワーク］で［追加］ボタンをクリックします。詳しくは、Windows98のヘルプなどを参照してください。また、インストールしても表示されない場合は、［コントロールパネル］→［システム］→［デバイスマネージャ］→［ネットワークアダプタ］で、使用可能になっているか確認してください。使用可能にしても表示されない場合は、Ethernetボードの取扱説明書を参照してください。

1 パソコンをつないだ本製品の電源をONにします。

2 ［コントロールパネル］の［ネットワーク］を選択します。

3 ［現在のネットワークコンポーネント］のリストから［TCP/IP->＊＊＊＊＊＊＊（Ethernetボードの種別）］を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。
※［TCP/IP->ダイヤルアップアダプタ］を選択しないように注意してください。

1：［IPアドレス］のタブをクリック
2：［IPアドレスを自動的に取得］を選択

4 ［OK］ボタンをクリックし、次のダイアログでも［OK］ボタンをクリックします。

5 ［ネットワーク］の設定を変更した場合は、パソコンを再起動する必要があります。表示されたメッセージに対して［はい］ボタンをクリックし、パソコンを再起動してください。

以上で、Windows98の設定は終わりです。「設定ページを開きましょう」〈P.27〉に進んでください。

One Point!

◇設置から端末型ダイヤルアップ接続まで行う簡単設定ソフト「設定らくだ」
「設定らくだ」は、本製品のEthernetポートにパソコンをつなぐ方法やパソコンのTCP/IPの設定方法などを順に解説しています。解説どおりに操作するだけでプロバイダに端末型ダイヤルアップ接続できます。
詳しくは、「2　設定方法について」〈P.22〉を参照してください。

◇IPアドレスを確認するには
動的に取得したIPアドレスは、「winipcfg.exe」というアプリケーションを使って確認することができます。
→参照　P.106「設定ページが開かない（Windows95/98編）」

◇以前、TCP/IPの設定を行ったことがあるとき
設定を次のように変更してください。
DNS設定：［DNSを使わない］を選択
ゲートウェイ：［インストールされているゲートウェイ］からすべてのIPアドレスを削除

WindowsNT4.0編

Ethernet上のすべてのパソコンに、TCP/IPの設定を行ってください。TCP/IPの設定は、最初に1度行えば、あとは必要ありません。
※ここでは、本製品を購入時の状態で使用する場合の設定について解説します。購入時には、本製品のDHCP/BOOTPサーバ機能とAutoDNS機能がONです。

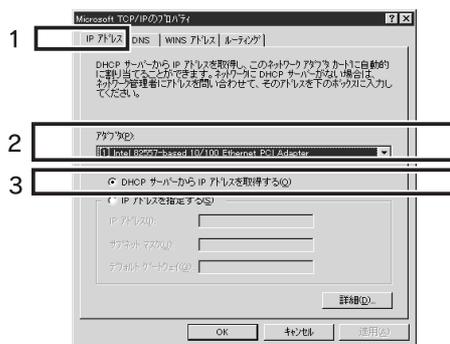
購入時の設定を変更した場合は、活用ガイド CD ROM 第１部「第１章　LAN環境を整える」を参照してください。

Setting 設定しましょう

◎TCP/IPプロトコルが必要です
TCP/IPプロトコルがパソコンにインストールされているかどうか確認してください。
TCP/IPプロトコルは、WindowsNT4.0に付属しています。コントロールパネルの［ネットワーク］に［TCP/IP→＊＊＊＊＊＊＊（Ethernetボードの種別)］が表示されない場合は、インストールしてください。
※「＊＊＊＊＊＊＊」に表示される内容は、使用しているEthernetボードによって異なります。
※インストールは、［コントロールパネル］の［ネットワーク］で［追加］ボタンをクリックします。詳しくは、WindowsNT4.0のヘルプなどを参照してください。また、インストールしても表示されない場合は、［コントロールパネル］→［システム］→［デバイスマネージャ］→［ネットワークアダプタ］で、使用可能になっているか確認してください。使用可能にしても表示されない場合は、Ethernetボードの取扱説明書を参照してください。

1 パソコンをつないだ本製品の電源をONにします。

2 ［コントロールパネル］の［ネットワーク］を選択します。

3 ［ネットワークプロトコル］のリストから［TCP/IPプロトコル］を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。
※［TCP/IP→ダイヤルアップアダプタ］を選択しないように注意してください。

１：［IPアドレス］のタブをクリック
２：［アダプタ］で使用するEthernetボードを選択
３：［DHCPサーバーからIPアドレスを取得する］を選択

4 ［OK］ボタンをクリックし、次のダイアログでも［OK］ボタンをクリックします。

5 ［ネットワーク］の設定を変更した場合は、パソコンを再起動する必要があります。表示されたメッセージに対して［はい］ボタンをクリックし、パソコンを再起動してください。

以上で、WindowsNT4.0の設定は終わりです。「設定ページを開きましょう」〈P.27〉に進んでください。

One Point!

◇IPアドレスを確認するには
動的に取得したIPアドレスは、「コマンドプロンプト」というアプリケーションを使って確認することができます。［コマンドプロンプト］ウィンドウで、次のコマンドを入力してください。
→参照　P.109「設定ページが開かない（WindowsNT4.0編）」
ipconfig［Enter］

◇以前、TCP/IPの設定を行ったことがあるとき
設定を次のように変更してください。
DNS設定 ：［ドメイン］に入力されている文字列を削除
［DNSサービスの検索順序］に入力されている文字を削除

3

設定の準備をしましょう

Macintosh編

Ethernet上のすべてのパソコンに、TCP/IPの設定を行ってください。TCP/IPの設定は、最初に1度行えば、あとは必要ありません。
※ここでは、本製品を購入時の状態で使用する場合の設定について解説します。購入時には、本製品のDHCP/BOOTPサーバ機能とAutoDNS機能がONです。

購入時の設定を変更した場合は、活用ガイド CD-ROM 第１部「第１章　LAN環境を整える」を参照してください。

設定しましょう

◎TCP/IPプロトコルが必要です
TCP/IPプロトコルがパソコンにインストールされているかどうか確認してください。
コントロールパネルに［TCP/IP］（MacintoshのOSのバージョンによってはMacTCP）が表示されない場合は、インストールしてください。

TCP/IPの場合

1 パソコンをつないだ本製品の電源をONにします。

2 ［コントロールパネル］から［TCP/IP］を選択します。

１：［Ethernet］あるいは［内蔵Ethernet］を選択
２：［DHCPサーバを参照］を選択

3 クローズボックスをクリックして、［TCP/IP］を閉じます。

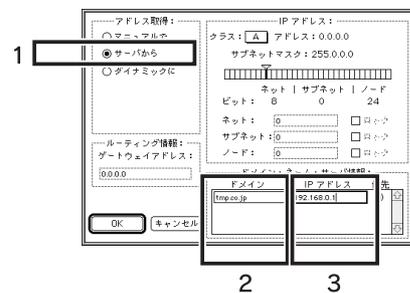
4 ［保存の確認］ダイアログが表示されるので、［はい］ボタンをクリックします。

以上で、Macintosh（TCP/IP）の設定は終わりです。次のページの「設定ページを開きましょう」に進んでください。

MacTCPの場合

1 パソコンをつないだ本製品の電源をONにします。

2 ［コントロールパネル］から［MacTCP］を選択します。
［Ethernet］あるいは［内蔵Ethernet］を選択します。

3 ［詳しく］ボタンをクリックします。

１：［サーバから］を選択
２：プロバイダと契約したときに指定されたドメイン名を入力
３：本製品のIPアドレスを入力（購入時の本製品のIPアドレスは、「192.168.0.1」）

4 ［OK］ボタンをクリックします。

5 クローズボックスをクリックして、［MacTCP］を閉じます。

6 ［MacTCP］の設定を変更した場合は、パソコンを再起動してください。

以上で、Macintosh（MacTCP）の設定は終わりです。次のページの「設定ページを開きましょう」に進んでください。

設定ページを開きましょう

◎WWWブラウザが必要です

本製品の設定をするときは、WWWブラウザから本製品の設定ページを開きます。本製品に付属のCD-ROMには、「Microsoft Internet Explorer」が収録されています。お使いのパソコンのハードディスクにWWWブラウザがインストールされていないときは、CD-ROMからインストールしてください。

※「Microsoft Internet Explorer」は、次のフォルダに収録されています。
　Windows95/98/NT4.0用　：［WIN］→［SOFTWARE］フォルダ
　Macintosh用　：［MAC］→［SOFTWARE］フォルダ

※WWWブラウザは、フレームやJAVAスクリプトに対応しているものを用意してください。
（例：Microsoft Internet Explorer3.0以上、Netscape Navigator2.0以上など）

操作しましょう

1 WWWブラウザを起動します。

2 ホームページのURLを入力する欄に、「http://192.168.0.1/」、あるいは「http://setup.mn128-soho/」と入力し、［Enter］キーを押します。
※「http://setup.mn128-soho/」で設定ページを開けるのは、AutoDNS機能がONになっている場合だけです。

クイック設定ページが表示されます。

! Trouble ? 設定ページが開かないときは
→参照　P.106、109

One Point!

◇設定ページを開こうとするとユーザIDを要求されるとき

本製品の管理者に、ユーザIDとパスワードを確認してください。ユーザIDなどの設定については、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-22　パスワードを設定して、設定ページへのアクセスを制限する（ユーザアカウント機能）」を参照してください。

◇本製品の日付と時刻

本製品の日付と時刻は、購入時「1996年1月1日00:00」に設定されています（液晶ディスプレイには、「----/--/--　--:--」と表示されます）。

クイック設定ページで設定すると自動的に、設定を行ったパソコンの日付と時刻の値が本製品に設定されます。ただし、本製品の電源をOFFにして24時間経過すると、購入時の設定に戻ります。

手動で設定する場合は、次のように操作します。

1. WWWブラウザを起動し、本製品の設定ページを開きます。
2. 画面左側の「→詳細設定」の文字をクリックし、［ルータ設定（本体）］画面を開きます。
   ※ほかのページが表示された場合は画面左側の「ルータ設定」→「本体」の文字をクリックします。
3. ［設定する日付と時刻］に正しい日付と時刻を入力します。
4. 入力後、［設定］ボタンをクリックします。

詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　設定ページリファレンス」を参照してください。

◇クイック設定のページとは

Ethernet上のパソコンを使って通信するときに使用します。

→参照　P.87「設定方法を確認しましょう」

◇電話機やFAXの使い方を設定する［アナログ設定］画面を開くには

画面左側の「→詳細設定」の文字をクリックします。詳細設定ページが開くので、画面左側の「アナログ設定」の下の文字をクリックします。

アナログポートの設定方法について

本製品に接続した電話機やFAXは、すぐに使えます。
さらに、アナログポートの設定を行うと、本製品の機能を使いこなすことができます。

◎4種類の設定方法

アナログポートの設定方法には、次の4種類があります。

・設定ページ：Etherポートに接続したパソコンでWWWブラウザを使います。ただし、設定ページへのアクセス権が設定されている場合は、設定ページから設定できないことがあります（下の「お願い」を参照）。
・ATコマンド：DTEポートに接続したパソコンでターミナルソフトを使います。
・設定コード：アナログポートに接続した電話機を使います。
・設定ユーティリティ：DTEポートに接続したパソコンでアップデータ「MNMASTER11」を使います。

◎このマニュアルでは

4種類の設定方法の中で比較的簡単な、「設定ページ」で設定する方法を中心に解説しています。
設定ページの設定項目に対応するATコマンドと設定コード（アナログポートに接続した電話機から設定するときに押すコード）があるときは、手順の中で紹介していますので、参考にしてください。
ATコマンドおよび設定コードで設定する方法について詳しくは、リファレンス・ハンドブックを参照してください。

◇設定ページへのアクセス権について

「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定ページから設定できません。また、設定ページからの操作が制限されることがあります。その場合は、管理者に相談してください。
アクセス権の設定について詳しくは、活用ガイド CD ROM 第1部「5-22　パスワードを設定して、設定ページへのアクセスを制限する（ユーザアカウント機能）」を参照してください。
なお、設定ページ以外の方法（ATコマンド、設定コード、設定ユーティリティ）でアナログポートの設定する場合、制限はありません。

One Point!

◇アップデータ「MNMASTER11」について

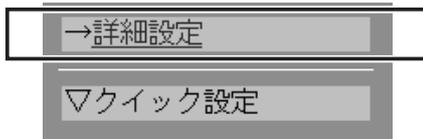
Windows95/98用は、添付のCD-ROMの［WIN］フォルダ→［MNMASTER］フォルダに収録されています。
Macintosh用は、添付のCD-ROMの［MAC］フォルダ→［MNMASTER］フォルダに収録されています。
「MNMASTER11」の使い方については、［MNMASTER］フォルダ内のREADMEファイルを参照してください。

アナログポート設定ページを開きましょう

Trying

1 本製品の設定ページを開きます。

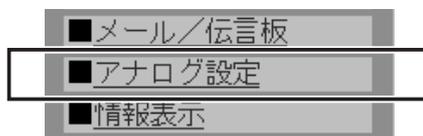
→参照　P.27「設定ページを開きましょう」

2 画面左側の［→詳細設定］の文字をクリックします。

→詳細設定

▽クイック設定

画面左側に詳細設定のメニューが表示されます。

※ すでに詳細設定のメニューが表示されている場合、「→クイック設定」と表示されています。

3 画面左側の［アナログ設定］の文字をクリックします。

［アナログ設定］の文字の下に、項目名が表示されます。

4 項目名をクリックすると、各設定画面が表示されます。

ポートごと：「アナログ設定（ポートごと）」画面が表示されます。

ポート共通：「アナログ設定（ポート共通）」画面が表示されます。

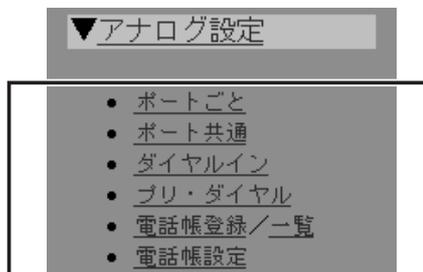
ダイヤルイン：「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面が表示されます。

プリ・ダイヤル：「アナログ設定（プリ・ダイヤル）」画面が表示されます。

電話帳登録／一覧：［電話帳登録］の部分をクリックすると「アナログ設定（電話帳登録）」画面、［一覧］の部分をクリックすると「アナログ設定（電話帳一覧）」画面が表示されます。

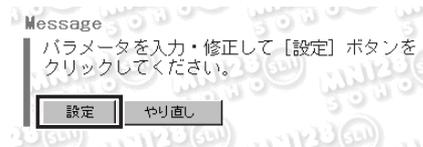
電話帳設定：「アナログ設定（電話帳設定）」画面が表示されます。

▼アナログ設定

- ポートごと
- ポート共通
- ダイヤルイン
- プリ・ダイヤル
- 電話帳登録／一覧
- 電話帳設定

5 それぞれのページで必要な項目を入力したら、［設定］ボタン（「アナログ設定（電話帳登録）」画面では［実行］ボタン）をクリックします。

設定内容が本製品に書き込まれます。

※入力を間違えたときは、［やり直し］ボタンをクリックして、初めから入力し直してください。

Message
パラメータを入力・修正して［設定］ボタンをクリックしてください。
設定　やり直し

One Point!

◇制限事項

「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、［設定］ボタンは表示されません。

電話機やFAXを使う前に

アナログ機器を使う前に、本製品に接続したアナログ機器の種類を設定します。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます。

2 アナログ機器を接続しているポートを確認します。

そのポートの［ポート接続機器］から、該当する項目を選びます。

・ATコマンドでは：@E
・設定コードでは：32

電話：電話機を接続しているとき（購入時の設定です。）

モデム／FAX機能付電話：モデム、またはFAX機能がついた電話機を接続しているとき

ファクシミリ：FAXを接続しているとき

サイレントFAX1：FAXを接続しているとき（着信時、機器種別のデータを識別し、相手側の機器がファクシミリのときにFAXの呼び出し音を無音にする）

サイレントFAX2：FAXを接続しているとき（着信時、無条件にFAXの呼び出し音を無音にする）

※ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイに対応した電話機（またはアダプタ）を使用するときは、さらに［ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ機能］で「ナンバー・ディスプレイのみ使用する」または「両方使用する」を選んでください。

→参照　P.31「ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を使用できます」

3［設定］ボタンをクリックします。

ATコマンドでは：@B

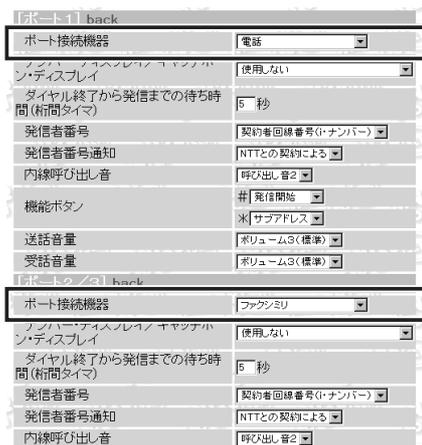
One Point!

◇アナログポート2とアナログポート3について

アナログポート2と3は、合わせて1つのポートと見なされます。片方のポートを使っている間は、もう片方のポートは使えません。設定もアナログポート2と3で共通になります。

◇停電時の使用について

停電時には、アナログポート1だけが乾電池によってバックアップされます。電話機など、停電時にも使いたいアナログ機器は、アナログポート1につないでください。

→参照　巻頭ページ「本製品を設置しましょう」の「停電のときは」

ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を使用できます

本製品にナンバー・ディスプレイに対応した電話機（またはアダプタ）を接続すると、電話機（またはアダプタ）のディスプレイに、相手の電話番号（発信電話番号）などが表示されます。

また、キャッチホン・ディスプレイに対応した電話機を接続すると、通話中に別の相手から着信があった場合、電話をかけてきた相手の電話番号（発信電話番号）などが電話機のディスプレイに表示されます。

表示できる内容は、次のとおりです。

相手の電話番号（発信電話番号）：相手が電話番号を通知して電話をかけてきた場合、相手の通知する電話番号が表示されます。内線電話のときは「0」と表示されます。

発信電話番号非通知理由：相手の電話番号が非通知だったときなど、何らかの理由で発信電話番号を取得できない場合は、その理由が表示されます。

着番号：相手がダイヤルした番号（=自分側の電話番号）が表示されます。

※使用する電話機の機種によっては、表示される内容が異なることがあります。また、内容が正しく表示されないことがあります。

契約 NTT

ナンバー・ディスプレイ（有料）

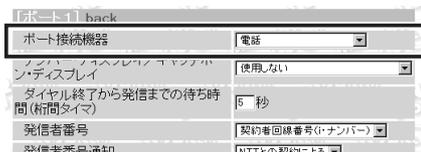
※NTTとの契約が必要です。ただし、相手がISDN回線、携帯電話およびPHSから電話をかけてくる場合は、契約しなくても利用できます。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

※キャッチホン・ディスプレイは、ナンバー・ディスプレイのオプション機能です。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます。

2 ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイに対応した電話機（またはアダプタ）をつないでいるポートの［ポート接続機器］で、該当する項目を選びます。

・ATコマンドでは：@E
・設定コードでは：32

3 ［ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ］で次の中から選びます。

使用しない：ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイを使用しないときに選びます

ナンバー・ディスプレイのみ使用する：ナンバー・ディスプレイだけを使用するときに選びます

両方使用する：ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイを両方とも使用するときに選びます

・ATコマンドでは：@E
・設定コードでは：32

[ポート1] back
ポート接続機器　電話
ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ　使用しない
ダイヤル終了から発信までの待ち時間(桁間タイマ)　5 秒
発信者番号　契約者回線番号(i･ナンバー)
発信者番号通知　NTTとの契約による

4 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

※「両方使用する」を選んだときは、「擬似キャッチホン（マルチアンサー）」または「キャッチホン（コールウェイティング）」の設定が必要です。

→参照　p56「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」
→参照　p71「フレックスホンを利用できます（2）キャッチホン（コールウェイティング）を利用しましょう」

One Point!

◇制限事項

・ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイに対応していない電話機（またはアダプタ）をつないでいる場合は、これらの機能を使用する設定にしないでください。誤動作することがあります。
・ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を1台使う場合は、ポート1につないでください。ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を2台、または通常の電話機とナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ対応電話機を１台ずつ使う場合は、ポート1とポート2、またはポート1とポート3につないでください。
・手順３で「ナンバー・ディスプレイ機能のみ使用する」または「両方使用する」を選択すると、相手側からの呼び出しから実際に自分側の呼び出し音が鳴るまでに、しばらく時間がかかります。
・使用する電話機（またはアダプタ）の機種によっては、発信電話番号や発信電話番号非通知理由が正しく表示されないことがあります。
・Bチャネルをデータ通信や電話回線で2本とも使っているときは、発信電話番号や発信電話番号非通知理由を表示できません。

One Point!

◇制限事項

ナンバーディスプレイ対応FAXをお使いの場合は、次のような制限があります。

・こちらから発信しても、相手先の機器によっては接続できないことがあります。
・擬似キャッチホン（マルチアンサー）またはキャッチホン（コールウェイティング）を利用できる設定にしている場合は、FAX通信中に着信があると、呼び出され、正しく通信できなくなることがあります。

電話をかけてみましょう／受けてみましょう

外線電話をかけましょう

1 受話器を上げて、発信音を確認します。

2 相手先の電話番号をダイヤルします。

※ISDN回線では、ダイヤルしてから発信するまでに時間がかかります（この時間は別途設定できます）。すぐに発信したいときは、最後に［#］ボタンを押します。

One Point!

◇ダイヤルしてから発信するまでの時間を設定するには
→参照　P.40「電話のかけ方を詳しく設定しましょう」の「ダイヤル終了から発信までの待ち時間を設定しましょう」

◇すぐに発信したいときに押すボタンを変えるには
［＊］ボタンに変えることができます。
→参照　P.40「電話のかけ方を詳しく設定しましょう」の「［#］［＊］ボタンの機能を設定しましょう」

◇「110」「119」「171（災害用伝言ダイヤル）」に電話をかけるときは
電話番号をダイヤルすると、［#］ボタンを押さなくても、すぐに発信します。

◇サブアドレスのある電話番号に電話をかけるには
サブアドレスの前に［＊］ボタンを押してダイヤルします。
例）電話番号：03-1234-5678　サブアドレス：01にかけるとき
→「0312345678*01」とダイヤル

なお、サブアドレスの前に押すボタンを、［#］ボタンに変えることができます。
→参照　P.40「電話のかけ方を詳しく設定しましょう」の「［#］［＊］ボタンの機能を設定しましょう」

外線電話を受けましょう

1 呼び出し音が鳴ります。

2 受話器を上げて、相手と話します。

3 話が終わったら、受話器を置きます。

One Point!

◇呼び出し音を変えるには
呼び出し音には、“リーン・リーン～”“リーンリン・リーンリン～”“リンリンリン・リンリンリン～”の3種類があり、設定によって変えられます。購入時は“リーン・リーン～”に設定されています。
→参照　P.41「電話の受け方を詳しく設定しましょう」の「外線着信時の呼び出し音を設定しましょう」

◇相手を呼び出し音で識別したり、拒否したりするとき
電話帳に登録した相手から電話がかかってきたときの呼び出し音を変えたり、着信を拒否するように設定できます。
→参照　P.47「相手先を登録しましょう」

また、電話をかけてきた相手の条件（電話帳に登録されていない、発信者番号を通知していないなど）によっても、呼び出し音を変えたり、着信を拒否するように設定できます。
→参照　P.52「電話をかけてきた相手の条件によってなりわけ／迷惑電話の防止を設定しましょう」

他のアナログポートの電話機で応答しましょう（代理応答）

1つのアナログポートで鳴っている電話を、空いている他のアナログポートの電話機で取ることができます。離れた場所で鳴っている電話を取るときに便利です。

1 1つのポートの電話機で、呼び出し音が鳴ります。

2 他のポートの電話機の受話器を上げて、フックを1回押します。
“ プップップッ ” と聞こえます。

3 ［#］→［#］と押します。

電話をかけてきた相手と、他のポートの電話機で通話できます。

One Point!

◇制限事項
他のアナログポートが使用中のとき、および保留されている外線があるときは、この操作はできません。

内線電話をかけましょう

通常の発信をするには

1 受話器を上げて、発信音を確認します。

2 フックを1回押します。

“ プップップッ ” と聞こえます。

3 ［0］ボタンを押します。

すぐに発信するには

1 受話器を上げて、発信音を確認します。

2 ［＊］ボタンを押し、続けて［0］ボタンを押します。

One Point!

◇すぐに発信できないようにするには
設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面の［内線の直接発信］で「しない」を選択します。（ATコマンドでは：@S／設定コードでは：73）

◇内線の呼び出し音を変えるには
設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面の［内線呼び出し音］で、次の中から選びます。（ATコマンドでは：@H／設定コードでは：42）
※使用する電話機によっては、ここで設定しても呼び出し音が変わらない場合があります。
呼び出し音1：“ リーン・リーン ”
呼び出し音2：“ リーンリン・リーンリン ”（購入時の設定です。）
呼び出し音3：“ リンリンリン・リンリンリン ”

同じ電話番号にかけ直しましょう（リダイヤル）

簡単な操作で、最後にかけた電話番号にかけ直すことができます。電話をかけた相手が話し中でかけ直すときなどに便利です。

1 受話器を上げて、発信音を確認します。

2 ［#］→［＊］→［0］と押します。
最後にかけた電話番号に、もう一度発信します。

本製品につながった他の電話機に転送できます

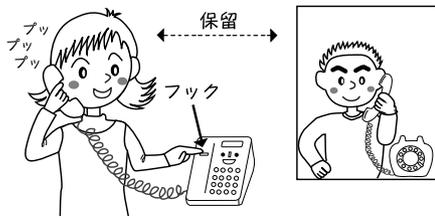
**通話している外線電話を、本製品の別のアナログポートにつないだアナログ機器へ内線転送できます。
※アナログポート1と2、またはアナログポート1と3の間で内線転送できます。アナログポート2と3の間ではできません。**

操作しましょう

他のアナログポートが応答する前に転送するとき

1 **通話中にフックを1回押します。**

“ プップップッ ”と聞こえます。

※ 外線電話に戻りたいときは、“ プップップッ ”と聞こえている間に、フックを押してください。

2 **“ プップップッ ”と聞こえている間に、［0］ボタンを押します。**

内線呼び出し音が聞こえます。

相手側には、“ ププッププッ ”という保留音が聞こえます。

3 **相手が応答する前に、受話器を置きます。**

相手が応答すると、相手と外線電話との通話になります。

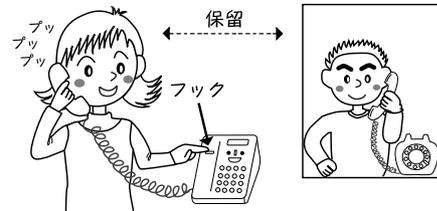
※ 受話器を置いた後は、外線電話に戻ることはできません。

※ 転送する相手が70秒以上応答しない場合、外線電話は切れます。

他のアナログポートが応答した後に転送するとき

1 **通話中にフックを1回押します。**

“ プップップッ ”と聞こえます。

※ 外線電話に戻りたいときは、“ プップップッ ”と聞こえている間に、フックを押してください。

2 **“ プップップッ ”と聞こえている間に、［0］ボタンを押します。**

内線呼び出し音が聞こえます。

相手側には、“ ププッププッ ”という保留音が聞こえます。

3 **相手が応答したら、電話を転送することを伝えて、受話器を置きます。**

転送する相手が話し中のときは、フックを押してください。外線電話に戻ります。

**※ 転送する相手が先に電話を切ったときは、話し中音が聞こえます。話し中音が聞こえている間に、フックを押してください。
外線電話に戻ります。**

One Point!

◇制限事項
- **アナログポート2と3の間では、内線転送できません。**
- **通話中発信の機能〈P.58〉を使用する設定にしているときは、内線転送できません。**
- **フレックスホンの三者通話〈P.73〉や通信中転送〈P.76〉を利用する設定にしているときは、内線転送できません。**

◇外線電話に戻りたいとき
「他のアナログポートが応答する前に転送するとき」の手順１、および「他のアナログポートが応答した後に転送するとき」の手順１と手順３で、フックを押す代わりに受話器を置くと、内線呼び出し音が鳴ります。受話器を上げると、外線電話に戻ります。

◇FAXを電話機で受けてしまったときは
受話器を上げると、“ ピー ”というFAX送信の機械音が聞こえることがあります。この場合、「他のアナログポートが応答する前に転送するとき」の手順にしたがって、他のアナログポートにつないでいるFAXに内線転送することができます。

過去にかかってきた相手の電話番号が音声で分かります（擬似ナンバー・アナウンス+折り返し発信／電話帳登録／迷惑電話防止）

電話機から操作すると、過去にかかってきた相手の電話番号が、音声でアナウンスされます。NTTのナンバー・アナウンスのサービスと同じような機能です。
この機能には、次の2種類があります。
・直前にかかってきた相手の電話番号を聞く
・過去にかかってきた5件までの相手の電話番号を聞く

また、続けて次のような操作ができます。
・アナウンスされた番号に折り返し電話をかける
・アナウンスされた番号を電話帳に登録する
・アナウンスされた番号を次回から着信できないように電話帳に登録する（迷惑電話防止）

INSナンバー・ディスプレイ（有料）
※NTTとの契約が必要です。ただし、相手がISDN回線、携帯電話およびPHSから電話をかけてくる場合は、契約しなくても利用できます。サービス内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

Trying 操作しましょう

直前にかかってきた相手の電話番号を聞くとき

1 受話器を上げて、フックを1回押します。

“ プップップッ ” と聞こえます。

2 “ プップップッ ” と聞こえている間に、「136」とダイヤルします。

直前にかかってきた相手の電話番号が、音声でアナウンスされます。
本体前面の液晶ディスプレイには、相手の電話番号と、電話がかかってきた時刻が表示されます。

※ 相手が電話番号を通知せずにかけてきた場合、番号の代わりに「ありません」とアナウンスされます。本体前面の液晶ディスプレイには、発信者番号非通知理由が表示されます。

※ 電話がかかってこなかった場合、“ ピピピピ ” と聞こえます。液晶ディスプレイには、「キロクサレテイマセン」と表示されます。

3 番号のアナウンスの後、続けて次の操作を行うことができます。

（1）その番号に折り返し電話をかける
　→［3］ボタンを押す
（2）その番号を電話帳に登録する
　→「106」→［#］と押す
（3）その番号を次回から着信できないように登録する
　→「1442」→［#］と押す

・（2）の場合
電話帳の空いている短縮番号のうち一番前の番号に、次のように登録されます。
・電話番号、サブアドレス：相手の番号
・発信ポート：この操作をした電話機のポート

・（3）の場合
電話帳の空いている短縮番号のうち一番後ろの番号に、次のように登録されます。
・電話番号、サブアドレス：相手の番号
・着信ポート1、2/3の通常着信：着信しない
・着信ポート1、2/3の話中着信：着信しない
・発信ポート：この操作をした電話機のポート
この操作により、次回からその相手の電話は着信できなくなります。相手には話し中音が聞こえます。

（2）（3）どちらの場合も、電話帳の他の項目については購入時の設定のまま登録されます。必要に応じて変更してください。
→参照　P.47「相手先を登録しましょう」
なお、短縮番号が空いていないときは、液晶ディスプレイに「トウロクデキマセン／アキバンゴウナシ」と表示されます。

過去にかかってきた5件までの相手の電話番号を聞くとき

1 受話器を上げて、フックを1回押します。

"プップップッ"と聞こえます。

2 "プップップッ"と聞こえている間に、［#］→［3］と押します。

本体前面の液晶ディスプレイには、「チャクシンカクニン」と表示されます。

※ボタンの操作を誤った場合、"ブー"と聞こえます。最初からやり直してください。

3 ［#］ボタンを押します。

直前にかかってきた相手の電話番号が、音声でアナウンスされます。
本体前面の液晶ディスプレイには、相手の電話番号と、電話がかかってきた時刻が表示されます。
続けて別の操作をしたいときは、手順５に進んでください。

※ 相手が電話番号を通知せずにかけてきた場合、番号の代わりに「ありません」とアナウンスされます。本体前面の液晶ディスプレイには、発信者番号非通知理由が表示されます。

※電話が1件もかかってこなかった場合、"ピピピピ"と聞こえます。液晶ディスプレイには、「キロクサレテイマセン」と表示されます。

※ボタンの操作を誤った場合、"ブー"と聞こえます。最初からやり直してください。

4 続けて［#］ボタンを押します。

さらに1つ前にかかってきた相手の電話番号が聞こえます。
この操作を繰り返すと、最大5件までの電話番号を聞くことができます。

5 番号のアナウンスの後、続けて次の操作を行うことができます。

（1）その番号に折り返し電話をかける
→［0］→［#］と押す

（2）その番号を電話帳に登録する
→「106」→［#］と押す

（3）その番号を次回から着信できないように登録する
→「1442」→［#］と押す

・（2）の場合
電話帳の空いている短縮番号のうち一番前の番号に、次のように登録されます。
・電話番号、サブアドレス：相手の番号
・発信ポート：この操作をした電話機のポート

・（3）の場合
電話帳の空いている短縮番号のうち一番後ろの番号に、次のように登録されます。
・電話番号、サブアドレス：相手の番号
・着信ポート1、2/3の通常着信：着信しない
・着信ポート1、2/3の話中着信：着信しない
・発信ポート：この操作をした電話機のポート
この操作により、次回からその相手の電話は着信できなくなります。相手には話し中音が聞こえます。

（2）（3）どちらの場合も、電話帳の他の項目については購入時の設定のまま登録されます。必要に応じて変更してください。
→参照　P.47「相手先を登録しましょう」
なお、短縮番号が空いていないときは、液晶ディスプレイに「トウロクデキマセン／アキバンゴウナシ」と表示されます。

One Point!

◇制限事項

- 相手が電話番号を通知せずにかけてきた場合、電話番号を聞くことはできません。
- ボタンを押した後、次のボタンを押すまでに40秒以上経過すると、受話器から話し中音が聞こえます。この場合は受話器を下ろし、最初から操作をやり直してください。
- 電話番号を聞く操作をしている間は、操作をしている電話機で電話をかけたり受けたりすることはできません。
- Bチャネルを1本でも使用しているときは、電話番号を聞く操作はできません。

電話番号を登録しましょう

設定をする前に、契約者回線番号（ダイヤルインサービスの契約しているときは契約者回線番号とダイヤルイン番号）を登録します。登録しておくと、登録した番号ごとに、電話の受け方などを決めることができます。また、本製品のさまざまな機能を使うためにも必要です。

登録方法は、ダイヤルインサービスの契約のあり/なし、（さらにダイヤルインのグローバル着信のあり/なし）によって異なります。
※グローバル着信のあり/なしは、ダイヤルインサービスの契約時に選択します。通常はグローバル着信ありで契約することをお勧めします。
※ダイヤルインサービス、グローバル着信について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

設定しましょう

ダイヤルイン契約なしのとき

1 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます。

2 「ダイヤルイン登録番号#0（契約者回線番号）」の［登録番号］に、契約者回線番号を入力します。

・ATコマンドでは：@I
・設定コードでは：43

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］ back	
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
［ポート２／３］	

3 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

ダイヤルインをグローバル着信ありで契約したとき

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます。

2 契約者回線番号にかかってきた電話を着信させたい場合は、［ポート共通］の［グローバル着信］を「する」にします。（購入時の設定です。）

・ATコマンドでは：@R
・設定コードでは：72

［ポート共通］	
グローバル着信	○しない ◉する
内線の直接発信	○しない ◉する

3 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

4 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます。

5 「ダイヤルイン登録番号#0（契約者回線番号）」の［登録番号］に、契約者回線番号を入力します。

・ATコマンドでは：@I
・設定コードでは：43

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］ back	
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
［ポート２／３］	

6 ［ダイヤルイン登録番号#1］〜［ダイヤルイン登録番号#3］の［登録番号］に、ダイヤルイン番号を入力します。

・ATコマンドでは：@I
・設定コードでは：43

［ダイヤルイン登録番号#1］ back	
登録番号	03-3333-4444
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
［ポート２／３］	

7 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

ダイヤルインをグローバル着信なしで契約したとき

1 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます。

2 ［ダイヤルイン登録番号#1］～［ダイヤルイン登録番号#3］の「登録番号」に、契約者回線番号とダイヤルイン番号を入力します。

・ATコマンドでは：@I
・設定コードでは：43

※［ダイヤルイン登録番号#0］には入力しないでください。

3 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

4 電話機やFAXを使いましょう

電話のかけ方を詳しく設定しましょう

ダイヤルを終了してから発信するまでの待ち時間や、[#][*]ボタンの機能を変えることができます。
お買い求め時は、次のように設定されています。お客様が使用する状況に応じて変更してください。

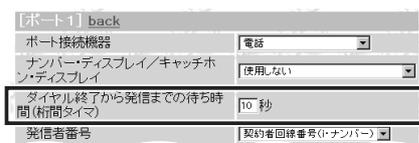
ダイヤル終了から発信までの待ち時間：5秒
[#]ボタン：ダイヤル終了後、すぐに発信したいときに押す
[*]ボタン：サブアドレスをダイヤルする前に押す

ダイヤル終了から発信までの待ち時間を設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます。

2 アナログ機器を接続しているポートを確認します。
そのポートの[ダイヤル終了から発信までの待ち時間（桁間タイマ）]に時間を入力します。

・ATコマンドでは：@G
・設定コードでは：41

※ 3〜50秒の間で設定できます。

3 [設定]ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

[#] [*]ボタンの機能を設定しましょう

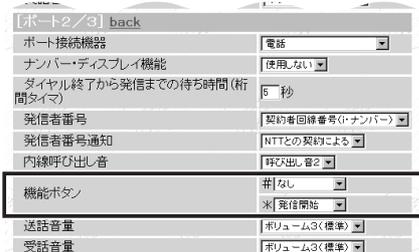
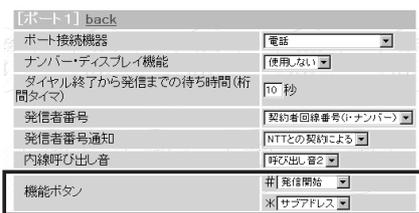
1 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます。

2 アナログ機器を接続しているポートを確認します。
そのポートの[機能ボタン]で、[#][*]ボタンにどのような機能を持たせるか、次の中から選びます。

・ATコマンドでは：@F
・設定コードでは：33

なし：機能を持たせません。数字ボタンと同じ扱いになります。

サブアドレス：サブアドレスをダイヤルする前に押すボタンにします。

発信開始：ダイヤル終了後、すぐに発信したいときに押すボタンにします。

3 [設定]ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

電話の受け方を詳しく設定しましょう

本製品では、ダイヤルイン登録番号#0〜#3のそれぞれについて、電話を受けるときの条件を設定できます。

外線着信時の呼び出し音を設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます

2 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］の［外線呼び出し音］で、次の中から選びます。

ATコマンドでは：@M
設定コードでは：61

呼び出し音1：“ リーン・リーン ”(購入時の設定です。)
呼び出し音2：“ リーンリン・リーンリン ”
呼び出し音3：“ リンリンリン・リンリンリン ”
無鳴動着信：呼び出し音が鳴りません。無鳴動着信機能のあるFAXなどを使っていて、呼び出し音を鳴らさずにFAXを受信したいときなどに選択します。電話機を接続しているときには選択しないことをお勧めします。

※ ポートごとに違う呼び出し音を設定できます。
※ 使用する電話機によっては、ここで設定しても呼び出し音が変わらない場合があります。

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］	back
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
［ポート２／３］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音2

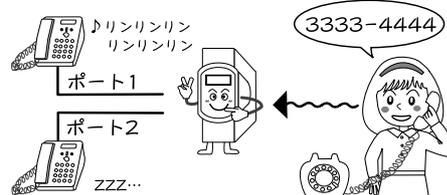
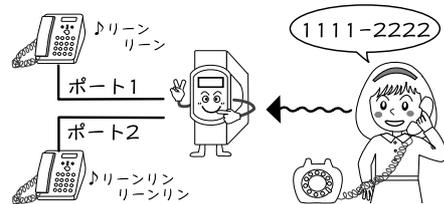
［ダイヤルイン登録番号#1］	back
登録番号	03-3333-4444
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音3
［ポート２／３］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	無鳴動着信
話中着信	◉しない ○する

3 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

STOP お願い

アナログポートにFAXやモデムをつないでいる場合、呼び出し音を変更すると着信できなくなることがあります。その場合は、［呼び出し音1］に設定してください。

着信ポートを設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます

2 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］の［着信ポート］で、次の中から選びます。

・ATコマンドでは：@K
・設定コードでは：52

どのポートにも着信しない：どのポートにも着信しません。

ポート1に着信：ポート1にのみ着信し、ポート2/3には着信しません。

ポート2/3に着信：ポート2/3にのみ着信し、ポート1には着信しません。

すべてのポートに着信：すべてのポートに着信します。（購入時の設定です。）

空きポートに着信（ポート1優先）：ポート1に優先的に着信し、時間差をつけてポート2/3にも着信します（ポート1の呼び出しも続きます）。時間差は［優先着信時間］で設定します。.....................<1>

空きポートに着信（ポート2/3優先）：ポート2/3に優先的に着信し、時間差をつけてポート1にも着信します（ポート2/3の呼び出しも続きます）。時間差は［優先着信時間］で設定します。...................<2>

以下の相手先に着信転送：フレックスホンの着信転送を契約している場合、着信があるとすぐに［着信転送番号］に登録した電話番号に転送します。

→参照　P.78「着信転送を利用しましょう」

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］ back

登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する

［ダイヤルイン登録番号#1］ back

登録番号	03-3333-4444
着信ポート	空きポートに着信(ポート1優先)
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音3
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
［ポート２／３］	

3 手順２で<1>または<2>を選んだ場合、［優先着信時間］で、ポート1とポート2/3の着信の時間差を入力します。値は次の中から選びます。

・ATコマンドでは：#B
・設定コードでは：25

0、5、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55、60、75、90、105、120、135、150、165（単位：秒）

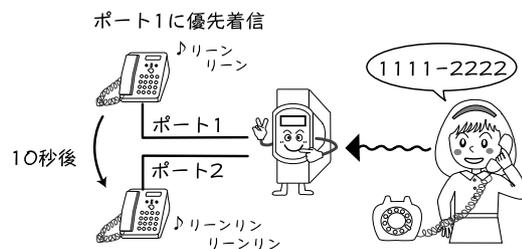
※ 購入時は0秒に設定されています。0秒に設定すると、着信可能なポートにのみ着信します。すべてのポートが空いているときは、<1>を選んだ場合はポート1のみ、<2>を選んだ場合はポート2/3にのみ着信します。

［ダイヤルイン登録番号#1］ back

登録番号	03-3333-4444
着信ポート	空きポートに着信(ポート1優先)
優先着信時間	10 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音3
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
［ポート２／３］	

4 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

ポート1に優先着信

電話の音量を調節できます

自分側の受話器の音量と、相手の受話器に聞こえる音量を調節できます。通話しながら調節することも、あらかじめ調節しておくこともできます。

設定しましょう

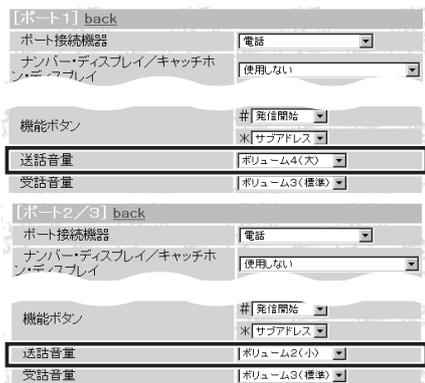
相手の受話器に聞こえる音量を調節するとき

1 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます。

2 音量を変えたいポートの［送話音量］を設定します。次の5段階から選びます。

・ATコマンドでは：#A
・設定コードでは：24

ボリューム1（最小）
ボリューム2（小）
ボリューム3（標準）：購入時の設定です。
ボリューム4（大）
ボリューム5（最大）

[ポート1] back	
ポート接続機器	電話
ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ	使用しない
機能ボタン	#発信開始 ＊サブアドレス
送話音量	ボリューム4(大)
受話音量	ボリューム3(標準)
[ポート2／3] back	
ポート接続機器	電話
ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ	使用しない
機能ボタン	#発信開始 ＊サブアドレス
送話音量	ボリューム2(小)
受話音量	ボリューム3(標準)

3 ［設定］ボタンをクリックします。

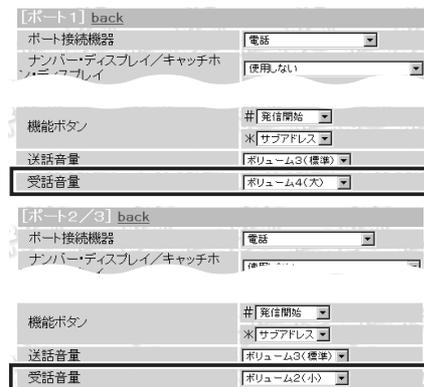
・ATコマンドでは：@B

受話器の音量を調節するとき

1 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます

2 音量を変えたいポートの［受話音量］を設定します。次の5段階から選びます。

・ATコマンドでは：#A
・設定コードでは：24

ボリューム1（最小）
ボリューム2（小）
ボリューム3（標準）：購入時の設定です。
ボリューム4（大）
ボリューム5（最大）

3 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

電話帳を使いましょう（1）　電話帳について

本製品の設定ページには、特定の相手先を登録しておく電話帳の機能があります。電話帳を使うと、次のことができます。

・相手先を登録し（手動／自動）、相手ごとに呼び出し音を変えたり、着信を拒否する　→参照　P.47
・相手先を分類するためのグループを登録する　→参照　P.50
・登録した相手に短縮番号で電話をかける、設定ページから電話をかける　→参照　P.51
・電話をかけてきた相手の条件によって、電話の呼び出し音を変えたり、着信を拒否する　→参照　P.52

なお、電話帳への登録は、電話機から行うこともできます。→参照　リファレンスハンドブック「電話機からの設定操作について」

電話帳には、「電話帳登録」「電話帳一覧」「電話帳設定」の3つの項目があります。

電話帳登録

設定ページ左フレームの「アナログ設定」→「電話帳登録／一覧」の「登録」の文字をクリックすると表示されます。
この画面では、短縮番号ごとに相手先の情報を登録したり、登録を削除します。

短縮番号が表示されます。
任意の番号を指定することもできます（1〜128）。

【操作ボタン】
［登録］：この短縮番号に相手先を登録するときに選びます。
［消去］：この短縮番号に登録した内容を消去するときに選びます。
［検索］：この短縮番号に登録した内容を下の欄に呼び出すときに選びます。
［発信］：この短縮番号に登録した相手先に、この画面から電話をかけるときに選びます。

相手先を新規に登録するときにクリックすると、新しい電話帳登録フィールドが表示されます。

【電話帳登録フィールド】
相手先を登録するときに、各項目に相手先の情報を入力します。
→参照　P.47「相手先を登録しましょう」

One Point!

◇アクセス権の制限について
「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外はすべての操作ができないことがあります。［アクセス権］で［接続／切断］が許可されているユーザは、検索および発信だけできます。
また、すべての操作ボタンが表示されないことがあります。

電話帳一覧

設定ページ左フレームの「アナログ設定」→「電話帳登録／一覧」の「一覧」の文字をクリックすると表示されます。
この画面では、「電話帳登録」で登録した相手先が一覧で表示されます。また、着信する相手の条件によって、呼び出し音を変えたり、着信を拒否するように設定した内容が表示されます。

アナログ設定（電話帳一覧）

短縮	グループ	フリガナ	名称	電話番号	サブアドレス	着信ポート1（通常/話中）	着信ポート2／3（通常/話中）	発信ポート
1	Friends	ﾔﾏﾀﾞﾊﾅｺ	山田花子	03-4545-5656	–	呼び出し音1/ダイヤルイン(i・ナンバー)	呼び出し音1/ダイヤルイン(i・ナンバー)	1
2	Office	ﾄｳｷｮｳｼﾃﾝ	東京支店	03-7777-8888	01	呼び出し音2/ダイヤルイン(i・ナンバー)	呼び出し音2/ダイヤルイン(i・ナンバー)	2/3
3	-	–	–	–	–	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	1
4	-	–	–	–	–	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	1
5	-	–	–	–	–	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	1
6	-	–	–	–	–	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	1
7	-	–	–	–	–	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	1
8	-	–	–	–	–	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	1
51	-	ﾒｲﾜｸ	迷惑な電話	011-999-9999	–	着信しない/着信しない	着信しない/着信しない	1
–	通知あり：登録以外					呼び出し音3/ダイヤルイン(i・ナンバー)	呼び出し音3/着信しない	–
–	通知なし：ユーザ拒否(P)					ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	–
–	通知なし：公衆電話(C)					ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	–
–	通知なし：表示圏外(O)					ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	–
–	通知なし：表示圏外(S)					ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	–
–	通知なし：理由なし					ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	–
–	なりわけサービス					ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	ダイヤルイン(i・ナンバー)/ダイヤルイン(i・ナンバー)	–

この4つの項目は、項目名をクリックすると、ソートされます（昇順）。
［短縮］：番号順
［グループ］：番号順
［フリガナ］：五十音順
［電話番号］：番号順

「電話帳登録」で登録した相手先が一覧で表示されます。最低8件分の欄が表示され、登録した相手先が9件以上になると、登録した数だけ表示されます（128件まで）。

着信する相手の条件によって電話の呼び出し音を変えたり、着信を拒否するように設定した内容が表示されます。
→参照　P.52「電話をかけてきた相手の条件によってなりわけ/迷惑電話の防止を設定しましょう」

INSネット64のなりわけサービスを契約している場合に、登録した相手からの電話の呼び出し音を変えたり、着信を拒否するように設定した内容が表示されます。
→参照　P.81「なりわけサービスを利用できます」

文字をクリックすると、その項目の登録内容を電話帳登録フィールドに表示させることができます。

数字をクリックすると、その短縮番号の登録内容を電話帳登録フィールドに表示させることができます。

電話帳設定

設定ページ左フレームの「アナログ設定」→「電話帳設定」をクリックすると表示されます。
この画面では、相手先を自動的に登録するかどうかを設定します。また、グループを登録・削除します。

アナログ設定（電話帳設定）

◆電話帳の自動登録の設定、グループの登録を行います。

Message　Help

パラメータを入力・修正して［設定］ボタンをクリックしてください。

設定　やり直し

［自動登録］

項目	設定
発信自動登録	◉しない ○する
自動登録する短縮番号	1 番から 128 番まで
着信自動登録	自動登録しない
自動登録する短縮番号	1 番から 128 番まで

電話をかけた相手、および、電話をかけてきた相手を自動的に登録するときに設定します。
→参照　P.46「電話をかけた相手／電話をかけてきた相手を自動的に登録しましょう」

［グループ登録］

	名称	プリ・ダイヤル
グループ1	Friends	#1 (186)
グループ2	Office	#2 (0077)
グループ3		使用しない
グループ4		使用しない
グループ5		使用しない
グループ6		使用しない
グループ7		使用しない
グループ8		使用しない
グループ9		使用しない
グループ10		使用しない

グループを登録・削除するときに設定します。
→参照　P.48「グループを登録しましょう」

電話帳を使いましょう（2） 相手先を登録しましょう

相手先を登録するときは、次の2つの方法があります。
・電話帳登録フィールドに1件ずつ入力して登録する
・電話をかけた相手および電話をかけてきた相手を、自動的に登録する
また、「Friends」「Office」などのように、相手先を分類するためのグループを登録できます。

Setting 電話帳登録フィールドに1件ずつ入力して登録しましょう

相手先を1件ずつ手動で入力して登録します。［着信（ポート1、ポート2/3）］の［通常着信］を設定すると、登録した相手ごとに呼び出し音を変えたり、着信を拒否して迷惑な電話を防止することができます。

1 設定ページの「アナログ設定（電話帳登録）」画面を開きます。

2 ［新規］の文字をクリックします。

新しい電話帳登録フィールドが表示されます。

［短縮番号］には、空いている短縮番号のうち、一番前の番号が表示されます。

短縮番号を任意に指定したい場合は、［短縮番号］に番号を入力します。1〜128の間で指定できます。

※ 登録済みの短縮番号を指定して新たに登録すると、内容が上書きされます。

3 電話帳登録フィールドの各項目に、相手先の情報を入力します。

●グループ
「電話帳設定」画面で登録したグループを選びます。グループ分けしないときは、［なし］を選びます。

なお、選択したグループがプリ・ダイヤル機能を使う設定にしている場合、この相手先に電話をかけると、そのグループで指定した番号が自動的に先頭についた状態で発信します。

例）「Friends」でグループ分けしている相手先にはすべて自動的に「186」をつけて発信

→参照　P.50「グループを登録しましょう」

●フリガナ
相手のフリガナを入力します（半角カナまたは英数字で12文字まで）。

相手に電話をかけるときや相手から電話がかかってきたときに、ここに入力した文字が本体前面の液晶ディスプレイに表示されます。設定していない場合は、フリガナの代わりに電話番号が表示されます。

●名称
相手の名称を入力します（半角カナおよび英数字で32文字、全角で16文字まで）。

●電話番号
相手の電話番号を入力します（半角数字および記号「(」「)」「-」で32桁まで）。

●サブアドレス
相手のサブアドレスを入力します（半角数字で19桁まで）。

●着信（ポート1、ポート2/3）
・通常着信
この相手から電話がかかってきたときの呼び出し音、または着信拒否を、ポートごとに設定します。次の中から選びます。

着信しない：相手からの着信を拒否して、迷惑な電話を防止できます。相手には、話し中音が聞こえます。

呼び出し音1：“リーン・リーン”

呼び出し音2：“リーンリン・リーンリン”

呼び出し音3：“リンリンリン・リンリンリン”

ダイヤルイン（i・ナンバー初期値）：「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［外線呼び出し音］で設定した内容に従います。i・ナンバーを契約している場合、「アナログ設定（ポート共通）」画面の［i・ナンバー］で「かんたんモードで利用する」を選択しているときは、「呼び出し音1」に固定されます。（購入時の設定です。）

・話中着信
別の相手と通話中にこの相手から電話がかかってきた場合に、着信させるかさせないかを設定します。次の中から選びます。

着信しない：通話中にはこの相手を着信させません。

ダイヤルイン（i・ナンバー初期値）：「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［話中着信］で設定した内容に従います。i・ナンバーを契約している場合、「アナログ設定（ポート共通）」画面の［i・ナンバー］で「かんたんモードで利用する」を選択しているときは、「する」に固定されます。（購入時の設定です。）

※ 通話中に着信させる場合は、さらに次の設定も必要です。
- ［通常着信］で「着信しない」以外を選択
- 擬似キャッチホン（マルチアンサー）またはキャッチホン（コールウェイティング）を利用できる状態にする

→参照　P.65「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」
→参照　P.79「キャッチホン（コールウェイティング）を利用しましょう」

※［通常着信］を「着信しない」に設定すると、［話中着信］の設定にかかわらず、通話中には着信しません。

●発信ポート
この画面から相手先に電話をかけるときに、どのポートを使うかを選びます。

4

［登録］ボタンを選びます。

新しい電話帳登録フィールドを表示した状態では、［登録］ボタンが選択されています。

短縮番号 1 ◉登録 ○消去 ○検索 ○発信 新規

5

［実行］ボタンをクリックします。

相手先の情報がその短縮番号に登録され、「設定を終了しました」というメッセージが表示されます。

「アナログ設定（電話帳一覧）」画面に、登録した内容が表示されます。

◇制限事項

同一の電話番号がなりわけサービスにも登録されているときは、なりわけサービスの設定が優先されます。

→参照　P.81「なりわけサービスを利用しましょう」

◇登録した内容を呼び出したいとき

ある短縮番号に登録された内容を電話帳登録フィールドに表示させる方法には、次の2つがあります。

(1)

「電話帳一覧」画面で、呼び出したい短縮番号の文字をクリックします。

(2)

1.「電話帳登録」画面の［短縮番号］に、呼び出したい短縮番号を入力します。
2.［検索］ボタンを選びます。
3.［実行］ボタンをクリックします。

電話をかけた相手／電話をかけてきた相手を自動的に登録しましょう

この設定をしておくと、自分から相手に電話をかけたとき、または相手から電話がかかってきたときに、その相手の電話番号とサブアドレスが自動的に電話帳に登録されます。電話帳の他の項目については購入時の設定のまま登録されますので、必要に応じて変更してください。なお、同じ番号の相手がすでに登録されている場合、登録内容は上書きされません。

電話をかけた相手を自動的に登録するとき

1

設定ページの「アナログ設定（電話帳設定）」画面を開きます。

2

［自動登録］の［発信自動登録］で、「する」を選びます。

購入時には「しない」に設定されています。

3

自動登録する短縮番号の範囲を限定したいときは、［自動登録する短縮番号］に自動登録の初めと終わりの番号を入力します。

指定した範囲内に登録済みの短縮番号がある場合は、その番号を除いて登録されます。

購入時は1から128に設定されています。

［自動登録］
発信自動登録 ○しない ◉する
自動登録する短縮番号 51 番から 128 番まで
着信自動登録 自動登録しない
自動登録する短縮番号 1 番から 128 番まで

4

［設定］ボタンをクリックします。

相手先に電話をかけると、発信した時点で電話番号が電話帳に登録されるようになります。

電話をかけてきた相手を自動的に登録するとき

1 設定ページの「アナログ設定（電話帳設定）」画面を開きます。

2 ［自動登録］の［着信自動登録］を設定します。次の中から選びます。

自動登録しない：自動登録しないときに選びます。（購入時の設定です。）

すべて自動登録する：どの番号にかけてきたかにかかわらず、電話をかけてきた相手をすべて自動登録するときに選びます。

ダイヤルイン番号#0への着信のみ自動登録する：相手がダイヤルイン登録番号#0に登録した番号にかけてきた場合のみ自動登録するときに選びます。

ダイヤルイン番号#1への着信のみ自動登録する：相手がダイヤルイン登録番号#1に登録した番号にかけてきた場合のみ自動登録するときに選びます。

ダイヤルイン番号#2への着信のみ自動登録する：相手がダイヤルイン登録番号#2に登録した番号にかけてきた場合のみ自動登録するときに選びます。

ダイヤルイン番号#3への着信のみ自動登録する：相手がダイヤルイン登録番号#3に登録した番号にかけてきた場合のみ自動登録するときに選びます。

［自動登録］

発信自動登録	⊙しない ○する
自動登録する短縮番号	1 番から 128 番まで
着信自動登録	ダイヤルイン登録番号#0への着信のみ自動登録する
自動登録する短縮番号	1 番から 128 番まで

3 自動登録する短縮番号の範囲を限定したいときは、［自動登録する短縮番号］に自動登録の初めと終わりの番号を入力します。

1〜128の間で指定できます。指定した範囲内に登録済みの短縮番号がある場合は、その番号を除いて登録されます。購入時は1から128に設定されています。

［自動登録］

発信自動登録	○しない ⊙する
自動登録する短縮番号	1 番から 128 番まで
着信自動登録	ダイヤルイン登録番号#0への着信のみ自動登録する
自動登録する短縮番号	101 番から 128 番まで

4 ［設定］ボタンをクリックします。

電話がかかってくると、呼び出し音が鳴った時点で、その相手の電話番号が電話帳に登録されるようになります。

相手先を電話帳から削除しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（電話帳登録）」画面の［短縮番号］に消去したい短縮番号を入力します。

短縮番号 2 ⊙登録 ○消去 ○検索 ○発信 新規

または「電話帳一覧」画面で消去したい短縮番号の文字をクリックします。

アナログ設定(電話帳一覧)

短縮	グループ	フリガナ	名称	電話番号	サブアドレス	着信ポート1（通常/話中）
1	Friends	ﾔﾏﾀﾞﾊﾅｺ	山田花子	03-4545-5656	–	呼び出し音1/ダイヤルイン(i･ナンバー)
2	Office	ﾄｳｷｮｳｼﾃﾝ	東京支店	03-7777-8888	01	呼び出し音2/ダイヤルイン(i･ナンバー)
3						ダイヤルイン(i･ナンバー)/ダイヤル

2 ［消去］ボタンを選びます。

短縮番号 2 ○登録 ⊙消去 ○検索 ○発信 新規

3 ［実行］ボタンをクリックします。

その短縮番号に登録した内容が消去され、「消去しました」というメッセージが表示されます。

「電話帳一覧」からその短縮番号の内容が消えます。

アナログ設定(電話帳一覧)

短縮	グループ	フリガナ	名称	電話番号	サブアドレス	着信ポート1（通常/話中）
1	Friends	ﾔﾏﾀﾞﾊﾅｺ	山田花子	03-4545-5656	–	呼び出し音1/ダイヤルイン(i･ナンバー)
2	–	–	–	–	–	ダイヤルイン(i･ナンバー)/ダイヤルイン(i･ナンバー)

グループを登録しましょう

グループを登録すると、電話帳に登録した相手先をグループごとに分類できます。相手先をグループに分けておくと、「電話帳一覧」でグループ名ごとに並び替え（ソート）ができるので便利です。
例）「Friends」…友人、「Office」…会社の人

また、グループ単位でプリ・ダイヤル機能の設定をすることができます。プリ・ダイヤル機能を使う設定にしておくと、グループ分けした相手先に電話をかけたときに、そのグループで指定した番号が自動的に先頭についた状態で発信します。
例）「Friends」でグループ分けしている相手先にはすべて自動的に「186」をつけて発信する

1 設定ページの「アナログ設定（電話帳設定）」画面を開きます。

2 グループ1～10の［名称］の空いている欄に、そのグループにつける名前を入力します。
半角カナおよび英数字で12文字まで入力できます。

［グループ登録］

	名称	プリ・ダイヤル
グループ1	Friends	使用しない
グループ2	Office	使用しない
グループ3		使用しない

3 ［プリ・ダイヤル］で、プリ・ダイヤル機能を使うかどうか設定します。次の中から選びます。
使用しない：プリ・ダイヤル機能を使わないときに選びます。（購入時の設定です。）
#1～#5：プリ・ダイヤル機能を使うときは、この中から番号を選びます。番号は、「アナログ設定（プリ・ダイヤル）」画面であらかじめ登録しておきます。
→参照　P.55「プリ・ダイヤル機能を使いましょう」

［グループ登録］

	名称	プリ・ダイヤル
グループ1	Friends	#1（186）
グループ2	Office	#2（0077）
グループ3		使用しない

4 ［設定］ボタンをクリックします。

One Point!

◇プリ・ダイヤルの設定が無視される場合
次の場合は、プリ・ダイヤル機能を使う設定にしていても、発信するときにプリ・ダイヤル番号が付きません。
・ご使用の電話機が、「0077」「0088」などの番号を自動的につけて発信する機能を持っている場合
・「00」で始まる番号（「0077」「0088」など）をダイヤルした場合
・「1」で始まる番号（「110」「119」など）をダイヤルした場合
・プリ・ダイヤル番号と相手先の電話番号が、合わせて33桁以上になる場合

グループを削除しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（電話帳設定）」画面を開きます。

2 ［グループ1～10］の消したいグループ番号に入力されている名称を消し、プリ・ダイヤルを「使用しない」に設定します。

［グループ登録］

	名称	プリ・ダイヤル
グループ1	Friends	#1（186）
グループ2		使用しない
グループ3		使用しない

3 ［設定］ボタンをクリックします。

電話帳を使いましょう（3）　登録した相手先に電話をかけましょう

短縮ダイヤルでかけましょう

1 受話器を上げて、発信音を確認します。

2 ［#］→［＊］と押し、続けて登録した短縮番号をダイヤルします。

3 ［#］を押すと、相手先に発信します。

※ 3桁の短縮番号を押したときは、［#］ボタンを押さなくてもすぐに発信します。

設定ページの画面からかけましょう

1 「アナログ設定（電話帳一覧）」画面で電話をかける相手の短縮番号をクリックし、登録内容を電話帳登録フィールドに呼び出します。

アナログ設定（電話帳一覧）

短縮	グループ	フリガナ	名称	電話番号	サブアドレス	着信ポ（通常/
1	riends	ﾔﾏﾀﾞﾊﾅｺ	山田花子	03-4545-5656	–	呼び出し音ヤルイン(iバー)

2 発信するときに使うポートを変更したいときは、［発信ポート］で使うポートを選択します。

［電話帳登録］

グループ	#1 Friends
フリガナ(液晶表示)	ﾔﾏﾀﾞﾊﾅｺ
名称	山田花子
電話番号	03-4545-5656
サブアドレス	
着信(ポート1)	通常着信 呼び出し音1 話中着信 ダイヤルイン(i・ナンバー初期値)
着信(ポート2／3)	通常着信 呼び出し音1 話中着信 ダイヤルイン(i・ナンバー初期値)
発信ポート	ポート1

3 ［発信］ボタンを選びます。

短縮番号 1　○登録　○消去　○検索　◉発信　新規

4 ［実行］ボタンをクリックします。

「発信しています。受話器を取ってください。」というメッセージが表示され、［発信ポート］で設定したポートの呼び出し音が鳴ります。

5 呼び出し音が鳴っている電話の受話器を上げます。

相手が応答すると、話すことができます。

※ 呼び出し音が鳴った状態で15秒以上放置すると、発信が中止されます。

※ 自分が受話器を上げる前に相手が受話器を上げた場合、相手側には何も聞こえません。

※ 自分が受話器を上げる前に相手が応答して切った場合、呼び出し音が鳴り止み、通話が切れます。

◇グループでプリ・ダイヤルの設定をしている場合
グループ分けしている相手先の場合、そのグループがプリ・ダイヤル機能を使用する設定にしていると、電話番号の先頭に指
5048「グループを登録しましょう」
例）「Friends」でグループ分けしている相手先にはすべて自動的に「186」をつけて発信
なお、次の場合は、プリ・ダイヤル機能を使う設定にしていても、発信するときにプリ・ダイヤル番号が付きません。
・ご使用の電話機が、「0077」「0088」などの番号を自動的につけて発信する機能を持っている場合
・「00」で始まる番号（「0077」「0088」など）をダイヤルした場合
・「1」で始まる番号（「110」「119」など）をダイヤルした場合
・プリ・ダイヤル番号と相手先の電話番号が、合わせて33桁以上になる場合

◇アクセス権の制限について
「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定ページから発信できないことがあります。同じ画面の［アクセス権］で［接続／切断］が許可されているユーザは、発信できます。
なお、電話機から短縮ダイヤルで発信する場合、制限はありません。

電話帳を使いましょう（4）　電話をかけてきた相手の条件によってなりわけ／迷惑電話の防止を設定しましょう（擬似ナンバー・リクエスト）

電話帳では、電話をかけてきた相手の条件によって呼び出し音を変えたり、着信を拒否するように設定できます。
次の方法があります。
・電話帳に登録していない相手をまとめて設定する（相手から発信者番号が通知される必要があります。）
・電話帳への登録に関係なく、発信者番号を通知せずに電話をかけてきた相手について、非通知理由ごとに設定する（擬似ナンバー・リクエスト）
※ただし、相手側には「電話番号を通知してからおかけ直しください」などのアナウンスは流れません。

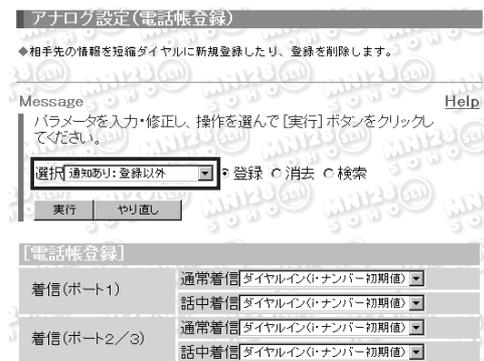
INSナンバー・ディスプレイ（有料）
※NTTとの契約が必要です。ただし、相手がISDN回線、携帯電話およびPHSから電話をかけてくる場合は、契約しなくても利用できます。サービス内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

Setting　設定しましょう

1　設定ページの「アナログ設定（電話帳一覧）」画面を開きます。

2　設定したい項目名をクリックします。

次の項目について設定できます。
●通知あり：登録以外
電話帳に登録していない相手（発信者番号は通知）について設定するときに選びます。
●通知なし：ユーザ拒否（P）
発信者番号を通知しない設定にしてかけてきた相手について設定するときに選びます。
●通知なし：公衆電話（C）
公衆電話からかけてきた相手について設定するときに選びます。
●通知なし：表示圏外（O）
●通知なし：表示圏外（S）
サービスを利用できない場所からかけてきた相手について設定するときに選びます。
●通知なし：理由なし
ナンバー・ディスプレイの契約をしていない場合、または契約していても非通知理由が通知されない契約になっている場合に、電話番号を通知せずにかけてきた相手について設定するときに選びます。
●なりわけサービス：
INSなりわけサービスを契約しているときに、網に登録した相手について設定するときに選びます。
→参照　P.81「なりわけサービスを利用できます」

3　「アナログ設定（電話帳登録）」画面に、設定フィールドが表示されます。
［選択］に手順２で選択した項目名が表示されます。

4　着信（ポート1、ポート2/3）を設定します。

・通常着信
その相手から電話がかかってきたときの呼び出し音、または着信拒否を、ポートごとに設定します。次の中から選びます。
着信しない：相手からの着信を拒否して、迷惑な電話を防止できます。相手には、話し中音が聞こえます。
呼び出し音1：“リーン・リーン”
呼び出し音2：“リーンリン・リーンリン”
呼び出し音3：“リンリンリン・リンリンリン”
ダイヤルイン（i・ナンバー初期値）：「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［外線呼び出し音］で設定した内容に従います。i・ナンバーを契約している場合、「アナログ設定（ポート共通）」画面の［i・ナンバー］で「かんたんモードで利用する」を選択しているときは、「呼び出し音1」に固定されます。（購入時の設定です。）

・話中着信
別の相手と通話中にこの相手から電話がかかってきた場合に、着信させるかさせないかを設定します。次の中から選びます。
着信しない：通話中にはこの相手を着信させません。
ダイヤルイン（i・ナンバー初期値）：「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［話中着信］で設定した内容に従います。i・ナンバーを契約している場合、「アナログ設定（ポート共通）」画面の［i・ナンバー］で「かんたんモードで利用する」を選択しているときは、「する」に固定されます。（購入時の設定です。）

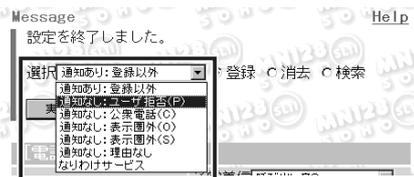
※ 通話中に着信させる場合は、さらに次の設定も必要です。
- ［通常着信］で「着信しない」以外を選択
- 擬似キャッチホン（マルチアンサー）またはキャッチホン（コールウェイティング）を利用できる状態にする
  →参照　P.56「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」
  →参照　P.71「キャッチホン（コールウェイティング）を利用しましょう」

※［通常着信］を「着信しない」に設定すると、［話中着信］の設定にかかわらず、通話中には着信しません。

5 ［登録］ボタンを選びます。

6 ［実行］ボタンをクリックします。

「設定を終了しました」というメッセージが表示されます。電話帳一覧には、設定した内容が表示されます。

7 続けて他の項目を設定するときは、［選択］のメニューから項目を選び、手順２～６の操作を繰り返します。

One Point!

◇制限事項
・相手がINSネット64回線でかけてくる場合
電話帳に登録していない相手について設定した内容は、相手が発信者番号を通知して電話をかけてきた場合のみ有効になります。
・相手が一般電話回線（アナログ回線）でかけてくる場合
電話帳に登録していない相手について設定した内容は、自分がナンバー・ディスプレイの契約（有料）をしていて、相手が発信者番号を通知して電話をかけてきた場合のみ有効になります。

STOP お願い

アナログポートにFAXやモデムをつないでいる場合、呼び出し音を変更すると着信できなくなることがあります。その場合は、［呼び出し音1］に設定してください。

電話帳を使いましょう（5）　通話中に相手先を電話帳に登録しましょう

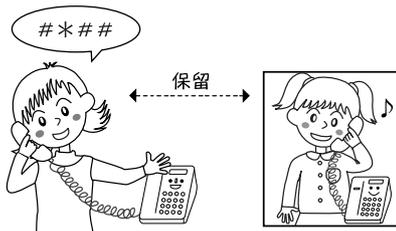
通話中に電話機から操作をすることによって、相手を電話帳に登録することができます。
登録する方法には、次の2種類があります。
・通常の登録：通話相手の電話番号とサブアドレスが登録されます。
・次回から着信できないように登録：通話相手の電話番号とサブアドレスが登録されるのと同時に、着信ポート1、2/3の［通常着信］と［話中着信］が「着信しない」に設定されます。

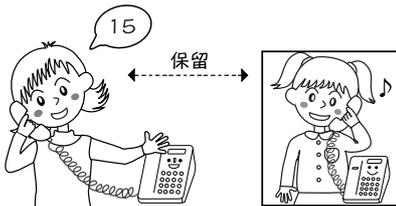
INSナンバー・ディスプレイ（有料）
※NTTとの契約が必要です。ただし、相手がISDN回線、携帯電話およびPHSから電話をかけてくる場合は、契約しなくても利用できます。サービス内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

Trying 操作しましょう

通常の登録をするには

1 電話をかけてきた相手と通話中に、フックを1回押します。
受話器から“プップップッ”と聞こえ、相手との通話が保留されます。

2 “プップップッ”と聞こえている間に、［#］→［*］→［#］→［#］と押します。

3 その相手先を登録する短縮番号を入力します。

※ 登録済みの短縮番号を指定した場合は、最も近い次の番号に登録されます。
※ 短縮番号を省略した場合は、空いている登録番号のうち、一番前の番号に登録されます。

4 ［#］ボタンを押します。

登録に成功すると“ピー”、失敗すると“ブー”と聞こえ、相手との通話に戻ります。
登録に成功した場合、電話帳の指定した短縮番号に、次のように登録されます。
・電話番号、サブアドレス：通話相手の番号
・発信ポート：この操作をした電話機のポート
電話帳の他の項目は、購入時の設定のまま登録されます。必要に応じて変更してください。
→参照　P.47「相手先を登録しましょう」

次回から着信できないように登録するには

1 電話をかけてきた相手と通話中に、フックを1回押します。
受話器から“プップップッ”と聞こえ、相手との通話が保留されます。

2 “プップップッ”と聞こえている間に、［#］→［*］→［#］→［#］と押します。

3 続けて「1442」と押します。

4 ［#］ボタンを押します。

登録に成功すると“ピー”、失敗すると“ブー”と聞こえ、相手との通話に戻ります。
登録に成功した場合、電話帳の空いている短縮番号のうち一番後ろの番号に、次のように登録されます。
・電話番号、サブアドレス：通話相手の番号
・着信ポート1、2/3の通常発信：着信しない
・着信ポート1、2/3の話中発信：着信しない
・発信ポート：この操作をした電話機のポート
電話帳の他の項目は、購入時の設定のまま登録されます。必要に応じて変更してください。
→参照　P.47「相手先を登録しましょう」
この操作により、次回からこの相手の電話は着信できなくなります。相手には話し中音が聞こえます。

One Point!

◇制限事項
・電話をかけてきた相手を登録する場合、相手が発信者番号を通知している必要があります。
・マルチアンサー、通話中発信、キャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、および通信中転送の設定をしていて、他に保留中の外線があるときは、相手先を登録できません。

プリ・ダイヤル機能を使いましょう

本製品では、電話をかけるときに、相手先の電話番号の前に、あらかじめ登録した番号を自動的につけて発信することができます。この機能を、プリ・ダイヤル機能と呼びます。
番号は最大５つまで登録でき、どの番号を使うか指定できます。また、電話帳に登録した相手については、グループ単位でどの番号を使うか指定できます。設定は、設定ページまたは電話機から行います。
発信者番号の通知／非通知を決める「186」「184」、NTTのサービスであるクレジットコールの番号、および「0077」「0088」「001」などの番号を登録しておくと便利です。

設定ページから設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（プリ・ダイヤル）」画面を開きます。

2 ［プリ・ダイヤル番号1～5］に、登録する番号を入力します（32桁まで）。

［プリ・ダイヤル］	
プリ・ダイヤル番号1	186
プリ・ダイヤル番号2	0077
プリ・ダイヤル番号3	
プリ・ダイヤル番号4	
プリ・ダイヤル番号5	
プリ・ダイヤル（通常発信）	プリ・ダイヤルを使用しない

3 ［プリ・ダイヤル（通常発信）］で、どの番号を使うか選びます。

プリ・ダイヤル機能を使わない場合は、「プリ・ダイヤルを使用しない」を選びます。（購入時の設定です。）

※ ここでは、電話帳に登録していない相手先について設定します。電話帳に登録した相手については、ここでの設定とは関係なく、グループ単位で設定できます。
→参照　StepUpまたはP.50

［プリ・ダイヤル］	
プリ・ダイヤル番号1	186
プリ・ダイヤル番号2	0077
プリ・ダイヤル番号3	
プリ・ダイヤル番号4	
プリ・ダイヤル番号5	
プリ・ダイヤル（通常発信）	プリ・ダイヤル番号1

4 ［設定］ボタンをクリックします。

以降、相手先の電話番号をダイヤルすると、手順３で選択した番号が自動的に先頭に付いた状態で発信します。

One Point!

◇プリ・ダイヤルの設定が無視される場合
次の場合は、プリ・ダイヤル機能の設定をしていても、発信するときにプリ・ダイヤル番号が付きません。
- ご使用の電話機が、「0077」「0088」などの番号を自動的につけて発信する機能を持っている場合
- 「00」で始まる番号（「0077」「0088」など）をダイヤルした場合
- 「1」で始まる番号（「110」「119」など）をダイヤルした場合
- プリ・ダイヤル番号と相手先の電話番号が、合わせて33桁以上になる場合

Step Up!

◇電話帳に登録した相手についてのプリ・ダイヤルの設定
「アナログ設定（プリ・ダイヤル）」画面の［プリ・ダイヤル（通常発信）］での設定とは関係なく、プリ・ダイヤル機能を使うかどうか、使う場合はどの番号を使うかを、グループ単位で設定できます。
1. 設定ページの「アナログ設定（電話帳設定）」画面を開きます。
2. 「グループ1～10」の［プリ・ダイヤル］で、次の中から選びます。
   使用しない：プリ・ダイヤル機能を使わないときに選びます。
   #1～#5：「アナログ設定（プリ・ダイヤル）」画面で登録した番号が表示されます。プリ・ダイヤル機能を使うときは、この中から番号を選びます。
3. ［設定］ボタンをクリックします。

通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）

通話中に他の電話がかかってきたときに、その電話を受けることができます。この機能を、本製品では「マルチアンサー」と呼びます。INSネット64のフレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）と同じような機能です。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［マルチアンサー］で「する」を選びます。

・ATコマンドでは：@O
・設定コードでは：63

［擬似フレックスホン］	
マルチアンサー	○しない ◉する
通話中発信	◉しない ○する

3 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

4 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます。

5 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］のポート1またはポート2/3で、［話中着信］を「する」にします。

・ATコマンドでは：@N
・設定コードでは：62

マルチアンサー機能を使わないダイヤルイン登録番号やポートでは、「しない」を選びます。

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］	back
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	○しない ◉する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
［ポート２／３］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する

6 ［着信ポート］を設定します。

・ATコマンドでは：@K
・設定コードでは：52

マルチアンサー機能を利用するポートに着信できるように選んでください。

→参照　P.42「電話の受け方を詳しく設定しましょう」の「着信ポートを設定しましょう」

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］	back
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	○しない ◉する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
［ポート２／３］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する

7 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

One Point!

◇制限事項

・この機能を使用する設定にしているときは、フレックスホンサービスのキャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、通信中転送を利用できません。
・この機能を利用するアナログポートには電話機をつなぎ、「アナログ設定（ポートごと）」画面の［ポート接続機器］で「電話」または「モデム／FAX機能付電話」を選んでください。電話以外のアナログ機器では、この機能を利用できません。

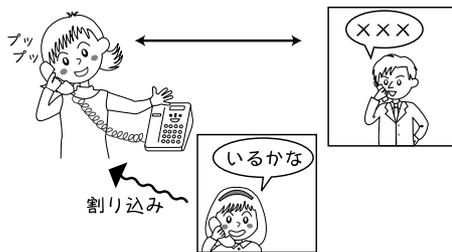
→参照　P.30「電話機やFAXを使う前に」

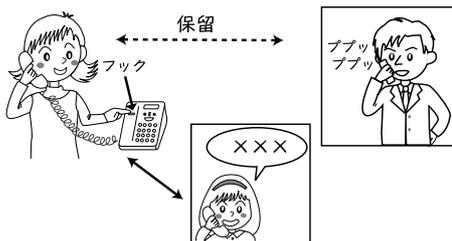
◇手順６で「空きポートに着信（ポート1優先）」または「空きポートに着信（ポート2/3優先）」を選んだときの着信

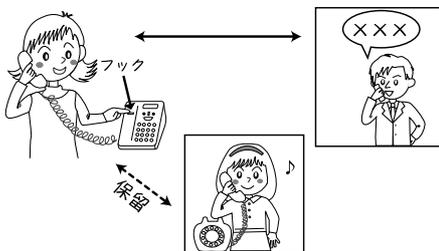
まず優先ポートが呼び出されます（通話中には話中着信します）。指定した時間が経過すると、他のポートが呼び出されます。
他のポートが使用中のときは、優先ポートの呼び出しのみが続きます。

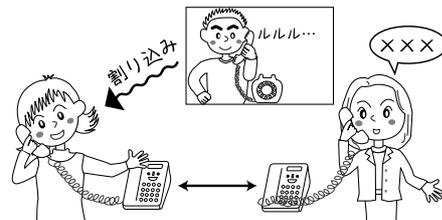
操作しましょう

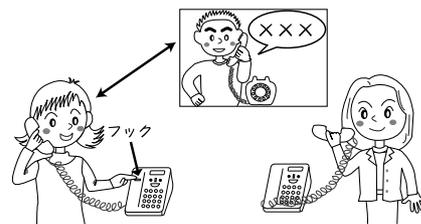
外線と通話中にかかってきたとき

1 他の電話がかかってくると、受話器から話し中着信音が聞こえます。

2 フックを1回押します。

押すと同時に、他の電話の相手と通話できるようになります。
それまで通話していた相手には、“ププッププッ”という保留音が聞こえます。

3 元の相手に戻りたいときは、フックを1回押します。

受話器から“プップップッ”と聞こえ、数秒後に元の相手と通話できるようになります。
※“プップップッ”という音が聞こえている最中に［0］ボタンを押すと、本製品の他のポートにつないだ電話機に転送できます（内線転送）。

内線通話中にかかってきたとき

1 外線電話がかかってくると、受話器から話し中着信音が聞こえます。

2 どちらかの電話機で、フックを1回押します。

押すと同時に、外線電話の相手と通話できるようになります。
通話中だった内線は切れます。

One Point!

◇制限事項
- 1つのアナログポートでこの操作を行っている間は、他のアナログポートで電話をかけたり受けたりすることはできません。
- 内線通話中にかかってきた電話を受けられるのは、保留されている外線がないときだけです。

◇内線転送するには
外線と通話中、および内線通話中にかかってきた電話を、内線転送することもできます。
→参照　P.35「本製品につながった他の電話機に転送できます」

通話中に他の相手に電話をかけられます

通話中に通話をしている相手を保留にし、他の相手に電話をかけることができます。INSネット64のフレックスホンの三者通話（切替モードのみ）と同じような機能です。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［通話中発信］で「する」を選びます。

・ATコマンドでは：@O
・設定コードでは：63

［擬似フレックスホン］	
マルチアンサー	◉しない ○する
通話中発信	○しない ◉する

3 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

One Point!

◇制限事項
・この機能を使用する設定にしているときは、内線転送できません。
・この機能を使用する設定にしているときは、フレックスホンサービスのキャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、通信中転送を利用できません。
・この機能は、電話以外のアナログ機器では利用できません。

操作しましょう

1 通話中に、フックを1回押します。

受話器から“ププッププッ”と聞こえます

2 “ププッププッ”と聞こえている間に、別の相手の電話番号をダイヤルします。

元の相手との通話は保留されます。保留されている相手側には、“ププッププッ”という保留音が聞こえます。

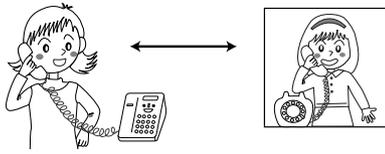
※ 別の相手の電話番号を間違えたとき、話し中などで相手が応答しないときは、一度受話器を戻してください。呼び出し音が鳴ります。電話をとると、元の相手との通話に戻ります。

3 元の相手に戻りたいときは、もう一度フックを1回押します。

受話器から“ププッププッ”と聞こえ、数秒後に元の相手と通話できるようになります。
もう片方の相手との通話は保留されます。

4 通話を終了したいときは、受話器を置きます。

通話していた相手との通話が切れ、呼び出し音が鳴ります。

5 受話器を上げると、保留されていた相手との通話に戻ります。

6 もう一度受話器を置くと、通話が終了します。

◇制限事項
1つのアナログポートでこの操作を行っている間は、他のアナログポートで電話をかけたり受けたりすることはできません。

◇同じ相手に電話をかけ直すには（リダイヤル）
手順２の状態で次の操作をすると、最後にかけた電話番号にかけ直すことができます。（電話をかけてきた相手と通話しているときに有効です。）

1.“ プッププッ ” と聞こえている間に、［＃］→［＊］→［0］と押します。
2. 最後にかけた番号に発信します。

電話機とFAXを区別する番号を付けられます（サブアドレス）

サブアドレスとは、1つのISDN回線に複数の機器が接続されている場合に、それぞれを区別するために自由に付けることのできる番号のことです。
サブアドレスを利用すれば、電話とFAXを区別して呼び出すことができます。
※サブアドレスを指定してダイヤルできるのは、ISDN回線に接続されている一部の通信機器だけです。一般電話回線（アナログ回線）の利用者は、サブアドレスを指定してダイヤルすることはできません。

設定しましょう

次のように電話機とFAXを区別する場合を例に解説します。

「03-1111-2222*01」でかかってきたときはポート1の電話機に着信
「03-1111-2222*02」でかかってきたときはポート2のFAXに着信

1 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます。

2 契約者回線番号とダイヤルイン番号を登録します。

→参照　P.38「電話番号を登録しましょう」

3 ポート1またはポート2/3の［サブアドレス］に、それぞれのポートで登録したいサブアドレスを入力します。

・ATコマンドでは：@J
・設定コードでは：51

[ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)]	back
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
[ポート1]	
サブアドレス	01
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
[ポート2／3]	
サブアドレス	02
外線呼び出し音	呼び出し音2
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する

4 ［着信ポート］で、「すべてのポートに着信」を選びます。

・ATコマンドでは：@K
・設定コードでは：52

[ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)]	back
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
[ポート1]	
サブアドレス	01
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
[ポート2／3]	
サブアドレス	02
外線呼び出し音	呼び出し音2
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する

5 ［サブアドレスグローバル着信］で、サブアドレスグローバル着信をするかしないかを選びます。

・ATコマンドでは：#C・
設定コードでは：26

する：相手がサブアドレスを付けずにダイヤルしてきても、電話やFAXを受けることができます。
しない：相手がサブアドレスを付けずにダイヤルしてくると、電話やFAXを受けられません。（購入時の設定です。）
※ サブアドレスを指定してダイヤルできるのは、ISDN回線に接続されている一部の通信機器だけです。一般電話回線（アナログ回線）の利用者は、サブアドレスを指定してダイヤルすることはできません。一般電話回線を利用している相手からも電話やFAXを受けたいときは、「する」を選んでください。

[ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)]	back
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
[ポート1]	
サブアドレス	01
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	○しない ◉する
[ポート2／3]	
サブアドレス	02
外線呼び出し音	呼び出し音2
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する

6 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

One Point!

◇電話機とFAXを確実に区別して呼び出したい場合は
相手が一般電話回線（アナログ回線）の利用者であっても、電話機とFAXを確実に区別して呼び出したい場合は、ダイヤルインサービスの契約（有料）をして、ダイヤルイン番号を指定することをお勧めします。
→参照　P.65「電話機とFAXに別々の電話番号を付けられます（ダイヤルインサービスとグローバル着信）」

要契約（無料）

通信中機器移動サービスを利用できます

通話を一時中断して電話機を移動しても、同じ回線であれば通話を再開できます。中断した通話は、同じ回線に接続されている本製品（およびMN128V21、MN128-V3、MN128-SOHO、MN128-SOHO SL10）やISDN電話機（NTTディジタルでんわS-1000/S-2000など）で再開できます。

◎通信中機器移動の例

・本製品のアナログポート1からアナログポート2へ：本製品のアナログポート1で中断した通話を、アナログポート2で再開できます。
・本製品からMN128-SOHOへ：本製品のアナログポートにつないだ電話機で中断した通話を、同じ回線に接続されているMN128-SOHOのアナログポートにつないだ電話機で再開できます。
・本製品からNTTディジタルでんわS-2000へ：本製品のアナログポートにつないだ電話機で中断した通話を、同じ回線に接続されているNTTディジタルでんわS-2000で再開できます。
・NTTディジタルでんわS-2000から本製品へ：NTTディジタルでんわS-2000で中断した通話を、同じ回線に接続されている本製品のアナログポートにつないだ電話機で再開できます。

通信中機器移動のサービス（無料）
※NTTとの契約が必要です。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

通話を中断しましょう

1 通話中にフックを1回押します。

受話器から“プップップッ”と聞こえます。

2 “プップップッ”と聞こえている間に、［＊］ボタンを押します。続けて、「0〜9、＊、＃」から1つボタンを押します。

受話器から“プープープー”と聞こえ、本製品のB1またはB2のLEDが消えます。

液晶ディスプレイには「チュウダン」と5秒間表示され、その後日時の表示に戻ります。

相手側にはINSネット64から音声ガイダンスが聞こえます。

※「0〜9、＊、＃」から選んだものを「識別番号」と呼びます。

3 受話器を置きます。必要であれば、本製品を同じ回線上の他のINSネット64回線端子に移動します。

◇制限事項

次のときは通話を中断できません。

・キャッチホン（コールウェイティング）、三者通話、通信中転送、マルチアンサーの設定をしていて、他に保留中の外線があるとき
・通話中、受話器に話し中着信音が聞こえているとき

◇MEMO

・通話を中断しているときでも通話料金は加算されます。
・中断してから約3分経つと、通話が切れます。再開の操作は、中断してから3分以内に行ってください。
・2つの通話を同時に中断するときは、それぞれ異なる識別番号を使ってください。

通話を再開しましょう

1 受話器を上げます

“プー”と聞こえます。

2 フックを1回押します。

“プップップッ”と聞こえます。

3 “プップップッ”と聞こえている間に、［＊］ボタンを押します。続けて、中断したときと同じ識別番号を押します。

相手が応答して通話が再開されると、本製品のB1またはB2のLEDが点灯します。

液晶ディスプレイには「サイカイ」と5秒間表示され、その後再開後の経過時間の表示になります。

One Point!

◇制限事項

通話を再開できるのは、通信機器が同じISDN回線に接続されているときだけです。

相手に電話番号を通知する／通知しないを設定できます

INSネット64の契約時には、発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」「通常非通知（回線ごと非通知）」「常時通知拒否」から選択します。本製品では、発信者番号を通知するかしないかを、契約とは関係なく設定できます。また、相手にどの番号を通知するかも指定できます。

発信者番号通知サービス（無料）
※INSネット64の契約時に契約します（必須項目）。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

Setting 設定しましょう

1 相手先に通知する契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録します。
→参照　P.38「電話番号を登録しましょう」

2 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます。

3 ポート1またはポート2/3の［発信者番号］を設定します。相手に通知する番号を、次の中から選びます。

ATコマンドでは：@T
設定コードでは：81

契約者回線番号：契約者回線番号を通知します。（購入時の設定です。）

ダイヤルイン登録番号1：「ダイヤルイン登録番号#1」に登録した番号を通知します。

ダイヤルイン登録番号2：「ダイヤルイン登録番号#2」に登録した番号を通知します。

ダイヤルイン登録番号3：「ダイヤルイン登録番号#3」に登録した番号を通知します。

ダイヤルイン登録番号0：「ダイヤルイン登録番号#0（契約者回線番号）」に登録した番号を通知します。

［ポート1］back

ポート接続機器	電話
ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ	使用しない
ダイヤル終了から発信までの待ち時間（桁間タイマ）	5 秒
発信者番号	契約者回線番号(i・ナンバー)
発信者番号通知	NTTとの契約による

［ポート2／3］back

ポート接続機器	電話
ナンバー・ディスプレイ／キャッチホン・ディスプレイ	使用しない
ダイヤル終了から発信までの待ち時間（桁間タイマ）	5 秒
発信者番号	ダイヤルイン登録番号1
発信者番号通知	NTTとの契約による
内線呼び出し音	呼び出し音2

4 ［発信者番号通知］を設定します。次の中から、発信者番号の通知方法を選びます。

・ATコマンドでは：@Y
・設定コードでは：93

NTTとの契約による：発信者番号通知サービスの契約通りに、通知または非通知になります。（購入時の設定です。）

通常通知：原則として通知になります。相手先の電話番号の前に「184」をつけてダイヤルすると、非通知になります。

通常非通知：原則として非通知になります。相手先の電話番号の前に「186」をつけてダイヤルすると、通知になります。

5 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

One Point!

◇制限事項
「常時通知拒否」で契約した場合は、本製品の設定にかかわらず発信者番号が非通知になります。

◇発信者番号の通知/非通知について

発信者番号の通知/非通知は、発信者番号通知サービスの契約内容と、本製品の設定内容によって変わります。
また、電話をかけるときに相手先の電話番号の前に次の番号をつけてダイヤルすることによっても変わります。
・電話番号の前に「184」をつけてダイヤル　→非通知
・電話番号の前に「186」をつけてダイヤル　→通知

・「通常通知（通話ごと非通知）」で契約した方は・・・

	［発信者番号通知］の設定		
	「NTTとの契約による」を選んだとき	「通常通知」を選んだとき	「通常非通知」を選んだとき
電話番号だけ	［発信者番号］で選んだ番号が通知されます。		非通知になります。
電話番号の前に「184」	非通知になります。		
電話番号の前に「186」	［発信者番号］で選んだ番号が通知されます。		

・「通常非通知（回線ごと非通知）」で契約した方は・・・

	［発信者番号通知］の設定		
	「NTTとの契約による」を選んだとき	「通常通知」を選んだとき	「通常非通知」を選んだとき
電話番号だけ	非通知になります。	［発信者番号］で選んだ番号が通知されます。	非通知になります。
電話番号の前に「184」	非通知になります。		
電話番号の前に「186」	［発信者番号］で選んだ番号が通知されます。		

・「常時通知拒否」で契約した方は・・・
［発信者番号通知］で何を選んでも、通知されません。
また、電話番号の前に「184」または「186」をつけてダイヤルすると、相手先につながりません。

パソコンでの通信を気にせずに、電話機やFAXを使うことができます

Ethernet上のパソコンおよびDTEポートのパソコンが、2本のBチャネルを使ってMP通信をしているときでも、アナログ機器を使うことができます。

通信中着信通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

設定しましょう

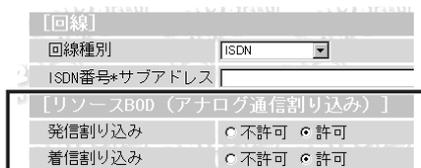
Ethernet上のパソコンの通信状態に関わらずアナログ機器を使いたいとき

1 設定ページの画面左側の「ルータ設定」→「ISDN設定」の文字をクリックし、「ルータ設定（ISDN）」画面を開きます。

2 ［リソースBOD（アナログ通信割り込み）］の［発信割り込み］を設定します。

不許可：パソコンでの通信状態によっては、アナログ機器から発信できないことがあります。

許可：パソコンで2本のBチャネルを使ってMP通信中でも、アナログ機器から発信できます。（購入時の設定です。）

［回線］
回線種別　ISDN
ISDN番号*サブアドレス
［リソースBOD（アナログ通信割り込み）］
発信割り込み　○不許可　◉許可
着信割り込み　○不許可　◉許可

3 ［リソースBOD（アナログ通信割り込み）］の［着信割り込み］を設定します。

不許可：パソコンでの通信状態によっては、アナログ機器で着信できないことがあります。

許可：パソコンで2本のBチャネルを使ってMP通信中でも、アナログ機器で着信できます。（購入時の設定です。）

4 ［設定］ボタンをクリックします。

DTEポートのパソコンの通信状態に関わらずアナログ機器を使いたいとき

購入時には、パソコンで2本のBチャネルを使ってMP通信中でも、アナログ機器を使う設定になっています。設定を変える必要はありません。
この機能について設定を変えたい場合は、活用ガイド CD-ROM 第２部「4-2　リソースBOD機能を使う」を参照してください。

◇通信に使うBチャネルの数を、電話機からの操作で増減するには

上記の設定とは関係なく、アナログポートにつないだ電話機から操作することによって、MP通信に使用されるBチャネルの数を増やしたり減らしたりすることができます。Bチャネルを減らす操作をすると、Ethernet上のパソコンやDTEポートのパソコンで2本のBチャネルを使ってMP通信中でも、アナログ機器を使うことができます。
※電話機は、プッシュボタン式を使用してください。

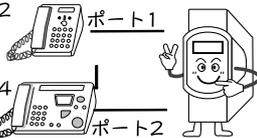
1. 操作をする電話機が、本製品のアナログポートに接続されていることを確認します。
2. 電話機の受話器を上げます。
「ツー」という音が聞こえます。
3. フックを1回押します。
「プップップッ…」という音が聞こえます。
4. ［#］ボタンを押します。
無音になります。
5. ［1］ボタンを押します。
「ピピッ、ピピッ…」という音が繰り返し聞こえます。
※「ブー」という音が聞こえたときは、もう一度［1］ボタンを押してください。それでも「ピピッ、ピピッ…」という音が聞こえないときは、手順１からやり直してください。
6. 「ピピッ、ピピッ…」という音が聞こえている間に、「00」と押します。
MP通信に使われるBチャネルの数が増えたとき、または減ったときは、「ピッ」という音が聞こえます。
・2本のBチャネルを使用したMP通信中は、どちらかのBチャネルが使われなくなり、1本のBチャネルでMP通信を行います。
・1本のBチャネルを使用したMP通信中は、もう1本のBチャネルが使われるようになり、2本のBチャネルでMP通信を行います。
※Bチャネル数の増減に失敗したときは、「ブー」という音が聞こえます。
7. 受話器を置きます。
続けてもう一度Bチャネル数を変更するときは、手順６を繰り返します。

電話機とFAXに別々の電話番号を付けられます（ダイヤルインサービスとグローバル着信）

ダイヤルインとグローバル着信を組み合わせて利用し、本製品の設定をすれば、ダイヤルイン番号を1つ契約するだけで、電話機とFAXを区別して呼び出すことができます。相手が一般電話回線（アナログ回線）からかけてきても同じです。

ダイヤルインサービス（有料）
※NTTとの契約が必要です。契約時に、グローバル着信のあり/なしを選択します。通常はグローバル着信ありで契約することをお勧めします。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

設定しましょう

次のように電話機とFAXを区別する場合を例に解説します。

契約者回線番号（03-1111-2222）にかかってきたら
アナログポート1の電話機に着信
ダイヤルイン番号（03-3333-4444）にかかってきたら
アナログポート2のFAXに着信

ダイヤルインをグローバル着信ありで契約したとき

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます。

2 ［ポート共通］の［グローバル着信］を「する」にします。（購入時の設定です。）

・ATコマンドでは：@R
・設定コード では：72

［ポート共通］	
グローバル着信	○しない ⦿する
内線の直接発信	○しない ⦿する

3 ［設定］ボタンをクリックします。

ATコマンドでは：@B

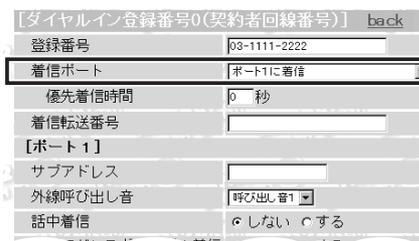
4 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます。

5 契約者回線番号とダイヤルイン番号を登録します。

→参照　P.38「電話番号を登録しましょう」

6 それぞれの［ダイヤルイン登録番号］の［着信ポート］で、次のように設定します。

・ATコマンドでは：@K
・設定コードでは：52

ダイヤルイン登録番号#0（契約者回線番号）：「ポート1に着信」を選びます。
ダイヤルイン登録番号#1～#3：「ポート2/3に着信」を選びます。

［ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）］ back	
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	ポート1に着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート1］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	⦿しない ○する

［ダイヤルイン登録番号#1］ back	
登録番号	03-3333-4444
着信ポート	ポート2／3に着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	

7 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

ダイヤルインをグローバル着信なしで契約したとき

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます。

2 ［ポート共通］の［グローバル着信］を「しない」にします。

・ATコマンドでは：@R
・設定コード では：72

［ポート共通］	
グローバル着信	◉しない ○する
内線の直接発信	○しない ◉する

3 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

4 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます。

5 契約者回線番号とダイヤルイン番号を登録します。

→参照　P.38「電話番号を登録しましょう」

6 それぞれの「ダイヤルイン登録番号」の［着信ポート］で、次のように設定します。

・ATコマンドでは：@K
・設定コードでは：52

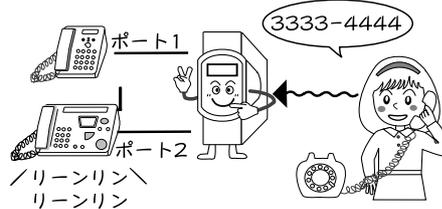
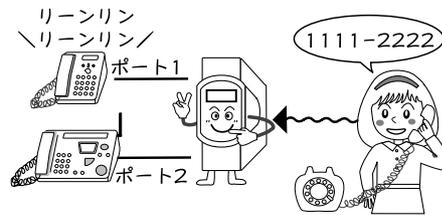
契約者回線番号を登録したダイヤルイン登録番号#1～#3：「ポート1に着信」を選びます。

ダイヤルイン番号を登録したダイヤルイン登録番号#1～#3：「ポート2/3に着信」を選びます。

［ダイヤルイン登録番号#1］ back	
登録番号	03-1111-2222
着信ポート	ポート1に着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する

［ダイヤルイン登録番号#2］ back	
登録番号	03-3333-4444
着信ポート	ポート2／3に着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	

7 ［設定］ボタンをクリックします。

ATコマンドでは：@B

i・ナンバーを利用できます

i・ナンバーは、1回線で2つの電話番号（契約者回線番号と追加番号）を持つことができるサービスです。
i・ナンバーを契約すると、2つの電話番号で本製品のアナログポートを使い分けることができます。

i・ナンバー（有料）
※NTTとの契約が必要です。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。
なお、i・ナンバーとダイヤルインサービスを同時に契約することはできません。

◇制限事項
PBX（構内交換機）を経由している場合、PBXの種類によってはi・ナンバーを利用する設定にしていると、発着信が正常にできないことがあります。発信できない場合、および着信時に鳴り分けができない場合などは、i・ナンバーを利用しない設定にしてください。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます

2 ［i・ナンバー］で、次の中から選びます。

・ATコマンドでは：#M
・設定コードでは：64

かんたんモードで利用する：購入時の設定のままi・ナンバーを利用するときに選びます。
→ 次ページの「かんたんモードで利用するとき」参照
カスタマイズモードで利用する（着信時にダイヤルインの設定を利用）：フレックスホンの着信転送やRVS-COMを利用したいとき、着信時の条件を変更したいときに選びます。
→ 参照　P.69「カスタマイズモードで利用するとき」
利用しない：i・ナンバーを契約していないときに選びます。

3 手順２で「カスタマイズモードで利用する（着信時にダイヤルインの設定を利用）」を選んだときは、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面で、次のように設定します。

・［ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）］の［登録番号］に契約者回線番号を登録し、必要に応じて他の項目を設定
・［ダイヤルイン登録番号1］の［登録番号］に追加番号を登録し、必要に応じて他の項目を設定

4 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

STOP お願い

i・ナンバーを契約していないときは、[i・ナンバー]を「利用しない」に設定してください。

注意

・i・ナンバーを契約していて、[i・ナンバー]を「利用しない」に設定していると、どの番号に電話がかかってきても、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［ダイヤルイン登録番号0］で設定した条件に従って着信します。
・i・ナンバーを契約していて、かんたんモードで利用する設定にしている場合、相手からサブアドレス付きで電話がかかってきても着信できません。サブアドレス付きの電話を受けたい場合は、[i・ナンバー]を「カスタマイズモードで利用する」に設定して、［ダイヤルイン登録番号0］［ダイヤルイン登録番号1］で自サブアドレスを設定してください。

かんたんモードで利用するとき

◎発信するとき（発信者番号の通知/非通知について）

・発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」で契約した方は

アナログポート1の電話機から発信すると契約者回線番号、アナログポート2または3の電話機から発信すると追加番号が相手先に通知されます。番号を通知したくないときは、電話番号の前に「184」をつけてダイヤルします。

・発信者番号通知サービスを「通常非通知（回線ごと非通知）」で契約した方は

相手先に電話番号が通知されません。番号を通知したいときは、電話番号の前に「186」をつけてダイヤルします。アナログポート1の電話機から「186」を付けて発信すると契約者回線番号、アナログポート2または3の電話機から「186」を付けて発信すると追加番号が相手先に通知されます。

※「アナログ設定（ポートごと）」画面の［発信者番号］［発信者番号通知］を購入時の設定以外にしたときは、その内容に従います。
→参照　P.64「相手に電話番号を通知する/通知しないを設定できます」

◎着信するとき

契約者回線番号でかかってきたときはアナログポート1、追加番号でかかってきたときはアナログポート2と3に接続した機器が呼び出されます。
着信するときの条件は、次のように固定されます。
・ 話中着信：する（「アナログ設定（ポート共通）」画面の［マルチアンサー］または［キャッチホン（コールウェイティング）］を「する」に設定する必要があります）
・ 外線呼び出し音：呼び出し音1
・ フレックスホンの着信転送：使用できません
・ RVS-COM：使用できません

One Point!

◇かんたんモードで利用するとき無効になる設定
[i・ナンバー]を「かんたんモードで利用する」に設定している場合は、以下の項目で設定した内容が無効になります。
・「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［登録番号］以外の設定項目
・「アナログ設定（ポート共通）」画面の［グローバル着信］
・「RVS-COM設定」画面の［RVS-COM（DTEポート）］のすべての設定項目

カスタマイズモードで利用するとき

◎発信するとき（発信者番号の通知/非通知について）

・発信者番号通知サービスを「通常通知（通話ごと非通知）」で契約した方は

アナログポート1の電話機から発信すると契約者回線番号、アナログポート2または3の電話機から発信すると追加番号が相手先に通知されます。番号を通知したくないときは、電話番号の前に「184」をつけてダイヤルします。

・発信者番号通知サービスを「通常非通知（回線ごと非通知）」で契約した方は

相手先に電話番号が通知されません。番号を通知したいときは、電話番号の前に「186」をつけてダイヤルします。アナログポート1の電話機から「186」を付けて発信すると契約者回線番号、アナログポート2または3の電話機から「186」を付けて発信すると追加番号が相手先に通知されます。

※「アナログ設定（ポートごと）」画面の［発信者番号］［発信者番号通知］を購入時の設定以外にしたときは、その内容に従います。
→参照　P.64「相手に電話番号を通知する/通知しないを設定できます」

◎着信するとき

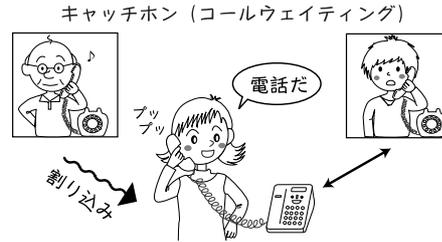
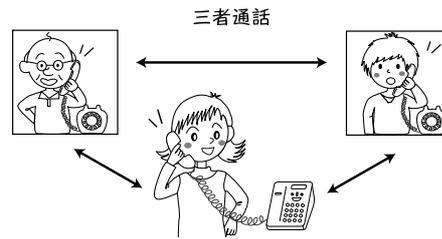
契約者回線番号で電話がかかってきたときは、「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［ダイヤルイン登録番号0］、追加番号で電話がかかってきたときは［ダイヤルイン登録番号1］で設定した条件に従って着信します。
着信時の条件を変更したいときは、［ダイヤルイン登録番号0］［ダイヤルイン登録番号1］で必要な設定をします。
→参照　P.41「電話の受け方を詳しく設定しましょう」
※着信時に鳴り分けをしたいときは、着信ポートの設定を変更してください。

◇カスタマイズモードとかんたんモードの違い

［i・ナンバー］を「カスタマイズモードで利用する」に設定している場合は、「かんたんモードで利用する」に設定したときに無効になる設定が、すべて有効になります。したがって、着信時の条件を変更したいときは、［ダイヤルイン登録番号0］［ダイヤルイン登録番号1］の設定を変更する必要があります。
例えば、「カスタマイズモードで利用する」に設定して、［ダイヤルイン登録番号0］［ダイヤルイン登録番号1］を購入時の設定のまま利用すると、着信時に鳴り分けができません。契約者回線番号で電話がかかってきたらアナログポート1に、追加番号で電話がかかってきたらアナログポート2と3に着信させたい場合は、次のように設定します。
・ダイヤルイン登録番号0の［着信ポート］：ポート1に着信
・ダイヤルイン登録番号1の［着信ポート］：ポート2/3に着信

フレックスホンを利用できます（1）　フレックスホンとは

フレックスホンは、INSネット64の付加サービスです（有料）。フレックスホンには、次の4つの機能があります。フレックスホンの契約時に、使いたい機能を選択します。

◎キャッチホン（コールウェイティング）：
通話中に他の電話がかかってきたときに、その電話を受けて話をすることができます。
→参照　P.71「キャッチホン（コールウェイティング）を利用しましょう」

◎三者通話：
通話中に別の相手を呼び出して3人で話ができる機能です。
→参照　P.73「三者通話を利用しましょう」

◎通信中転送：
通話中に別の相手を呼び出して、その電話を転送する機能です。
→参照　P76「通信中転送を利用しましょう」

◎着信転送：
かかってきた電話を、自動的に他の回線番号に転送する機能です。
→参照　P.78「着信転送を利用しましょう」

フレックスホンを利用できます（2）　キャッチホン（コールウェイティング）を利用しましょう

フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を契約していると、通話中に別の相手から電話がかかってくると受話器に話し中着信音が聞こえ、通話する相手を切り替えることができます。
※マジックボックスのキャッチホン機能を利用するときも、同じように設定します。

契約 NTT
フレックスホンサービスの「INSキャッチホン（コールウェイティング）」（有料）
通信中着信通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［マルチアンサー］と［通話中発信］で「しない」を選びます。（購入時の設定です。）

・ATコマンドでは：@O
・設定コード では：63

［擬似フレックスホン］

マルチアンサー	◉しない ○する
通話中発信	◉しない ○する

3 ［フレックスホン］の［キャッチホン（コールウェイティング）］で「する」を選びます。

・ATコマンドでは：@P
・設定コードでは：71

［フレックスホン］

キャッチホン(コールウェイティング)	○しない ◉する
通信中転送	◉しない ○する
三者通話	◉しない ○する
着信転送	◉しない ○する

4 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

5 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます。

6 キャッチホン（コールウェイティング）を契約した契約者回線番号またはダイヤルイン番号を登録します。
→参照　P.38「電話番号を登録しましょう」

7 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］のポート1またはポート2/3で、「話中着信」を「する」にします。

・ATコマンドでは：@N
・設定コードでは：62

キャッチホン（コールウェイティング）を利用しないポートでは、「しない」を選びます。

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］　back

登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	○しない ◉する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
［ポート２／３］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する

8 ［着信ポート］を設定します。

・ATコマンドでは：@K
・設定コードでは：52

キャッチホン（コールウェイティング）を利用するポートに着信できるように選んでください。
→参照　P.41「電話の受け方を詳しく設定しましょう」の「着信ポートを設定しましょう」

［ダイヤルイン登録番号0(契約者回線番号)］　back

登録番号	03-1111-2222
着信ポート	すべてのポートに着信
優先着信時間	0 秒
着信転送番号	
［ポート１］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	○しない ◉する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する
［ポート２／３］	
サブアドレス	
外線呼び出し音	呼び出し音1
話中着信	◉しない ○する
サブアドレスグローバル着信	◉しない ○する

9 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

One Point!

◇制限事項

・擬似キャッチホン（マルチアンサー）および通話中発信の機能を、どちらか一方でも使用する設定にしているときは、キャッチホン（コールウェイティング）を利用できません。

→参照　P.56「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」

→参照　P.58「通話中に他の相手に電話をかけられます」

・キャッチホン（コールウェイティング）を利用するアナログポートには電話機をつなぎ、「アナログ設定（ポートごと）」画面の［ポート接続機器］で「電話」または「モデム／FAX機能付電話」を選んでください。電話以外のアナログ機器では、キャッチホン（コールウェイティング）を利用できません。

→参照　P.30「電話機やFAXを使う前に」

◇手順８で［空きポートに着信（ポート1優先）］または［空きポートに着信（ポート2/3優先）］を選んだときの着信

まず優先ポートが呼び出されます（通話中は話中着信）。指定した時間が経過すると、他のポートが呼び出されます。他のポートが使用中のとき、またはBチャネルに空きがないときは、優先ポートの呼び出しのみが続きます。

操作しましょう

1 通話中に、受話器に話し中着信音が聞こえます。

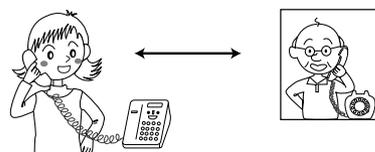
他の電話がかかってきたことを知らせる音です。

2 フックを1回押します。

かかってきた電話の相手と通話できるようになります。元の相手との通話は保留されます。

3 元の相手との通話に戻りたいときは、もう一度フックを1回押します。

4 通話を終了したいときは、受話器を置きます。
通話していた相手との通話が切れ、呼び出し音が鳴ります。

5 受話器を上げると、保留されていた相手との通話になります。

6 もう一度受話器を置くと、通話が終了します。

One Point!

◇フックを押した後、通話に切り替わるまで

手順２と手順３で、フックを押してから相手と通話できるようになるまでの動作は、フレックスホンサービスの設定によって異なります。

・キャッチホン（コールウェイティング）の設定のみをしているとき
フックを押すと、すぐに通話に切り替わります。

・キャッチホン（コールウェイティング）の設定と同時に、三者通話または通信中転送の設定もしているとき
フックを押した後、受話器から“プッププッ”と2〜3秒聞こえてから、通話に切り替わります。

フレックスホンを利用できます（3）　三者通話を利用しましょう

フレックスホンの三者通話を契約していると、通話中の相手を保留して別の相手へ電話をかけられます。また、通話中にかかってきた電話の相手を含めて3人で話したり、通話中に別の相手を呼び出して3人で話すこともできます。

フレックスホンサービスの「三者通話」（有料）
※NTTとの契約が必要です。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［マルチアンサー］と［通話中発信］で「しない」を選びます。（購入時の設定です。）

・ATコマンドでは：@O
・設定コード では：63

［擬似フレックスホン］	
マルチアンサー	◉しない ○する
通話中発信	◉しない ○する

3 ［フレックスホン］の［三者通話］で「する」を選びます。

・ATコマンドでは：@P
・設定コードでは：71

［フレックスホン］	
キャッチホン(コールウェイティング)	◉しない ○する
通信中転送	◉しない ○する
三者通話	○しない ◉する
着信転送	◉しない ○する

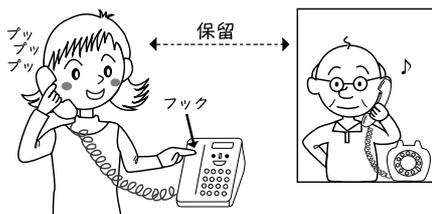
4 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

◇制限事項
擬似キャッチホン（マルチアンサー）および通話中発信の機能を、どちらか一方でも使用する設定にしているときは、三者通話を利用できません。
→参照　P.56「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」
→参照　P.58「通話中に他の相手に電話をかけられます」

操作しましょう

通話中に別の相手へかけるとき（三者通話切替モード）

1 通話中に、フックを1回押します。

受話器から“プップップッ”と聞こえます。

2 “プップップッ”と聞こえている間に、別の相手の電話番号をダイヤルします。

元の相手との通話は保留されます。保留されている相手側には、保留音が聞こえます。

※ 別の相手の電話番号を間違えたとき、話し中などで相手が応答しないときは、一度受話器を戻してください。呼び出し音が鳴ります。電話をとると、元の相手との通話に戻ります。

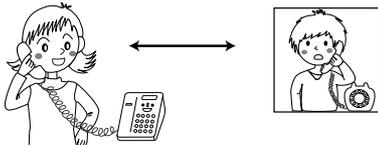
3 元の相手との通話に戻りたいときは、もう一度フックを1回押します。

" プップップッ " と聞こえ、数秒後に元の相手との通話に戻ります。

もう片方の相手との通話は保留されます。

4 通話を終了したいときは、受話器を置きます。

通話していた相手との通話が切れ、呼び出し音が鳴ります。

5 受話器を上げると、保留されていた相手との通話になります。

6 もう一度受話器を置くと、通話が終了します。

One Point!

◇同じ相手に電話をかけ直すには（リダイヤル）
手順２の状態で次の操作をすると、最後にかけた電話番号にかけ直すことができます。（電話をかけてきた相手と通話しているときに有効です。）

1." プップップッ " と聞こえている間に、［#］→［*］→［0］と押します。
2. 最後にかけた番号に発信します。

三者で通話するとき（三者通話ミキシングモード）

1 通話中に別の相手に電話をかけたり、キャッチホン（コールウェイティング）時に別の相手から電話を受けたりします。

2 片方の相手と通話中で、片方の相手は保留中という状態になります。

3 この状態で、フックを1回押します。

受話器から " プップップッ " という音が聞こえ、通話は一次中断されます。

4 " プップップッ " と聞こえている間に、もう一度フックを1回押します。

3人で通話できるようになります。

※ ここで受話器を置くと、両方との通話が終了します。

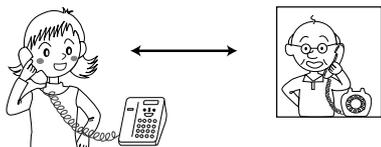
5 手順２で通話していた相手との通話に戻りたいときは、フックを1回押します。

" プップップッ " と聞こえ、数秒後にその相手との通話に戻ります。

もう片方の相手は保留されます。

6 通話を終了したいときは、受話器を置きます。

通話していた相手との通話が切れ、呼び出し音が鳴ります。

7 受話器を上げると、保留されていた相手との通話になります。

8 もう一度受話器を置くと、通話が終了します。

◇制限事項
1つのアナログポートで三者通話（切替モード、ミキシングモード）をしている間は、他のアナログポートで三者通話および通信中転送〈P.76〉を利用できません。

フレックスホンを利用できます（4）　通信中転送を利用しましょう

フレックスホンの通信中転送を契約していると、相手からかかってきた電話を別の相手へ転送できます。転送先の相手が応答する前に転送する方法と、相手が応答した後に転送する方法があります。

フレックスホンサービスの「通信中転送」（有料）
※NTTとの契約が必要です。サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます。

2 ［擬似フレックスホン］の［マルチアンサー］と［通話中発信］で「しない」を選びます。（購入時の設定です。）

・ATコマンドでは：@O
・設定コード では：63

［擬似フレックスホン］	
マルチアンサー	◉しない ○する
通話中発信	◉しない ○する

3 ［フレックスホン］の［通信中転送］で「する」を選びます。

・ATコマンドでは：@P
・設定コードでは：71

［フレックスホン］	
キャッチホン(コールウェイティング)	◉しない ○する
通信中転送	○しない ◉する
三者通話	◉しない ○する
着信転送	◉しない ○する

4 ［設定］ボタンをクリックします。

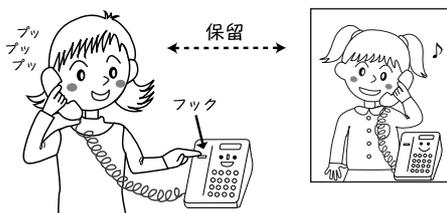
・ATコマンドでは：@B

One Point!

◇制限事項
擬似キャッチホン（マルチアンサー）および通話中発信の機能を、どちらか一方でも使用する設定にしているときは、通信中転送を利用できません。
→参照　P.56「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」
→参照　P.58「通話中に他の相手に電話をかけられます」

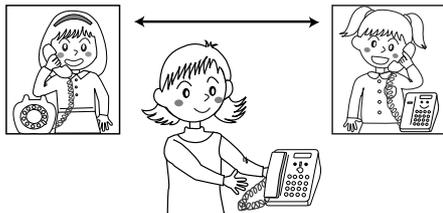
操作しましょう

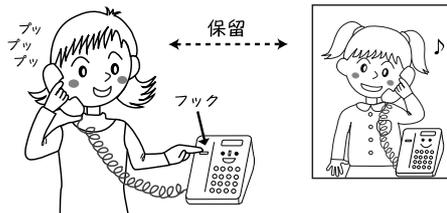
相手が応答する前に転送するとき

1 電話をかけてきた相手との通話中に、フックを1回押します。
受話器から“ プップップッ ”と聞こえます。
※ 通信中転送できるのは、かかってきた電話だけです。

2 “ プップップッ ”と聞こえている間に、別の相手の電話番号をダイヤルします。
元の相手との通話は保留されます。保留されている相手側には、保留音が聞こえます。
※ 別の相手の電話番号を間違えたとき、話し中などで相手が応答しないときは、一度受話器を戻してください。呼び出し音が鳴ります。電話をとると、元の相手との通話に戻ります。

3 相手が応答する前に、受話器を置きます。

相手が応答すると、保留されていた相手との通話になります。

※ 転送する相手が一般電話回線（アナログ回線）のときは、転送されないことがあります（詳しくはNTTまでお問い合わせください）。その場合は、そのまま通話が終わります。ただし、そのときの通信の状態によっては、受話器を置いた後に呼び出し音が鳴ることがあります。その場合は、電話をとると元の相手との通話に戻ります。

相手が応答した後に転送するとき

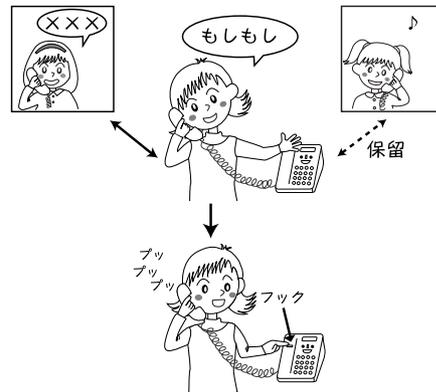
1 電話をかけてきた相手との通話中に、フックを1回押します。

受話器から “ プップップッ ” と聞こえます。

※ 通信中転送できるのは、かかってきた電話だけです。

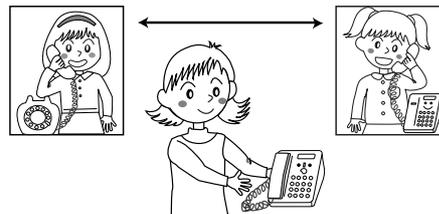
2 “ プップップッ ” と聞こえている間に、別の相手の電話番号をダイヤルします。

元の相手との通話は保留されます。保留されている相手側には、保留音が聞こえます。

※ 別の相手の電話番号を間違えたとき、話し中などで相手が応答しないときは、一度受話器を戻してください。呼び出し音が鳴ります。電話をとると、元の相手との通話に戻ります。

3 相手が応答したら、フックを1回押します。
受話器から “ プップップッ ” と聞こえます。

4 受話器から “ プップップッ ” と聞こえたら、すぐに受話器を置きます。

応答した相手と保留されていた相手との通話になります。

※ 音が聞こえる時間は2〜3秒です。転送するときは音が聞こえたらすぐに受話器を置いてください。音が消えた後も受話器をあげたままにしておくと、保留されていた相手との通話に戻ります。その時点で受話器を置くと、通話が切れてしまいます。

One Point!

◇制限事項

・1つのアナログポートで転送の操作をしている間は、他のアナログポートで通信中転送および三者通話〈P.73〉を利用できません。

・自分からかけた電話を別の相手に転送することはできません。転送できるのは相手からかかってきた電話だけです。

◇同じ相手に電話をかけ直すには（リダイヤル）

手順２の状態で次の操作をすると、最後にかけた電話番号にかけ直すことができます。（電話をかけてきた相手と通話しているときに有効です。）

1. “ プップップッ ” と聞こえている間に、［＃］→［＊］→［0］と押します。
2. 最後にかけた番号に発信します。

フレックスホンを利用できます（5）　着信転送を利用しましょう

フレックスホンの着信転送を契約していると、かかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた転送先へ自動的に転送できます。

契約 NTT

フレックスホンサービスの「着信転送」（有料）
通信中着信通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（ポート共通）」画面を開きます。

2 ［フレックスホン］の［着信転送］で「する」を選びます。

・ATコマンドでは：@P
・設定コードでは：71

［フレックスホン］	
キャッチホン(コールウェイティング)	◉しない ○する
通信中転送	◉しない ○する
三者通話	◉しない ○する
着信転送	○しない ◉する

3 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

4 設定ページの「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面を開きます。

5 着信転送を契約した契約者回線番号またはダイヤルイン番号を登録します。

→参照　P.38「電話番号を登録しましょう」

6 番号を登録した［ダイヤルイン登録番号］の［着信ポート］で、次の設定をします。

・ATコマンドでは：@K
・設定コードでは：52

着信転送を利用するダイヤルイン登録番号では、「以下の相手先に着信転送」を選びます。
着信転送を利用しないダイヤルイン登録番号では、その他の項目を選びます。

7 ［着信転送番号］に、転送先の電話番号を入力します。

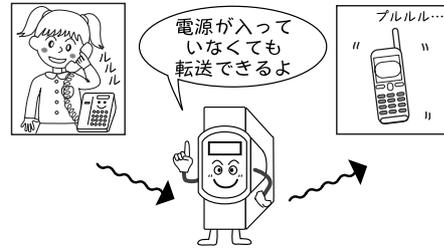
・ATコマンドでは：@Q
・設定コードでは：01

8 ［設定］ボタンをクリックします。

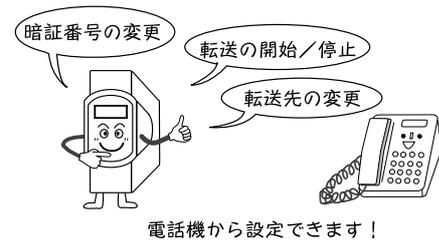
・ATコマンドでは：@B

設定されると、本体前面の液晶ディスプレイに絵文字が点灯します。
※ダイヤルイン登録番号#0～#3のうち、1つでも設定していると点灯します。

INSボイスワープサービス／マジックボックスを利用できます

◎INSボイスワープサービスはこんな活躍をします！
電話がかかってくると、登録した番号に転送します。電話機や本製品の電源を切っているときでも自動的に転送されます。

◎INSボイスワープセレクトサービスはこんな活躍をします！
特定の相手からの電話だけを、登録した番号に転送します。電話機や本製品の電源を切っているときでも自動的に転送されます。

◎マジックボックスはこんな活躍をします！
マジックボックスには、次の4つの機能があります。
・話中時録音：話し中にかかってきた電話をセンタに録音して、後で聞くことができます。
・不在時録音：留守中にかかってきた電話をセンタに録音して、外出先から聞くことができます。
・不在時転送：外出中にかかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた電話番号に転送できます。
・キャッチホン：話し中にかかってきた他の電話を受けられます。
※キャッチホンを利用する場合の設定方法は、キャッチホン（コールウェイティング）を利用する場合と同じです。
→参照　P.71「キャッチホン（コールウェイティング）を利用できます」

◎本製品を利用するとさらに便利です！
サービスの開始や停止だけでなく、転送先の変更やリモートコントロール機能の暗証番号の変更などを電話機で操作できます。

電話機から設定できます！

・本製品はスティミュラスプロトコル手順をサポートしていますので、次の設定を電話機から直接行うことができます。
【INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービス】
・転送サービスの開始（転送方法の選択）・停止
・転送先電話番号の登録
・転送先リストの指定（転送先の選択）
・無応答時の転送の起動時間（転送待ち時間）の設定
・リモートコントロール機能の設定（暗証番号の設定）
・転送トーキの設定
・転送元電話番号通知の設定
・発信者の電話番号の設定（INSボイスワープセレクトサービスのみ）
・発信者の選択方法の設定（INSボイスワープセレクトサービスのみ）
【マジックボックス】
・サービスの開始・停止
・転送先電話番号の登録
・転送先リストの指定（転送先の選択）
・無応答時の転送の起動時間（転送待ち時間）の設定
・メッセージの再生・消去
※電話機からの設定について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

・INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービスやマジックボックスについて詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

契約 NTT
INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービス（有料）
マジックボックス（有料）
発信者番号通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です（発信者番号通知サービスは、ダイヤルインサービスを契約している場合のみ）。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。なお、マジックボックスとINSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービス、およびマジックボックスとフレックスホンのINSキャッチホン（コールウェイティング）を同時に契約することはできません。

設定しましょう（ダイヤルインまたはｉ・ナンバーを契約しているときのみ）

Setting

ダイヤルインサービスまたはi・ナンバーの契約をしていないときは、設定する必要はありません。

1 INSボイスワープサービス/INSボイスワープセレクトサービスおよびマジックボックスを契約した契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録します。

→参照　P.38「電話番号を登録しましょう」

2 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます。

3 カスタマコントロールを行う電話機をつないでいるポートを確認します。
そのポートの［発信者番号］を設定します。次の中から選びます。

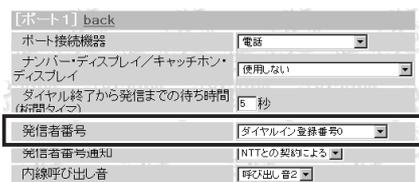
・ATコマンドでは：@T
・設定コードでは：81

ダイヤルイン登録番号1：各サービスを契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#1」に登録した場合に選びます。

ダイヤルイン登録番号2：各サービスを契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#2」に登録した場合に選びます。

ダイヤルイン登録番号3：各サービスを契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#3」に登録した場合に選びます。

ダイヤルイン登録番号0：各サービスを契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#0（契約者回線番号）」に登録した場合に選びます。

※「契約者回線番号」は選択しないでください。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

以降は、設定を行ったポートにつないだ電話機を使って、転送先電話番号の登録やリモートコントロール機能の設定などの操作を行ってください。操作方法については、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

◇設定が完了するまでに必要な時間

次の設定をするときは、最後のダイヤルを押してから設定が完了するまでに数秒かかります。すぐに設定を完了させたいときは、設定内容の最後に［＃］ボタンを押してください。

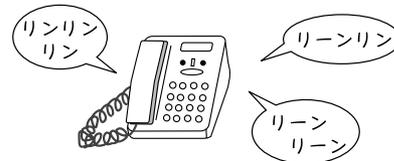
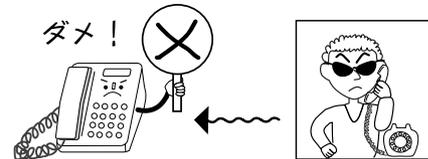
- ［転送先電話番号の登録］で登録する番号が入力最大桁数未満のとき
- ［無応答時の転送の起動時間（転送待ち時間）の設定］でパターン番号0〜9を選択したとき
（入力最大桁数などについて詳しくは、NTTまでお問い合わせください。）

※最後のダイヤルを押してから設定が完了するまでの待ち時間を変更できます。また、設定内容の最後に押すボタンを［＊］ボタンに変更できます。
→参照　P.40「電話のかけ方を詳しく設定しましょう」の「［＃］［＊］ボタンの機能を設定しましょう」

なりわけサービスを利用できます

◎なりわけサービスはこんな活躍をします！
登録した電話番号からの電話を呼び出し音で聞き分けられます。

◎本製品を利用するとさらに便利です！
電話機で直接操作できます。

3種類の中からお好みの呼び出し音を選べます。

電話を拒否できます。

・本製品はスティミュラスプロトコル手順をサポートしていますので、次の設定を電話機から直接行うことができます。
　・電話番号の登録
　・電話番号の確認
　・電話番号の削除
　※電話機からの設定について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。
・なりわけサービスについて詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。
・複数の電話番号を登録しても、それぞれを識別できません。どの電話番号からかかってきても、同じ動作になります。
・INSボイスワープセレクトサービスを契約している場合、相手を登録する電話番号リストは、INSボイスワープセレクトサービスとなりわけサービスとで兼用され、INSボイスワープセレクトサービスの設定が優先されます。

契約 NTT
なりわけサービス（有料）
発信者番号通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です（発信者番号通知サービスは、ダイヤルインサービスを契約している場合のみ）。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

設定しましょう

1 設定ページの「アナログ設定（電話帳一覧）」画面を開きます。

2 ［なりわけサービス］の項目をクリックします。

通知なし：表示圏外（S）
通知なし：理由なし
なりわけサービス

「アナログ設定（電話帳登録）」画面に設定フィールドが表示されます。

3 着信（ポート1、ポート2/3）を設定します。

・通常着信
網に登録した番号から電話がかかってきたときの呼び出し音、または着信拒否を、ポートごとに設定します。次の中から選びます。

着信しない：相手からの着信を拒否して、迷惑な電話を防止できます。相手には、話し中音が聞こえます。

呼び出し音1：“リーン・リーン”

呼び出し音2：“リーンリン・リーンリン”

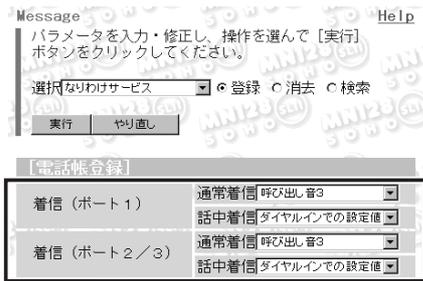
呼び出し音3：“リンリンリン・リンリンリン”

ダイヤルイン（i・ナンバー初期値）：「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［外線呼び出し音］で設定した内容にしたがいます。（購入時の設定です。）

・話中着信
別の相手と通話中に網に登録した番号から電話がかかってきた場合に、着信させるかさせないかを設定します。次の中から選びます。
着信しない：通話中にはこの相手を着信させません。

ダイヤルイン（i・ナンバー初期値）：「アナログ設定（ダイヤルイン）」画面の［外線呼び出し音］で設定した内容にしたがいます。（購入時の設定です。）

※通話中に着信させる場合は、さらに次の設定も必要です。
- ［通常着信］で「着信しない（話中音）」以外を選択
- 擬似キャッチホン（マルチアンサー）またはキャッチホン（コールウェイティング）を利用できる状態にする
  →参照　P.56「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」
  →参照　P.71「キャッチホン（コールウェイティング）を利用しましょう」

※［通常着信］を「着信しない」に設定すると、［話中着信］の設定にかかわらず、通話中には着信しません。

4 ［登録］ボタンを選びます。

選択 なりわけサービス　登録　消去　検索

5 ［実行］ボタンをクリックします。

ダイヤルインサービスまたはｉ・ナンバーの契約をしていない場合は、以上で設定は終了です。

6 ダイヤルインサービスまたはｉ・ナンバーの契約している場合は、なりわけサービスを契約した契約者回線番号またはダイヤルイン番号を登録します。
→参照　P.38「電話番号を登録しましょう」

7 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます。

8 カスタマコントロールを行う電話機をつないでいるポートを確認します。
そのポートの［発信者番号］を設定します。次の中から選びます。

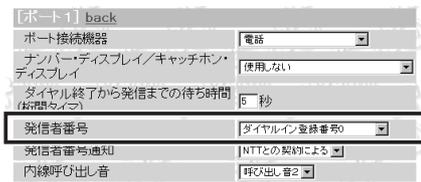
・ATコマンドでは：@T
・設定コードでは：81

ダイヤルイン登録番号1：なりわけサービスを契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#1」に登録した場合に選びます。

ダイヤルイン登録番号2：なりわけサービスを契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#2」に登録した場合に選びます。

ダイヤルイン登録番号3：なりわけサービスを契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#3」に登録した場合に選びます。

ダイヤルイン登録番号0：ダイヤルインをグローバル着信ありで契約し、なりわけサービスを契約者回線番号で契約した場合に選びます。

※「契約者回線番号」は選択しないでください。

9 ［設定］ボタンをクリックします。

・ATコマンドでは：@B

以降は、設定を行ったポートにつないだ電話機を使って、電話番号の登録、削除などの操作を行ってください。操作方法については、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

◇設定が完了するまでに必要な時間

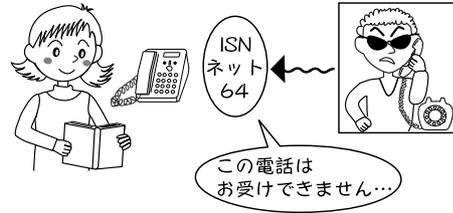
次の設定を行うときは、最後のダイヤルを押してから設定が完了するまでに数秒かかります。すぐに設定を完了させたいときは、設定内容の最後に［#］ボタンを押してください。

・「電話番号の登録」で登録する番号が入力最大桁数未満のとき
・「電話番号の削除」で削除する番号が入力最大桁数未満のとき
（入力最大桁数などについて詳しくは、NTTまでお問い合わせください。）

※最後のダイヤルを押してから設定が完了するまでの待ち時間を変更できます。また、設定内容の最後に押すボタンを［＊］ボタンに変更できます。
→参照　P.40「電話のかけ方を詳しく設定しましょう」の「［#］［＊］ボタンの機能を設定しましょう」

迷惑電話おことわりサービスを利用できます

◎迷惑電話おことわりサービスはこんな活躍をします！

迷惑電話を受けたときに登録操作を行うと、以降、登録した電話番号からは電話がかかってきません。迷惑電話の相手には、INSネット64が自動的にメッセージで応答します。

迷惑電話の登録・解除は、電話機から操作できます。

◎本製品を利用するとさらに便利です！

迷惑電話の登録は、通常、自分から電話を切った後に行います。
さらに本製品では、相手が先に電話を切ったときや、相手と話している最中にも登録できます。

・フレックスホンによる保留があるときは、迷惑電話を登録できません。
・相手側の交換機の種類によっては、迷惑電話の登録ができないことがあります。
・迷惑電話おことわりサービスについて詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

迷惑電話おことわりサービス（有料）
発信者番号通知サービス（無料）
※NTTとの契約が必要です（発信者番号通知サービスは、ダイヤルインサービスを契約している場合のみ）。各サービスの内容について詳しくは、最寄りのNTTまでお問い合わせください。

設定しましょう（ダイヤルインまたはi・ナンバーを契約しているときのみ）

ダイヤルインサービスまたはi・ナンバーの契約をしていないときは、設定する必要はありません。

1 迷惑電話おことわりサービスを契約した契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録します。
→参照　P.36「電話番号を登録しましょう」

2 設定ページの「アナログ設定（ポートごと）」画面を開きます。

3 カスタマコントロールを行う電話機をつないでいるポートを確認します。
そのポートの［発信者番号］を設定します。次の中から選びます。

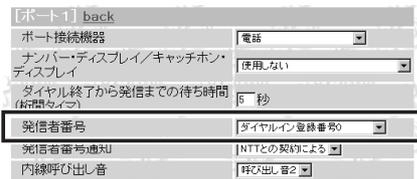
・ATコマンドでは：@T
・設定コードでは：81

ダイヤルイン登録番号1：迷惑電話おことわりサービス契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#1」に登録した場合に選びます。

ダイヤルイン登録番号2：迷惑電話おことわりサービス契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#2」に登録した場合に選びます。

ダイヤルイン登録番号3：迷惑電話おことわりサービス契約した番号を「ダイヤルイン登録番号#3」に登録した場合に選びます。

ダイヤルイン登録番号0：ダイヤルインを「グローバル着信あり」で契約し、迷惑電話おことわりサービスを契約者回線番号で契約した場合に選びます。

※「契約者回線番号」は選択しないでください。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

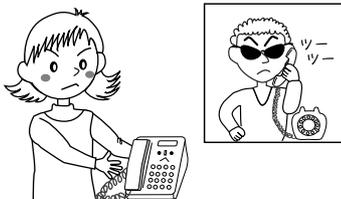
・ATコマンドでは：@B

以降は、設定を行ったポートにつないだ電話機を使って、迷惑電話の登録、解除などの操作を行います。

迷惑電話を登録しましょう

本製品では、次のときに迷惑電話を登録できます。
・自分から電話を切ったとき
・相手が先に電話を切ったとき　→参照　P.86
・相手と話しているとき　→参照　P.86

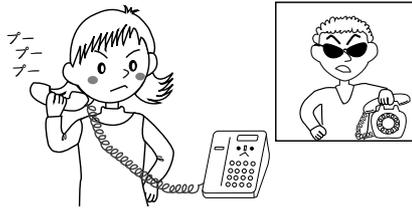
自分から電話を切ったとき

1 迷惑電話を受けた後、自分から受話器を置いて電話を切ります。

2 受話器を上げて、「1442」に電話をかけます。
登録に成功すると「登録を完了しました」という音声ガイダンスが流れます。
※ 電話を切ってから60秒以内に操作してください。60秒を超えると、登録できません。
※ 60秒以内に2回以上電話がかかってきた場合、すべて迷惑電話として登録できません。

3 受話器を置きます。

相手が先に電話を切ったとき

1 迷惑電話の相手が先に電話を切ります。

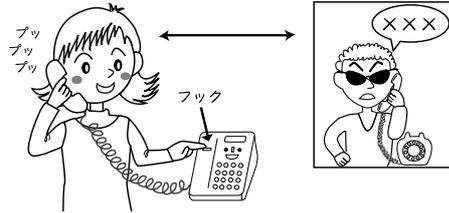
“ プープープー ” と聞こえます。

2 「1442」とダイヤルし、発信します。

登録に成功すると “ ピー ”、失敗すると “ ブブブ ” と聞こえます。

3 受話器を置きます。

相手と話しているとき

1 迷惑電話の相手と通話中に、フックを1回押します。

“ プッブッブッ ” と聞こえます。

2 ［#］ボタンを押します。

無音になります。

3 もう一度［#］ボタンを押します。

4 「1442」とダイヤルし、発信します。

登録に成功すると “ ピー ”、失敗すると “ ブブブ ” と聞こえます。

※ 登録の操作をしている間に相手が電話を切った場合は、音声ガイダンスによって登録が成功したかどうかが分かります。

5 迷惑電話の相手との通話に戻ります。

※ 登録の操作をしている間に相手が電話を切った場合は、そのまま受話器を置き、続けて「自分から電話を切ったとき」〈P.85〉の手順２以降の操作をしてください。

迷惑電話を解除しましょう

この操作をすると、登録されている電話番号がすべて解除されます。電話番号を個別に解除することはできません。

1 受話器を上げて、「1449」に電話をかけます。

解除に成功すると「登録されている電話番号をすべて解除しました」という音声ガイダンスが流れます。

2 受話器を置きます。

設定方法を確認しましょう

本製品に相手先の情報を登録するには、WWWブラウザから本製品の設定ページを開いて行います。設定方法には、クイック設定と詳細設定があります。ただし、設定ページへのアクセス権が設定されている場合は、設定ページからの設定できないことがあります（下の「お願い」を参照）。
※設定方法については「2　設定方法について」〈P.22〉を、設定ページの開き方については「設定ページを開きましょう」〈P.27〉を参照してください。

◎クイック設定
クイック設定ページを使って、相手先の必要最低限の情報を設定します。クイック設定ページには、次の4種類あります。接続形態に応じていずれか1つを選択して、設定を行います。
・端末型ダイヤルアップ：INSネット64を利用して、端末型ダイヤルアップ接続するための設定を行います。
・LAN型ダイヤルアップ：INSネット64を利用して、LAN型ダイヤルアップ接続するための設定を行います。
・OCNエコノミー：OCNエコノミーサービスを利用して、インターネットに常時接続するための設定を行います。
・専用線：専用線などを利用して、常時接続するための設定を行います。

◎詳細設定
詳細設定ページを使って、本製品の機能をより詳しく設定します。

ここでは、「クイック設定」で相手先としてプロバイダを登録する方法を解説します。
なお、この設定はEthernet上のいずれかのパソコンで一度行います。何度も設定する必要はありません。
「詳細設定」については、活用ガイド CD-ROM「第１部　Ethernet上のパソコンを使う」を参照してください。

◇設定ページへのアクセス権について
「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定ページから設定できません。また、設定ページからの操作が制限されることがあります。その場合は、管理者に相談してください。
アクセス権の設定について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第1部「5-22　パスワードを設定して、設定ページへのアクセスを制限する（ユーザアカウント機能）」を参照してください。
なお、設定ページ以外の方法（簡単設定ソフト、ATコマンド）で設定する場合、制限はありません。

One Point!

◇設置から端末型ダイヤルアップ接続まで行う簡単設定ソフト「設定らくだ」(Windows95/98)
「設定らくだ」は、本製品のEthernetポートにパソコンをつなぐ方法やパソコンのTCP/IPの設定方法などを順に解説しています。解説どおりに操作するだけでプロバイダに端末型ダイヤルアップ接続できます。
詳しくは、「2　設定方法について」〈P.22〉を参照してください。

◇Ethernet上のパソコンで設定できる本製品の機能
このほかにも、Ethernet上のパソコンでは、PIAFS対応の通信機器から着信を受けたり、インターネットにアクセスできるパソコンを限定したりというルータ機能の設定を行うことができます。
Ethernet上のパソコンでの設定方法について詳しくは、活用ガイド CD-ROM「第１部　Ethernet上のパソコンを使う」をお読みください。

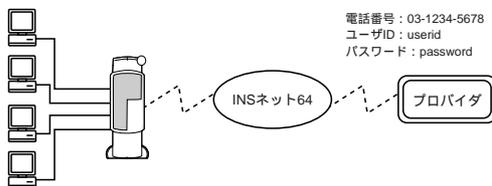
ダイヤルアップ接続しましょう

インターネットに接続する前に、プロバイダへの加入が必要です。加入契約がお済みでない方は、パソコン関連の雑誌などを参照して、手続きを行ってください。
なお、Ethernet上のパソコンから接続できるアクセスポイントの回線速度は、同期64Kbps、同期128Kbps、非同期38.4Kbps、PIAFS 32Kbps、PIAFS 64Kbps（Ver.2.0/Ver.2.1）です。
※クイック設定では、同期64Kbpsのアクセスポイントに接続するための設定を行います。同期128Kbps、非同期38.4Kbps、PIAFS 32Kbps、PIAFS 64Kbpsのアクセスポイントに接続するときは、詳細設定で設定を行ってください。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「第２章　ダイヤルアップ接続する」を参照してください。

プロバイダに接続するために設定しましょう

プロバイダに接続するための設定方法について解説します。設定方法は、プロバイダと契約した接続形態によって異なります。
・端末型ダイヤルアップ〈P.88〉
・LAN型ダイヤルアップ〈P.90〉
※以降の画像は、Internet Explorer4.0（Windows版）を使用した例です。

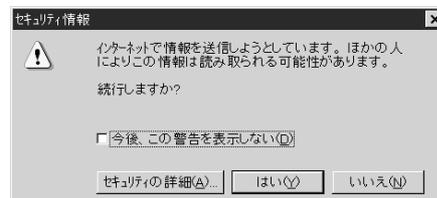
端末型ダイヤルアップ接続

ここでは、次の場合を例に挙げて解説します。

1 WWWブラウザを起動し、クイック設定（端末型ダイヤルアップ）画面を開きます。　→参照　P.26
※ほかのページが表示された場合は、画面左側の「端末型ダイヤルアップ」または「→クイック設定」という文字をクリックします。

2 設定項目を入力します。

※漢字、ひらがな、カタカナは入力できません。

[接続設定]	
●相手先電話番号	03-1234-5678
相手先電話番号(予備)	
●送信ユーザID	userid
●送信パスワード	**********
DNSサーバアドレス	
●自動接続	◉しない ○する

相手先電話番号：プロバイダの電話番号を入力
送信ユーザID：プロバイダから指定されたユーザID（プロバイダによってはアカウント）を入力
送信パスワード：プロバイダから指定されたパスワードを入力
DNSサーバアドレス：プロバイダから指定されたDNSサーバのアドレスを入力
自動接続：自動接続するかどうかを選択
※［相手先電話番号］［送信ユーザID］［送信パスワード］［DNSサーバアドレス］は、プロバイダに確認してください。
※［相手先電話番号（予備）］は必要に応じて設定してください。設定時は、OnePoint!「2個の電話番号を使って発信する」〈P.89〉を参照してください。
※［自動接続］の選択内容によって、接続方法が異なります。詳しくは、「接続しましょう」〈P.92〉を参照してください。

3 必要な項目を入力したら、［設定］ボタンをクリックします。

※表示されるダイアログは、使用しているWWWブラウザによって異なります。また、WWWブラウザや、WWWブラウザの設定によっては、ダイアログが表示されないこともあります。
※ダイアログは、設定した内容を本製品に書き込むために表示されます。外部のネットワークやプロバイダに送信するわけではありません。

4 ［はい］ボタンをクリックすると、設定した内容が本製品に書き込まれます。
※本製品の電源をOFFにしても、設定した内容は消去されません。

注意

セキュリティを確保するため、設定ページを開くときのパスワードを設定することをお勧めします。詳細設定ページ［ルータ設定（ユーザ）］画面で設定します。

設定方法については活用ガイド CD-ROM 第１部「5-22　パスワードを設定して、設定ページへのアクセスを制限する」を参照してください。

以上でクイック設定（端末型ダイヤルアップ）は終了しました。Ethernet上のすべてのパソコンが、「3　設定の準備をしましょう」〈P.23〉の内容どおりに設定されているか確認してください。これで、Ethernet上のすべてのパソコンからプロバイダへの接続が可能になります。

STOP お願い

◇必ず確認！

本製品を設置したあとは、必ず［切断／接続状況］画面、［情報表示（通信料金）］画面、あるいは本体前面の液晶ディスプレイ・LEDを確認してください。

［切断／接続状況］画面については「接続状況を確認する」〈P.93〉を、［情報表示（通信料金）］画面については活用ガイド CD-ROM 第１部「6-8　通信料金の情報を見る／消去する」を参照してください。

また、ネットワークの設定内容や運用によっては、回線が長時間接続されたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。詳しくは、「Ethernet上のパソコンの通信によって意図しない自動接続をする」〈P.104〉を参照してください。

One Point!

◇自動接続を止めるとき

クイック設定（端末型ダイヤルアップ）画面の［自動接続］で［する］を選択したときは、自動で回線を接続します。自動接続を止めるときは、［自動接続］で［しない］を選択して［設定］ボタンをクリックします。

◇2個の電話番号を使って発信する

発信時に2個の電話番号を使うことができます。話し中などで最初の電話番号に接続できないときは、自動的に2個めの電話番号に発信します。

詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「5-6　発信時に2個の電話番号を使う／自動接続先を2件登録する」を参照してください。

One Point!

◇クイック設定（端末型ダイヤルアップ）ページに対応する詳細設定ページの設定項目

クイック設定（端末型ダイヤルアップ）ページで設定した内容は、詳細設定ページの次の設定項目に反映されます。

クイック設定ページ	詳細設定ページ
［相手先電話番号］	［接続／相手先登録#0］画面 ［相手先電話番号１］
［相手先電話番号（予備）］	［接続／相手先登録#0］画面 ［相手先電話番号２］
［送信ユーザID］	［接続／相手先登録#0］画面 ［送信ユーザID］
［送信パスワード］	［接続／相手先登録#0］画面 ［送信パスワード］
［DNSサーバアドレス］	［接続／相手先登録#0］画面 ［DNSサーバアドレス］
［自動接続］	［自動接続相手先］画面 ［自動接続相手先１］

また、クイック設定（端末型ダイヤルアップ）画面で設定すると、［ルータ設定（IP）］画面のオプション欄に次のフィルタが自動的に設定されます。

・Windows95/98やWindowsNT4.0が行う定期的な通信によって起きる「意図しない自動接続」を防止するためのフィルタ
  ip filter 30 restrict out * * * * 137-139 remote *
  ip filter 31 restrict out * * * 137-139 * remote *
  ip filter 32 restrict out * * udp 137 domain remote *
  ※これらのフィルタによって、相手先の共有フォルダを利用する際に、Microsoftネットワークを利用できなくなることがあります。必要に応じて、オプション欄から削除してください。
・WWWブラウザを終了するときに起こる「意図しない自動接続」を防止するためのフィルタ
  ip filter 29 restrict out * * tcpfin * * remote *
  ※「tcpfin」は、TCPセッションの終了（FIN）パケットおよびリセット（RST）パケットを対象とします。
・Ethernet上にWindows2000 Serverがあるときに起こる「意図しない自動接続」を防止するためのフィルタ
  ip filter 28 reject dns qtype 6

なお、設定項目について詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　設定ページリファレンス」を参照してください。

LAN型ダイヤルアップ接続

ここでは、次の場合を例に挙げて解説します。

1 WWWブラウザを起動し、クイック設定（LAN型ダイヤルアップ）画面を開きます。 →参照　P.27

※ ほかのページが表示された場合は、画面左側の「LAN型ダイヤルアップ」または「→クイック設定」の文字をクリックします。

2 プロバイダの電話番号などを入力します。

※ 漢字、ひらがな、カタカナは入力できません。

［接続設定］	
●相手先電話番号	03-1234-5678
相手先電話番号（予備）	
●送信ユーザID	userid
●送信パスワード	**********
●自動接続	⊙しない ○する
［LAN側設定］	
●本体のIPアドレス/サブネットマスク長	172.168.1.1/29
●DHCPサーバ機能	⊙OFF ○ON
開始IPアドレス/個数	
ドメイン名	

相手先電話番号：プロバイダの電話番号を入力

送信ユーザID：プロバイダから指定されたユーザID（プロバイダによってはアカウント）を入力

送信パスワード：プロバイダから指定されたパスワードを入力

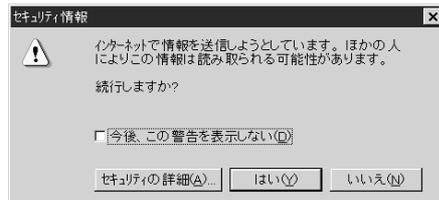
本体のIPアドレス/サブネットマスク長：プロバイダから指定された、本製品に設定するIPアドレスとサブネットマスク長を入力

自動接続：自動接続するかどうかを選択

※［自動接続］の選択内容によって、接続方法が異なります。詳しくは、「接続しましょう」〈P.92〉を参照してください。

※ IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

※ そのほかの項目は、必要に応じて設定してください。
なお、［相手先電話番号（予備）］を設定したときは、OnePoint!「2個の電話番号を使って発信する」〈P.91〉を参照してください。
また、［DHCPサーバ機能］［開始IPアドレス/個数］の設定を変更すると、パソコンのTCP/IP設定の変更も必要です。詳しくは、活用ガイド 第１部「1　LAN環境を整える」を参照してください。

3 必要な項目を入力したら、［設定］ボタンをクリックします。

※ 表示されるダイアログは、使用しているWWWブラウザによって異なります。また、WWWブラウザや、WWWブラウザの設定によっては、ダイアログが表示されないこともあります。

※ ダイアログは、設定した内容を本製品に書き込むために表示されます。外部のネットワークやプロバイダに送信するわけではありません。

4 ［はい］ボタンをクリックすると、設定した内容が本製品に書き込まれます。

※ 本製品の電源をOFFにしても、設定した内容は消去されません。

セキュリティを確保するため、設定ページを開くときのパスワードを設定することをお勧めします。詳細設定ページ［ルータ設定（ユーザ）］画面で設定します。
設定方法については活用ガイド 第１部「5-22　パスワードを設定して、設定ページへのアクセスを制限する」を参照してください。

以上でクイック設定（LAN型ダイヤルアップ）は終了しました。Ethernet上のすべてのパソコンが、「3　設定の準備をしましょう」〈P.23〉の内容どおりに設定されているか確認してください。これで、Ethernet上のすべてのパソコンからプロバイダへの接続が可能になります。

STOP お願い

◇必ず確認！
本製品を設置したあとは、必ず［切断／接続状況］画面、［情報表示（通信料金）］画面、あるいは本体前面の液晶ディスプレイ・LEDを確認してください。
［切断／接続状況］画面については「接続状況を確認する」〈P.93〉を、［情報表示（通信料金）］画面については活用ガイド CD ROM 第１部「6-8　通信料金の情報を見る／消去する」を参照してください。
また、ネットワークの設定内容や運用によっては、回線が長時間接続されたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。詳しくは、「Ethernet上のパソコンの通信によって意図しない自動接続をする」〈P.104〉を参照してください。

One Point!

◇自動接続を止めるとき
クイック設定（LAN型ダイヤルアップ接続用）の［自動接続］で［する］を選択したときは、自動で回線を接続します。自動接続を止めるときは、［自動接続］で［しない］を選択して［設定］ボタンをクリックします。

◇2個の電話番号を使って発信する
発信時に2個の電話番号を使うことができます。話し中などで最初の電話番号に接続できないときは、自動的に2個めの電話番号に発信します。
詳しくは、活用ガイド CD ROM 第１部「5-6　発信時に2個の電話番号を使う／自動接続先を2件登録する」を参照してください。

One Point!

◇クイック設定（LAN型ダイヤルアップ）ページに対応する詳細設定ページの設定項目
クイック設定（LAN型ダイヤルアップ）ページで設定した内容は、詳細設定ページの次の設定項目に反映されます。

クイック設定ページ	詳細設定ページ
［相手先電話番号］	［接続／相手先登録#0］画面 ［相手先電話番号１］
［相手先電話番号（予備）］	［接続／相手先登録#0］画面 ［相手先電話番号２］
［送信ユーザID］	［接続／相手先登録#0］画面 ［送信ユーザID］
［送信パスワード］	［接続／相手先登録#0］画面 ［送信パスワード］
［本体のIPアドレス/サブネットマスク長］	［ルータ設定（IP）］画面 ［本体のIPアドレス/サブネットマスク長］
［DHCPサーバ機能］	［ルータ設定（IP）］画面 ［DHCPサーバ機能］
［開始IPアドレス/個数］	［ルータ設定（IP）］画面 ［開始IPアドレス/個数］
［ドメイン名］	［ルータ設定（IP）］画面 ［ドメイン名］
［自動接続］	［自動接続相手先］画面 ［自動接続相手先１］

また、クイック設定（LAN型ダイヤルアップ）ページで設定すると、［ルータ設定（IP）］画面のオプション欄に次のフィルタが自動的に設定されます。

・Windows95/98やWindowsNT4.0が行う定期的な通信によって起きる「意図しない自動接続」を防止するためのフィルタ
ip filter 30 restrict out * * * * 137-139 remote *
ip filter 31 restrict out * * * 137-139 * remote *
ip filter 32 restrict out * * udp 137 domain remote *
※これらのフィルタによって、相手先の共有フォルダを利用する際に、Microsoftネットワークを利用できなくなることがあります。必要に応じて、オプション欄から削除してください。

・WWWブラウザを終了するときに起こる「意図しない自動接続」を防止するためのフィルタ
ip filter 29 restrict out * * tcpfin * * remote *
※「tcpfin」は、TCPセッションの終了（FIN）パケットおよびリセット（RST）パケットを対象とします。

・Ethernet上にWindows2000 Serverがあるときに起こる「意図しない自動接続」を防止するためのフィルタ
ip filter 28 reject dns qtype 6

なお、設定項目について詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　設定ページリファレンス」を参照してください。

接続しましょう

クイック設定ページで登録したプロバイダに接続し、インターネットのサービスを使用する方法について解説します。接続する方法は、クイック設定ページの［自動接続］の設定内容によって異なります。

・［自動接続］で［する］を選択したとき〈P.92〉　：自動で回線を接続します
・［自動接続］で［しない］を選択したとき〈P.93〉：手動で回線を接続します

なお、接続すると、本体前面の液晶ディスプレイに相手先電話番号が表示されます。液晶ディスプレイの表示については、「液晶ディスプレイ・LEDを確認しましょう」〈巻頭ページ〉を参照してください。

STOP お願い

◇必ず確認！
本製品を設置したあとは、必ず［切断／接続状況］画面、［情報表示（通信料金）］画面、あるいは本体前面の液晶ディスプレイ・LEDを確認してください。
［切断／接続状況］画面については「接続状況を確認する」〈P.93〉を、［情報表示（通信料金）］画面については活用ガイド CD-ROM 第１部「6-8　通信料金の情報を見る／消去する」を参照してください。
また、ネットワークの設定内容や運用によっては、回線が長時間接続されたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。詳しくは、「Ethernet上のパソコンの通信によって意図しない自動接続をする」〈P.104〉を参照してください。

自動で回線を接続する

Ethernet上のパソコンからインターネットにアクセスするための操作（WWWブラウザでURLを指定するなど）を行うと、本製品が自動的に電話をかけてプロバイダに接続します。
ここでは、WWWブラウザを使用して、ホームページを閲覧する操作を例に挙げて解説します。

1 WWWブラウザを起動し、表示させたいホームページのURLを入力します。

2 ［Enter］キーを押すと、プロバイダに自動的に接続され、指定したホームページが表示されます。

メールソフト・FTPソフトなどの場合も同様に、ソフトウェアで接続の操作を実行すると、自動的にプロバイダに接続されます。

! Trouble ?
正しく通信できないときは
DNSサーバのIPアドレスを検出できないときは
→参照　P.112
自動接続できないときは
→参照　P.116

One Point!

◇自動接続を制限する機能
購入時は、次のように制限されています。
・料金による制限
通信料金が7日間で3000円を越えると、以降自動接続できなくなります。
・接続回数による制限
自動接続の回数が60分間で20回を越えると、以降自動接続できなくなります。
・最大接続時間による制限
接続状態のまま180分間経過すると、自動的に回線が切断され、以降自動接続できなくなります。
制限の内容は、［情報表示（自動接続制限）］画面で確認できます。
詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4　接続を制限する」を参照してください。

◇自動接続できる時間帯を制限する
自動接続できる時間帯の設定は、詳細設定ページ［接続／相手先登録#0］画面で行います。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4　接続を制限する」の「指定時間内だけ自動接続できる」を参照してください。

手動で回線を接続する

本製品の設定ページを開いて、手動で回線を接続してプロバイダに接続します。

1 WWWブラウザを起動し、本製品の設定ページを開きます。

2 クイック設定（端末型ダイヤルアップ）、クイック設定（LAN型ダイヤルアップ）のうち、設定を行った画面を開きます。

3 ［接続］ボタンをクリックすると、回線が接続されます。
つづけて、回線の接続状態を確認してください。
→参照　「接続状況を確認する」

WWWブラウザでホームページを見たり、メールソフトでメールを読むことなどができます。

正しく通信できないときは
DNSサーバのIPアドレスを検出できないときは
→参照　P.112
困ったときは
プロバイダに接続できないときは
→参照　P.116

接続状況を確認する

1 WWWブラウザを起動し、本製品の設定ページを開きます。

2 クイック設定（端末型ダイヤルアップ）、クイック設定（LAN型ダイヤルアップ）のうち、現在接続している相手先が設定されている画面を開きます。
現在の回線の接続状況が表示されます。
※ さらに詳しい接続状況が、［切断／接続状況］画面で確認できます。［切断／接続状況］画面を開くときは、画面左側の「切断／接続状況」の文字をクリックします。

切断しましょう

回線を切断する方法は２種類あります。
・自動で回線を切断します〈P.93〉
・手動で回線を切断します〈P.93〉
なお、切断すると、本体前面の液晶ディスプレイに切断理由が表示されます。切断理由については、「切断理由の表示（液晶ディスプレイ）」〈P.118〉を参照してください。

自動で回線を切断する

本製品には、自動切断タイマが搭載されています。インターネットにアクセスし、一定時間、回線上で通信がないときは、自動的に回線が切断されます。出荷時の設定では、150秒間通信がないと、自動的に回線が切断されます。

切断する時間は、詳細設定ページ［接続／電話帳登録］画面で変更することができます。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第1部「2-3　切断する」の「自動切断する」を参照してください。

注意

必ず、［切断／接続状況］画面で、回線が正しく切断されたかどうかを確認してください。　→参照　「接続状況を確認する」

手動で回線を切断する

すぐに回線を切断したいときは、手動で回線を切断します。

1 WWWブラウザを起動し、本製品の設定ページを開きます。

2 クイック設定（端末型ダイヤルアップ）、クイック設定（LAN型ダイヤルアップ）のうち、現在接続している相手先が設定されている画面を開きます。

3 ［切断］ボタンをクリックすると、回線が切断されます。
つづけて、［切断／接続状況］画面で、正しく回線が切断されたかどうかを確認してください。
→参照　「接続状況を確認する」

常時接続しましょう

常時接続するための設定方法について解説します。設定方法は、利用する常時接続サービスによって異なります。
・OCNエコノミーサービス〈P.94〉
・専用線〈P.97〉：専用線（64Kbps/128Kbps)、ディジタルアクセス64/128やODNなど
なお、常時接続サービスを利用する場合は、アナログポートにつないだアナログ機器を使用できません。

設定しましょう

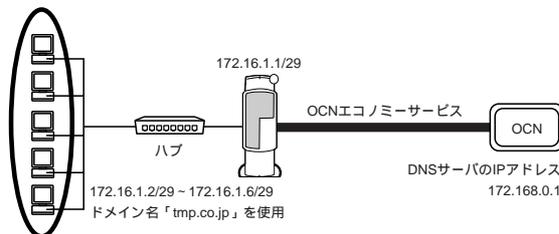
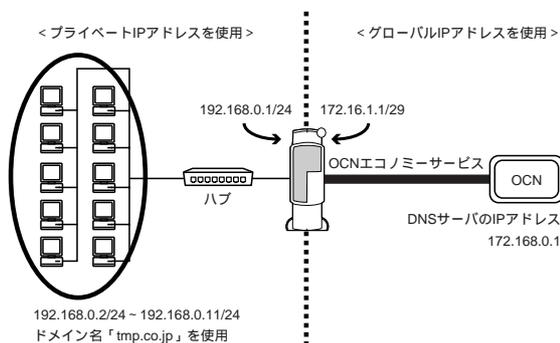
※以降の画像は、Internet Explorer4.0（Windows版）を使用した例です。

OCNエコノミーサービス

ここでは、次ような契約内容を例に挙げて解説します。
＜契約内容＞
OCN側のDNSサーバ（172.168.0.1/29）を使用
「172.16.1.0/29～172.16.1.7/29」の８個のグローバルIPアドレスを取得

172.16.1.0	固定（ネットワークアドレスとして使用）
172.16.1.1	本製品に割り当て
172.16.1.2	パソコンに割り当て
172.16.1.3	パソコンに割り当て
172.16.1.4	パソコンに割り当て
172.16.1.5	パソコンに割り当て
172.16.1.6	パソコンに割り当て
172.16.1.7	固定（ブロードキャストアドレスとして使用）

設定内容は、Ethernet上のパソコンの台数やパソコンに割り当てるIPアドレスの種類やAutoNAT機能を使うかどうかによって異なります。
※AutoNAT機能については、「用語解説」〈P.122〉または活用ガイド CD ROM 第３部「技術解説」を参照してください。

◎パターン１
・Ethernet上のパソコンが５台以下のとき
・Ethernet上のパソコンにグローバルIPアドレスを割り当てるとき（AutoNAT機能を使いません）
※Ethernet上のパソコンが４台以下の場合、ハブは必要ありません。直接、本製品のEtherポートにつないでください。

◎パターン２
・Ethernet上のパソコンが６台以上のとき
・Ethernet上のパソコンにプライベートIPアドレスを割り当てるとき（AutoNAT機能を使います）

1 WWWブラウザを起動し、「クイック設定（OCNエコノミー)」画面を開きます。　→参照　P.27
※ほかのページが表示された場合は、画面左側の「OCNエコノミー」または「→クイック設定」の文字をクリックします。

2 本製品に設定するIPアドレスなどを入力します。
※漢字、ひらがな、カタカナは入力できません。

OCN契約のルータアドレス/サブネットマスク長：
OCNエコノミーサービス契約時に指定された、ルータに設定するグローバルIPアドレスとサブネットマスク長を入力

OCN側DNSサーバアドレス：OCNエコノミーサービス契約時に指定された、OCN側のDNSサーバのIPアドレスとサブネットマスク長を入力

LAN側のルータアドレス/サブネットマスク長：本製品に設定するIPアドレスとサブネットマスク長を入力

DHCPサーバ機能：本製品からパソコンにIPアドレスを割り当てる場合はONを選択

開始IPアドレス/個数：［DHCPサーバ機能］をONにした場合、パソコンに割り当てるIPアドレスの範囲を入力

ドメイン名：ドメイン名を使用するときは入力

ログインユーザID：設定ページを開くときのユーザIDを入力（購入したときは「admin」と入力されています）

ログインパスワード：設定ページを開くときのパスワードを入力

ログインパスワード（再入力）：［ログインパスワード］に設定した内容を再度入力

※ IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

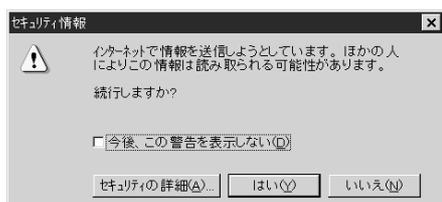
※［DHCPサーバ機能］［開始IPアドレス/個数］の設定を変更すると、パソコンのTCP/IP設定の変更も必要です。
詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「1　LAN環境を整える」を参照してください。

＜設定例＞

	パターン１	パターン２
1	172.16.1.1/29	172.16.1.1/29
2	172.168.0.1	172.168.0.1
3	172.16.1.1/29	
192.168.0.1/24		
4	ON	ON
5	172.16.1.2/5	
192.168.0.2/10		
6	tmp.co.jp	tmp.co.jp
7	admin	admin

3 必要な項目を入力したら、［設定］ボタンをクリックします。

※ 表示されるダイアログは、使用しているWWWブラウザによって、異なります。また、WWWブラウザやWWWブラウザの設定によっては、ダイアログが表示されないこともあります。

※ ダイアログは、設定した内容を本製品に書き込むために表示されます。外部のネットワークやプロバイダに送信するわけではありません。

4 ［はい］ボタンをクリックすると、設定した内容が本製品に書き込まれます。

※ 本製品の電源をOFFにしても、設定した内容は消去されません。

5 本製品を再起動します

液晶ディスプレイには「センヨウセン2B　ルータ」と表示され、本体前面のLED（B1とB2）が点灯します。

注意

・セキュリティを確保するため、［ログインユーザID］［ログインパスワード］を設定することをお勧めします。

・［クイック設定（OCNエコノミー）］画面で［ログインユーザID］を変更または［ログインパスワード］を設定した後は、設定ページを開こうとすると、必ずユーザIDおよびパスワードを要求されます。その際は、［クイック設定（OCNエコノミー）］画面で設定した［ログインユーザID］［ログインパスワード］を入力してください。

以上でクイック設定（OCNエコノミー）は終了しました。Ethernet上のすべてのパソコンが、「3　設定の準備をしましょう」〈P.23〉の内容どおりに設定されているか確認してください。これで、Ethernet上のすべてのパソコンから常時インターネットを利用できます。

なお、活用ガイド CD-ROM では、相手先からEthernet上のサーバにアクセスするときの設定例を説明しています。あわせて参照してください。

OnePoint!

◇クイック設定（OCNエコノミー）ページに対応する詳細設定ページの設定項目

クイック設定（OCNエコノミー）ページで設定した内容は、詳細設定ページの次の設定項目に反映されます。

クイック設定ページ	詳細設定ページ
［OCN契約のルータアドレス/サブネットマスク長］	◎P.94のパターン１の場合 ［ルータ設定（IP）］画面 ［本体のIPアドレス／サブネットマスク長］ ◎P.94のパターン２の場合 ［ルータ設定（IP）］画面 オプション欄の［IPアドレス変換（NAT）テーブルの登録］ ※P.94の例のとき ip nat 1 192.168.0.1/*/* 172.16.1.1 remote 0
［OCN側DNSサーバアドレス］	［接続／相手先登録#0］画面 ［DNSサーバアドレス］
［LAN側のルータアドレス/サブネットマスク長］	［ルータ設定（IP）］画面 ［本体のIPアドレス/サブネットマスク長］
［DHCPサーバ機能］	［ルータ設定（IP）］画面 ［DHCPサーバ機能］
［開始IPアドレス/個数］	［ルータ設定（IP）］画面 ［開始IPアドレス/個数］
［ドメイン名］	［ルータ設定（IP）］画面 ［ドメイン名］
［ログインユーザID］	［ルータ設定（ユーザ）］画面 管理者の［ユーザID］
［ログインパスワード］	［ルータ設定（ユーザ）］画面 管理者の［パスワード］
［ログインパスワード（再入力）］	［ルータ設定（ユーザ）］画面 管理者の［パスワード（再入力）］

また、クイック設定（OCNエコノミー）で設定すると、［ルータ設定（IP）］画面のオプション欄に次のフィルタが自動的に設定されます。

・WAN側からの本製品へのアクセスを防止するためのフィルタ
  ip filter 30 reject in * ［本製品のIPアドレス］/32 tcpest * * remote 0
  ※このフィルタによって、WAN側から本製品へアクセスすることができなくなります。特に必要がない限り、削除しないでください。

・WAN側からの不正なアクセスを防止するためのフィルタ
  ip filter 31 reject in * * tcpest * * remote 0
  ※このフィルタによって、WAN側からTCPのセッションをオープンすることができなくなります。Ethernet上のサーバを外部に公開する場合などは、このフィルタを削除、あるいは、WAN側からアクセスできるフィルタ（"pass"）を登録してください。

・RIPの送出を防止するためのフィルタ
  ip filter 32 reject out * * udp route route remote 0

さらに、P.94のパターン２の場合は、DHCP/BOOTPサーバ機能でIPアドレスが割り当てられたパソコンがインターネットへのアクセスを可能にするためのコマンドが、［ルータ設定（IP）］画面のオプション欄に［IPアドレス変換（NAT）テーブルの登録］コマンドが自動的に設定されます。

※P.92の例の場合、次のコマンドが設定されます。
  ip nat 2 192.168.0.2/*/* 172.16.1.2 remote 0
  ip nat 3 192.168.0.3/*/* 172.16.1.3 remote 0
  ip nat 4 192.168.0.4/*/* 172.16.1.4 remote 0
  ip nat 5 192.168.0.5/*/* 172.16.1.5 remote 0
  ip nat 6 192.168.0.6-192.168.0.11 172.16.1.6 remote 0

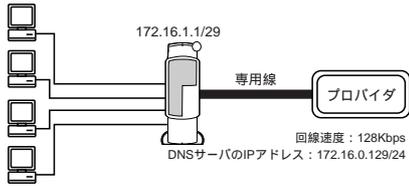
なお、設定項目について詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　設定ページリファレンス」を参照してください。

クイック設定（OCNエコノミー）で設定すると、自動的に設定される下記のフィルタによって、相手先からEthernet上のサーバへアクセスすることができなくなります。

ip filter 31 reject in * * tcpest * * remote 0

相手先からEthernet上のサーバへアクセスさせたい場合は、このフィルタを削除、あるいは、アクセスを許可するフィルタ（"pass"）を登録してください。

専用線

ここでは、次の場合を例に挙げて解説します。

1 WWWブラウザを起動し、「クイック設定（専用線）」画面を開きます。 →参照 P.27

※ ほかのページが表示された場合は、画面左側の「専用線」または「→クイック設定」の文字をクリックします。

---

2 本製品に設定するIPアドレスなどを入力します。

※ 漢字、ひらがな、カタカナは入力できません。

回線速度：専用線の契約内容に応じて選択

本体のIPアドレス/サブネットマスク長：本製品に設定するIPアドレスとサブネットマスク長を入力

ログインユーザID：設定ページを開くときのユーザIDを入力（購入したときは「admin」と入力されています）

ログインパスワード：設定ページを開くときのパスワードを入力

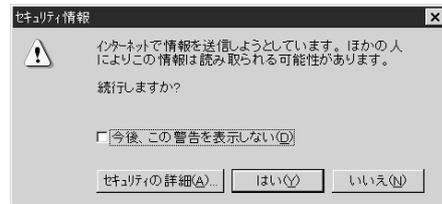
ログインパスワード（再入力）：［ログインパスワード］で入力した内容を再度入力

※ IPアドレスは、ドットノーテーション（XXX.XXX.XXX.XXXの形式）で入力します。

※ そのほかの項目は、必要に応じて設定してください。なお、［DHCPサーバ機能］［開始IPアドレス/個数］の設定を変更すると、パソコンのTCP/IP設定の変更も必要です。

詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「1　LAN環境を整える」を参照してください。

---

3 すべての項目を入力したら、［設定］ボタンをクリックします。

※ 表示されるダイアログは、使用しているWWWブラウザによって、異なります。また、WWWブラウザやWWWブラウザの設定によっては、ダイアログが表示されないこともあります。

※ ダイアログは、設定した内容を本製品に書き込むために表示されます。外部のネットワークやプロバイダに送信するわけではありません。

---

4 ［はい］ボタンをクリックすると、設定した内容が本製品に書き込まれます。

※ 本製品の電源をOFFにしても、設定した内容は消去されません。

---

5 本製品を再起動します

液晶ディスプレイの表示や本体前面のLED（B1とB2）の点灯は、次のようになります。

- ［回線速度］で［64Kbps］を選択したとき
  液晶：センヨウセン1B　ルータ
  LED：B1あるいはB2のいずれか片方が点灯
- ［回線速度］で［128Kbps］を選択したとき
  液晶：センヨウセン2B　ルータ
  LED：B1とB2の両方が点灯

注意

- セキュリティを確保するため、［ログインユーザID］［ログインパスワード］を設定することをお勧めします。
- ［クイック設定（専用線）］画面で［ログインユーザID］を変更または［ログインパスワード］を設定した後は、設定ページを開こうとすると、必ずユーザIDおよびパスワードを要求されます。その際は、［クイック設定（専用線）］画面で設定した［ログインユーザID］［ログインパスワード］を入力してください。

以上でクイック設定（専用線）は終了しました。Ethernet上のすべてのパソコンが、「3　設定の準備をしましょう」〈P.23〉の内容どおりに設定されているか確認してください。これで、Ethernet上のすべてのパソコンから常時インターネットを利用できます。

One Point!

◇クイック設定（専用線）ページに対応する詳細設定ページの設定項目

クイック設定（専用線）ページで設定した内容は、詳細設定ページの次の設定項目に反映されます。

クイック設定ページ	詳細設定ページ
[回線速度]	[ルータ設定（ISDN）]画面 [回線種別]
[本体のIPアドレス/サブネットマスク長]	[ルータ設定（IP）]画面 [本体のIPアドレス/サブネットマスク長]
[DNSサーバアドレス]	[接続／相手先登録#0]画面 [DNSサーバアドレス]
[WAN側IPアドレス/サブネットマスク長]	[接続／相手先登録#0]画面 オプション欄の[WAN側アドレスの設定]コマンド
[DHCPサーバ機能]	[ルータ設定（IP）]画面 [DHCPサーバ機能]
[開始IPアドレス/個数]	[ルータ設定（IP）]画面 [開始IPアドレス/個数]
[ドメイン名]	[ルータ設定（IP）]画面 [ドメイン名]
[ログインユーザID]	[ルータ設定（ユーザ）]画面 管理者の[ユーザID]
[ログインパスワード]	[ルータ設定（ユーザ）]画面 管理者の[パスワード]
[ログインパスワード（再入力）]	[ルータ設定（ユーザ）]画面 管理者の[パスワード（再入力）]

また、クイック設定（OCNエコノミー）で設定すると、[ルータ設定（IP）]画面のオプション欄に次のフィルタが自動的に設定されます。

・WAN側からの本製品へのアクセスを防止するためのフィルタ
  ip filter 30 reject in * [本製品のIPアドレス]/32 tcpest * * remote 0
  ※このフィルタによって、WAN側から本製品へアクセスすることができなくなります。特に必要がない限り、削除しないでください。

・WAN側からの不正なアクセスを防止するためのフィルタ
  ip filter 31 reject in * * tcpest * * remote 0
  ※このフィルタによって、WAN側からTCPのセッションをオープンすることができなくなります。Ethernet上のサーバを外部に公開する場合などは、このフィルタを削除、あるいは、WAN側からアクセスできるフィルタ（"pass"）を登録してください。

・RIPの送出を防止するためのフィルタ
  ip filter 32 reject out * * udp route route remote 0

なお、設定項目について詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　設定ページリファレンス」を参照してください。

クイック設定（専用線）で設定すると、自動的に設定される下記のフィルタによって、相手先からEthernet上のサーバへアクセスすることができなくなります。

ip filter 31 reject in * * tcpest * * remote 0

相手先からEthernet上のサーバへアクセスさせたい場合は、このフィルタを削除、あるいは、アクセスを許可するフィルタ（"pass"）を登録してください。

日付と時刻を設定しましょう

本製品の日付と時刻を設定する方法を解説します。
次の2とおりの方法があります。
1. Ethernet上のパソコンから設定ページを使う
2. アナログポートの電話機から設定コードを使う

ここでは、1.の方法について解説します。
2.の方法については、リファレンス・ハンドブック「電話機からの設定操作について」を参照してください。

Ethernet上のパソコンから設定しましょう

1 WWWブラウザを起動し、本製品の設定ページを開きます。

2 画面左側の［→詳細設定］の文字をクリックし、「ルータ設定（本体）」画面を開きます。

3 ［本体設定］の［設定する日付と時刻］に、西暦（4桁）、月、日、時刻を入力します。
「2001/01/31-00:00」のように、西暦、月、日は「/」（スラッシュ）で、日付と時刻は「-」（ハイフン）で区切ってください。

4 ［設定］ボタンをクリックします。

［現在本体に設定されている日付けと時刻］に、設定した日付と時刻が表示されます。
また、設定ページの情報表示の各画面に反映されます。

お願い

◇設定ページへのアクセス権について
「ルータ設定（ユーザ）」画面でアクセス権について設定されている場合、管理者以外は設定ページから設定できません。

電話機からファームウェアのバージョンを確認しましょう

本製品のアナログポートにつないだ電話機から次の操作をすると、本製品の現在のファームウェアのバージョンが音声でアナウンスされ、液晶ディスプレイに表示されます。
※本製品の電源をONにした直後にも、液晶ディスプレイにファームウェアのバージョンが表示されます。

操作しましょう

1 アナログポートの受話器を上げて、フックを1回押します。

“ プップップッ ” と聞こえます。

2 “ プップップッ ” と聞こえている間に、［#］→［2］と押します。

“ ピピッピピッ ” と聞こえます。

液晶ディスプレイには、「カクニンモード／コード？」と表示されます。

3 ［#］→［5］と押します。

液晶ディスプレイには、「ファームバージョン」と表示されます。

```
ﾌｧｰﾑﾊﾞｰｼﾞｮﾝ
```

4 ［#］を押します。

現在のファームウェアバージョンが、受話器から音声でアナウンスされます。

液晶ディスプレイには、次のように表示されます。

```
ﾌｧｰﾑﾊﾞｰｼﾞｮﾝ
1.40
```

5 受話器を置きます。

ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには

Ethernet上のパソコンで通信するための設定（ルータ機能の設定）を購入したときの状態に戻すことができます。本製品のIPアドレスも、購入時の設定「192.168.0.1」に戻ります。
ルータ機能の設定を購入時に戻す方法は、次の３とおりあります。

1. アナログポートの電話機から設定コードを使う
2. DTEポートのパソコンからATコマンドを使う
3. Etherポートのパソコンから設定ページを使う

ここでは、1.と2.の方法について解説します。
3.の方法については、活用ガイド CD ROM 第１部「6-9　設定を消去する」を参照してください。

アナログポートの電話機から操作しましょう

アナログポートの電話機から設定コード（#2）を使います。
※アナログポートに電話機をつなぐ方法については、巻頭ページ「本製品を設置しましょう」の「電話機やFAXをつなぐ」を参照してください。
※設定コードについて詳しくは、リファレンス・ハンドブック「1　設定方法について」の「電話機から設定コードを使って」を参照してください。

1 アナログポートの電話機の受話器を上げます。

「ツー」と聞こえます。

2 フックを押します。

「プッププップッ」と聞こえます。

3 ［#］を押します。

無音になります。

4 ［1］を押します。

「ピピッピピッ」と聞こえます。
※ボタンを押し間違えると、「ブー」と聞こえます。

5 設定コードとして、［#］［2］を押します。

「ピッ」と聞こえます。
※設定コードを間違うと、「ブー」と聞こえます。

6 ［0］［#］を押します。
「ピッ」と聞こえます。
※ボタンを押し間違えると、「ブー」と聞こえます。

7 本製品を再起動します。

設定ページ内のルータ機能の設定はすべて消去され、購入時の状態に戻ります。

ただし、［情報表示（接続／切断ログ）］画面と［情報表示（通信料金）］画面の内容は消去されません。
［情報表示（接続／切断ログ）］画面の内容を消去するときは、［情報表示（接続／切断ログ）］画面の［消去］ボタンをクリックします。詳しくは、活用ガイド CD ROM 第１部「6-6　ログ情報を見る／消去する」を参照してください。
［情報表示（通信料金）］画面の内容を消去するときは、［情報表示（通信料金）］画面の［消去］のボタンをクリックします。詳しくは、活用ガイド CD ROM 第１部「6-8　通信料金の情報を見る／消去する」を参照してください。

購入時の状態に戻ったら、もう一度Ethernet上のパソコンのTCP/IPの設定を行ってください。TCP/IPの設定については、「3　設定の準備をしましょう」〈P.23〉を参照してください。

DTEポートのパソコンから操作しましょう

DTEポートのパソコンからATコマンド（*D）を使います。
※DTEポートにパソコンをつなぐ方法については、巻頭ページ「本製品を設置しましょう」の「DTEポートにパソコンをつなぐ」を参照してください。
※ATコマンドについて詳しくは、リファレンス・ハンドブック「1　設定方法について」の「DTEポートのパソコンからATコマンドを使って」を参照してください。

◎ターミナル画面を表示できる通信ソフトが必要です
ATコマンドを入力するときは、ターミナル画面を表示できる通信ソフトを用意して、ATコマンドを入力できる状態に切り替えます。ここでは、Windows98のハイパーターミナルを例に挙げて、具体的な入力方法を解説します。

1 ［スタート］メニューから［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］から、［ハイパーターミナル］を選択します。
［HyperTerminal］ウィンドウが表示されます。

2 ［HyperTerminal］アイコンをダブルクリックします。
※パソコンにモデムが１台もインストールされていない場合は、「モデムがインストールされていません。インストールしますか？」という内容のメッセージが表示されます。そのときは、［いいえ］ボタンをクリックします。

3 ［接続の設定］ダイアログが表示されます。名前を入力し、アイコンを選択したら、［OK］ボタンをクリックします。
※名前は好きなものを入力します。ここでは、例として「MN128-SOHO SL11」と入力します。

4 ［電話番号］ダイアログが表示されます。ダイアログの内容を設定したら、［OK］ボタンをクリックします。
※「COM×」は「COM1」など、本製品のDTEポートに接続されているパソコン本体のポートを示します。接続したCOMポート番号がわからないときは、パソコン本体の取扱説明書をご覧ください。

［Com×へダイレクト］を選択します。

5 ［COM×のプロパティ］ダイアログが表示されます。ダイアログの内容を設定したら、［OK］ボタンをクリックします。

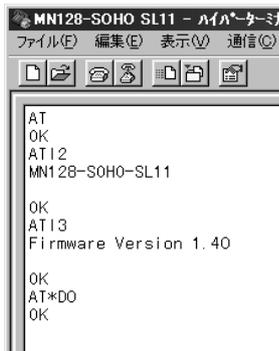
9600〜115200bpsの間に設定します。

6 ターミナル画面が表示されます。「AT」と入力し、［Enter］キーを押します。
「OK」と表示されたら、ATコマンドが入力可能な状態です。

7 「ATI2」と入力して、［Enter］キーを押します。
製品名（MN128-SOHO-SL11）が表示されます。
※本製品以外が表示されたら、COMポートの番号を確認してください。

8 「ATI3」と入力して、[Enter] キーを押します。

本製品の現在のファームウェアのバージョンが表示されます。

9 「AT*D0」と入力して、[Enter] キーを押します。

※ ATコマンド「*D」は、ルータ機能のほかにTA機能、アナログ機能などの設定を消去できます。
詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「全設定消去用　ATコマンド・設定コード」を参照してください。

10 本製品を再起動します。

設定ページ内のルータ機能の設定はすべて消去され、購入時の状態に戻ります。

ただし、[情報表示（接続／切断ログ)] 画面と [情報表示(通信料金)] 画面の内容は消去されません。
[情報表示（接続／切断ログ)] 画面の内容を消去するときは、[情報表示（接続／切断ログ)] 画面の [消去] ボタンをクリックします。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第1部「6-6 ログ情報を見る／消去する」を参照してください。
[情報表示（通信料金)] 画面の内容を消去するときは、[情報表示（通信料金)] 画面の [消去] のボタンをクリックします。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第1部「6-8　通信料金の情報を見る／消去する」を参照してください。

購入時の状態に戻ったら、もう一度Ethernet上のパソコンのTCP/IPの設定を行ってください。TCP/IPの設定については、「3　設定の準備をしましょう」〈P.22〉を参照してください。

Ethernet上のパソコンの通信によって意図しない自動接続をする

自動接続を行う設定にしている場合、WWWブラウザでURLを指定するだけでISDN回線を介してプロバイダに接続され、課金されます。
自動接続を止めるときは、クイック設定（端末型ダイヤルアップ）やクイック設定（LAN型ダイヤルアップ）の［自動接続］で［しない］を選択して、［設定］ボタンをクリックします。

また、ネットワークの設定内容、運用やパソコンにインストールされているソフトウェアの設定などによって、回線が長時間接続されていたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。次の点に注意してください。

◎すでに稼働しているLANに本製品を導入するとき

すでに稼働しているLANに本製品を導入するときは、必ずLANと同じサブネットのIPアドレスを本製品に設定してください。
本製品のIPアドレスを変更する方法については、詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用　ATコマンド・設定コードリファレンス」や、活用ガイド CD-ROM 第１部「1-2　本製品のIPアドレスを変更する」を参照してください。

◎定期的に回線を接続して通信を行うソフトウェアを、Ethernet上のパソコンにインストールしているとき

Ethernet上のパソコンに、定期的に回線を接続して通信を行うソフトウェアをインストールしていると、意図しないときに回線が接続されることがあります。
WWWブラウザなどの通信ソフトウェアを使用する際は、十分注意してください。

特に「Microsoft Internet Explorer 4.0（Windows用）」をインストールしている場合は、次の点に注意してください。

・Active DesktopをWebページとして表示する際、［購読の更新方法］で「スケジュール」を選択している場合
　「Microsoft Internet Explorer 4.0」を起動しなくても、定期的にインターネットにアクセスします。本製品で自動接続を行う設定にしているときは、この定期的なアクセスによって自動的に回線が接続され、課金されてしまいます。
・［お気に入り］にページを追加する際、「購読する」に設定している場合
　「Microsoft Internet Explorer 4.0」を起動すると、定期的にインターネットにアクセスします。本製品で自動接続を行う設定にしているときは、この定期的なアクセスによって自動的に回線が接続され、課金されてしまいます。
　「Microsoft Internet Explorer 4.0（Windows用）」のヘルプを参照してください。

◎接続している相手先が回線上で通信しているとき

接続している相手先の通信状態によっては、自動切断タイマを設定していても正しく回線が切断されないことがあります。

◎リモートアクセスされているとき

接続している相手先の通信状態によっては、自動切断タイマを設定していても正しく回線が切断されないことがあります。

本製品を設置したあとは、必ず設定ページ［切断／接続状況］画面、［情報表示（通信料金）］画面、あるいは本体前面の液晶ディスプレイ・LEDを確認してください。

［切断／接続状況］画面については「５　インターネットにアクセスしましょう」の「接続状況を確認する」〈P.93〉を、［情報表示（通信料金）］画面については活用ガイド CD-ROM 第１部「6-8　通信料金の情報を見る／消去する」を参照してください。
意図しない自動接続が行われている場合は、次の操作を行ってください。

意図しない自動接続を行わないようにする

自動接続の原因となる通信を行っているパソコンを限定する

1 WWWブラウザを起動し、本製品の設定ページを開きます。

2 画面左側の「→詳細設定」という文字をクリックし、[情報表示（接続／切断ログ）]画面を開きます。

※ほかのページが表示された場合は、画面左側の「情報表示」→「接続／切断ログ」の文字をクリックします。

3 「ルータ発信」という項目で、「トリガパケット」という文字が入っているログを探します。

```
ルータ 発信[B1]:番号[0312345678]トリガパケット [UDP 192.168.0.3/ntp-->172.16.0.129/ntp]
```

「トリガパケット[XX　XXX.XXX.XXX.XXX　/XX-->」のXXX．XXX．XXX．XXXのIPアドレスを設定されているパソコンが、自動接続の原因となる通信を行っています。

※上記の例では、「192.168.0.3のパソコンが、172.16.0.129のパソコンにUDP（ntp）の通信を行おうとして自動接続が起きた」ということを表しています。
この場合、192.168.0.3のパソコンの設定を確認してください。

限定されたパソコンが通信を行わないようにフィルタを設定する

1 WWWブラウザを起動し、本製品の設定ページを開きます。

2 画面左側の「→詳細設定」という文字をクリックし、[ルータ設定（IP）]画面を開きます。

※ほかのページが表示された場合は、画面左側の「ルータ設定]→「IP」の文字をクリックします。

3 [IPフィルタ登録]コマンドをオプション欄に入力します。

```
ip filter 1 restrict out 192.168.0.3 * udp ntp ntp remote *
```

※フィルタについて詳しくは、リファレンス・ハンドブック「2　設定リファレンス」の「ルータ機能用設定ページリファレンス」、あるいは、活用ガイド（CD-ROM）第1部「5-4　フィルタを設定する」を参照してください。

※上記の例は、192.168.0.3のパソコンが、172.16.0.129のパソコンにUDP（ntp）の通信を行おうとして自動接続が起きている場合、設定するフィルタです。

4 [設定]ボタンをクリックします。

設定ページが開かない（Windows95/98編）

Ethernet上のパソコン（Windows95/98）から設定ページを開こうとしたときに、次のようなトラブルが起こったときはお読みください。

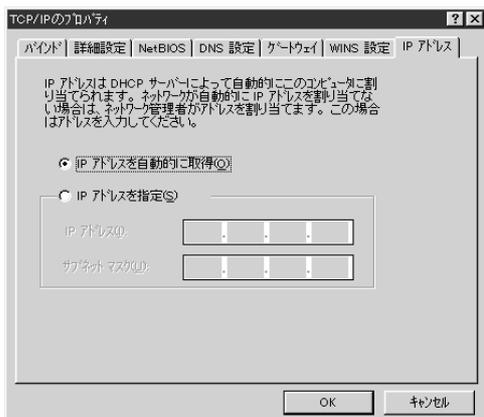
・出荷時の状態で設定ページが開かない〈P.109〉
・本製品に既存のIPアドレスを設定したら、設定ページが開かなくなった〈P.111〉

出荷時の状態で設定ページが開かない

出荷時の状態で設定ページを開くことができない場合は、次の手順に従ってEthernet上のパソコンの設定を確認してください。
※以降の画像は、Windows95を使用した例です。

TCP/IPの設定

1 TCP/IPのプロパティを確認します。

［コントロールパネル］→［ネットワーク］→［TCP/IP->Etherアダプタ名］のプロパティを開いてください。
プロパティのIPアドレスで［IPアドレスを自動的に取得］が選択されていることを確認してください。選択されていないときは、選択し直してください。

2 ［OK］ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。

IPアドレスの確認／設定

3 ［スタート］メニュー→［プログラム］→［MS-DOSプロンプト］を選択します。
※ Windows98の場合は、「MS-DOS Prompt」を選択します。

4 「winipcfg」と入力し、［Enter］キーを押します。

```
C:\WINDOWS>winipcfg
```

※ Windows98の場合は、「C:\>」の後ろに「winipcfg」と入力します。

5 ［IP設定］が表示されるので、ポップアップメニューから使用しているEtherアダプタ名を選択します。

IPアドレスとデフォルトゲートウェイが、パソコンに正しく設定されているかを確認します。
※ 出荷時の状態では、IPアドレスは192.168.0.Xが割り当てられます。「X」の部分には、2〜9までのいずれか1つの番号が、自動的に割り当てられます。
※ 出荷時の状態では、デフォルトゲートウェイには、192.168.0.1が割り当てられます。

・パソコンのIPアドレスとデフォルトゲートウェイの設定が正しいとき
　手順6に進みます。

・パソコンのIPアドレスやデフォルトゲートウェイの設定が正しくないとき
　1）［コントロールパネル］→［ネットワーク］→［TCP/IP->Etherアダプタ名のプロパティ］を選択します。
　2）［IPアドレス］タブをクリックし、パソコンに割り当てるIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
　　出荷時の状態では、IPアドレスには「192.168.0.2」〜「192.168.0.254」までのいずれか1つを入力します。また、サブネットマスクには「255.255.255.0」を入力します。
　3）［ゲートウェイ］タブをクリックし、［新しいゲートウェイ］に本製品のIPアドレス「192.168.0.1」を入力します。
　4）［OK］ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。
　5）手順3〜4と同様にMS-DOSプロンプトを起動し、「winipcfg［Enter］」と入力します。
　6）パソコンのIPアドレスと、デフォルトゲートウェイのIPアドレスが正しく設定されていることを確認し、手順6に進んでください。

6 IP設定の［解放］ボタンを押したあと、［更新］ボタンをクリックします。

※ Windows98の場合は、［書き換え］ボタンをクリックします。

IPアドレスが正しく設定されているかを、もう一度確認します。

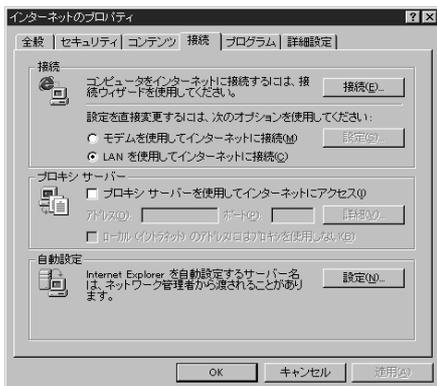
［コントロールパネル］→［ネットワーク］→［TCP/IP->Etherアダプタ名のプロパティ］を開いてください。

WWWブラウザの設定

7 Windows95/98のデスクトップ上に表示されている［インターネット］アイコンを、右クリックします。

※ ここでは、WWWブラウザとしてInternet Explorerを使用する場合の操作方法と設定内容を解説します。Internet Explorer以外のWWWブラウザを使用する場合は、手順8〜10を参照して、使用するWWWブラウザで同様の操作・設定を行ってください。

8 メニューの中から、［プロパティ］を選択します。

9 ［接続］タブをクリックします。

10 「LANを使用してインターネットに接続」をチェックし、「プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス」のチェックを外します。

11 WWWブラウザを起動し、「http:// 192.168.0.1/」と入力し、［Enter］キーを押します。

本製品の設定ページが表示されます。

それでも、設定ページが表示されない場合は、次の手順に進んでください。

pingの入力

12 MS-DOSプロンプトの画面で、「ping 192.168.　0.1」と入力し、［Enter］キーを押します。

※MS-DOSプロンプトの画面が表示されていないときは、［スタート］メニュー→［プログラム］→［MS-DOSプロンプト］を選択します。

13 パソコンと本製品が正しく通信しているかどうかが、MS-DOSプロンプトの画面に表示されます。

正しく通信しているとき

```
C:\WINDOWS>ping 192.168.0.1
Reply from 192.168.0.1:bytes=32
time=8ms TTL=63
```

パソコンと本製品が正しく通信しているにもかかわらず設定ページが開けない場合、本製品の故障が考えられます。MN128-SOHOサポートセンター〈P.121〉まで連絡してください。

・正しく通信していないとき

```
C:\WINDOWS>ping 192.168.0.1
Request timed out
```

このように表示される場合は、次のことを確認してください。(→参照　巻頭ページ)

→本製品のEtherポートに10BASE-Tケーブルを接続していますか？
間違ってISDNケーブルを接続していませんか？

→本製品やEthernet上のパソコンのEtherポートに、10BASE-Tケーブルが正しく接続されているか確認してください。

→本製品のEtherポート1に10BASE-Tケーブルを接続しているときは、ETHERNET切替スイッチ（toPC/toHUB）が正しく設定されているか確認してください。

※ 10BASE-Tケーブルが正しく接続されているかどうかは、本体前面のLED（Ether）で確認できます（手順14を参照）。

以上を確認してから、手順11に従って設定ページを開いてください。

それでも、設定ページが表示されない場合は、次の手順に進んでください。

14 本体前面のLED（Ether）に注目しながら、MS-DOSプロンプトの画面で「ping 192.168.0.1」と入力し、[Enter] キーを押します。

- LEDが点滅したとき
  本製品と正しくIP通信を行っています。この場合は、手順15に進んでください。
- LEDが消灯したままのとき
  本製品と正しくIP通信を行っていません。ケーブルの断線、本製品またはパソコンの故障などが考えられます。MN128-SOHOサポートセンター〈P.121〉まで連絡してください。

15 本製品と正しくIP通信を行っているのに、pingを入力しても正しく通信されていないときは、ルータ機能の設定を購入時の状態に戻してください。「ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには」〈P.107〉を参照してください。そのあと、もう一度手順1から操作をやり直してください。

本製品に既存のIPアドレスを割り当てたら、設定ページが開かなくなった

パソコンに割り当てられているIPアドレスが正しいかどうか確認してください。

1 [スタート] メニューから [プログラム] → [MS-DOSプロンプト] の順に選択します。

※ Windows98の場合は、「MS-DOS Prompt」を選択します。

2 [winipcfg] と入力し、[Enter] キーを押します。

```
C:\WINDOWS>winipcfg
```

※ Windows98の場合は、「C:\>」の後ろに「winipcfg」と入力します。

3 ポップアップメニューから使用しているEtherアダプタ名を選択します。

[IP設定] が表示されるので、パソコンに設定されているIPアドレスが正しいかどうか確認します。

※ 設定されているIPアドレスは、本製品と同じサブネットのIPアドレスである必要があります。

4 以降は、「出荷時の状態で設定ページが開かない」の手順6〈P.109〉からの操作と同様に行ってください。

設定ページが開かない（WindowsNT4.0編）

Ethernet上のパソコン（WindowsNT4.0）から設定ページを開こうとしたときに、次のようなトラブルが起こったときはお読みください。

・出荷時の状態で設定ページが開かない〈P.115〉
・本製品に既存のIPアドレスを設定したら、設定ページが開かなくなった〈P.117〉

出荷時の状態で設定ページが開かない

出荷時の状態で設定ページを開くことができない場合は、次の手順に従ってEthernet上のパソコンの設定を確認してください。

TCP/IPの設定

1 TCP/IPのプロパティを確認します。

［コントロールパネル］→［ネットワーク］→［プロトコル］→［TCP/IPプロトコル］のプロパティを開いてください。
プロパティのIPアドレスで［DHCPサーバーからIPアドレスを取得する］が選択されていることを確認してください。選択されていないときは、選択してください。

2 ［OK］ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。

IPアドレスの確認／設定

3 ［スタート］メニュー→［プログラム］→［コマンドプロンプト］を選択します。

4 「ipconfig」と入力し、［Enter］キーを押します。

```
C:\>ipconfig
```

5 IPアドレスとデフォルトゲートウェイが、パソコンに正しく設定されているかを確認します。

```
IP Address . . . . . . . : 192.168.0.2
Subnet Mask  . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . : 192.168.0.1
```

※ 出荷時の状態では、IPアドレスは、192.168.0.Xが割り当てられます。「X」の部分には、2〜9までのいずれか1つの番号が、自動的に割り当てられます。
※ 出荷時の状態では、デフォルトゲートウェイには、192.168.0.1が割り当てられます。

・パソコンのIPアドレスとデフォルトゲートウェイの設定が正しいとき
手順6に進みます。

・パソコンのIPアドレスやデフォルトゲートウェイの設定が正しくないとき
1）［コントロールパネル］→［ネットワーク］→［プロトコル］→［TCP/IPプロトコル］のプロパティを選択します。
2）［IPアドレス］タブをクリックし、［IPアドレスを指定する］を選択します。
3）パソコンに割り当てるIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
出荷時の状態では、IPアドレスには「192.168.0.2」〜「192.168.0.254」までのいずれか1つを入力します。また、サブネットマスクには「255.255.255.0」を入力します。
4）［ゲートウェイ］に本製品のIPアドレス「192.168.0.1」を入力します。
5）［OK］ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。
6）手順3〜4と同様にコマンドプロンプトを起動し、「ipconfig［Enter］」と入力します。
7）パソコンのIPアドレスと、デフォルトゲートウェイのIPアドレスが正しく設定されていることを確認し、手順6に進んでください。

6 ［スタート］メニュー→［プログラム］→［コマンドプロンプト］を選択します。

7 「ipconfig /release」と入力し、［Enter］キーを押します。つづけて、「ipconfig /renew」と入力し、［Enter］キーを押します。

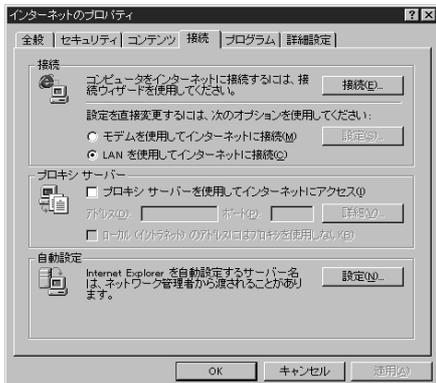
```
C:\>ipconfig /release
C:\>ipconfig /renew
```

WWWブラウザの設定

8 WindowsNT4.0のデスクトップ上に表示されている［インターネット］アイコンを、右クリックします。

※ ここでは、WWWブラウザとしてInternet Explorerを使用する場合の操作方法と設定内容を解説します。Internet Explorer以外のWWWブラウザを使用する場合は、手順9〜11を参照して、使用するWWWブラウザで同様の操作・設定を行ってください。

9 メニューの中から、［プロパティ］を選択します。

10 ［接続］タブをクリックします。

11 「LANを使用してインターネットに接続」をチェックし、「プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス」のチェックを外します。

12 WWWブラウザを起動し、「http:// 192.168.0.1/」と入力し、［Enter］キーを押します。

本製品の設定ページが表示されます。

それでも、設定ページが表示されない場合は、次の手順に進んでください。

pingの入力

13 コマンドプロンプトの画面で、「ping 192.168. 0.1」と入力し、［Enter］キーを押します。

※ コマンドプロンプトの画面が表示されていないときは、［スタート］メニュー→［プログラム］→［コマンドプロンプト］を選択します。

14 パソコンと本製品が正しく通信しているかどうかが、コマンドプロンプトの画面に表示されます。

正しく通信しているとき

```
C:\>ping 192.168.0.1
Reply from 192.168.0.1:bytes=32
time=8ms TTL=63
```

パソコンと本製品が正しく通信しているにもかかわらず設定ページが開けない場合、本製品の故障が考えられます。MN128-SOHOサポートセンター〈P.121〉まで連絡してください。

・正しく通信していないとき

```
C:\>ping 192.168.0.1
Request timed out
```

このように表示される場合は、次のことを確認してください。(→参照　巻頭ページ)

→本製品のEtherポートに10BASE-Tケーブルを接続していますか？
間違ってISDNケーブルを接続していませんか？

→本製品やEthernet上のパソコンのEtherポートに、10BASE-Tケーブルが正しく接続されているか確認してください。

→本製品のEtherポート1に10BASE-Tケーブルを接続しているときは、ETHERNET切替スイッチ（toPC/toHUB）が正しく設定されているか確認してください。

※ 10BASE-Tケーブルが正しく接続されているかどうかは、本体前面のLED（Ether）で確認できます（手順15を参照)。

以上を確認してから、手順12に従って設定ページを開いてください。

それでも、設定ページが表示されない場合は、次の手順に進んでください。

15 本体前面のLED（Ether）に注目しながら、コマンドプロンプトの画面で「ping 192.168.0.1」と入力し、［Enter］キーを押します。

・LEDが点滅したとき
本製品と正しくIP通信を行っています。この場合は、手順16に進んでください。

・LEDが消灯したままのとき
本製品と正しくIP通信を行っていません。ケーブルの断線、本製品またはパソコンの故障などが考えられます。MN128-SOHOサポートセンター〈P.121〉まで連絡してください。

16 本製品と正しくIP通信を行っているのに、pingを入力しても正しく通信されていないときは、ルータ機能の設定を購入時の状態に戻してください。「ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには」〈P.101〉を参照してください。そのあと、もう一度手順1から操作をやり直してください。

本製品に既存のIPアドレスを割り当てたら、設定ページが開かなくなった

パソコンに割り当てられているIPアドレスが正しいかどうか確認してください。

1 ［スタート］メニューから［プログラム］→［コマンドプロンプト］の順に選択します。

2 ［ipconfig］と入力し、［Enter］キーを押します。

```
C:\>ipconfig
```

3 パソコンに設定されているIPアドレスが正しいかどうか確認します。
※ 設定されているIPアドレスは、本製品と同じサブネットのIPアドレスである必要があります。

```
IP Address . . . . . . . : 192.168.0.2
Subnet Mask  . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . : 192.168.0.1
```

4 以降は、「出荷時の状態で設定ページが開かない」の手順6〈P.109〉からの操作と同様に行ってください。

Ethernet上のパソコンから通信できない

プロバイダに回線を接続できても、ホームページを見ることができなかったり、メールサービスを受けられないなど、通信できないことがあります。

※本製品には、自動的にプロバイダのDNSサーバのIPアドレスの通知を受ける「AutoDNS™機能」が搭載されています。ただし、接続するプロバイダによっては、自動的にDNSサーバのIPアドレスの通知を受けることができず、正常に通信できないことがあります。

その場合は、次のように操作してください。

◎クイック設定（端末型ダイヤルアップ）のとき

（1）クイック設定ページで相手先のDNSサーバのIPアドレスを設定します。〈P.112〉

（2）（1）を行っても通信できない場合は、Ethernet上のすべてのパソコンのTCP/IP設定に相手先のDNSサーバのIPアドレスを設定します。〈P.113〉

◎クイック設定（LAN型ダイヤルアップ）のとき

（1）詳細設定ページで相手先のDNSサーバのIPアドレスを設定します。〈P.112〉

（2）（1）を行っても通信できない場合は、Ethernet上のすべてのパソコンのTCP/IP設定に相手先のDNSサーバのIPアドレスを設定します。〈P.113〉

設定ページでDNSサーバのIPアドレスを設定しましょう

端末型ダイヤルアップ接続

クイック設定（端末型ダイヤルアップ接続）で設定を行った後、［接続］ボタンをクリックすると、「相手先DNSサーバのIPアドレスを検出できません。回線を一度切断し、相手先DNSサーバのアドレスを入力し設定してからもう一度接続し直してください。」という内容のメッセージが表示されることがあります。そのときは、次のように操作してください。

1 接続している相手先との回線を切断します。クイック設定（端末型ダイヤルアップ接続）で、［切断］ボタンをクリックします。

2 ［DNSサーバアドレス］にプロバイダから指定されているDNSサーバのIPアドレスを入力します。

※ 設定項目［DNSサーバアドレス］は、相手先のDNSサーバのIPアドレスを検出できなかったときだけ、表示されます。

3 ［設定］ボタンをクリックします。

もう一度、相手先に接続してください。上記の設定を行っても通信できない場合は、「パソコンのTCP/IP設定にDNSサーバのIPアドレスを設定しましょう」〈P.113〉に進んでください。

LAN型ダイヤルアップ接続

1 接続している相手先との回線を切断します。クイック設定（LAN型ダイヤルアップ接続）で、［切断］ボタンをクリックします。

2 画面左側の「→詳細設定へ」の文字をクリックして、［接続／相手先登録#0］画面を開きます。

※ ほかのページが表示された場合は、画面左側の「#0」の文字をクリックします。

3 ［DNSサーバアドレス］にプロバイダから指定されているDNSサーバのIPアドレスを入力します。

4 ［実行］ボタンをクリックします。

もう一度、相手先に接続してください。上記の設定を行っても通信できない場合は、「パソコンのTCP/IP設定にDNSサーバのIPアドレスを設定しましょう」〈P.113〉に進んでください。

パソコンのTCP/IP設定にDNSサーバのIPアドレスを設定しましょう

※設定内容について詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「第１章　LAN環境を整える」を参照してください。

Windows95/98編

1 Ethernet上のパソコンのコントロールパネルを開き、[ネットワークの設定] タブをクリックします。

2 [現在のネットワーク構成] のリストから [TCP/IP→＊＊＊＊＊＊＊（Ethernetボードの種別)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

3 [DNS設定] タブをクリックし、[DNSを使う] を選択します。
各項目を次のように設定します。
[ホスト] ：パソコンに付ける名前を入力します。
[ドメイン] ：プロバイダから指定されているドメイン名を入力します。
[DNSサーバの検索順] ：プロバイダから指定されているDNSサーバのIPアドレスを入力します。

4 [OK] ボタンをクリックし、次のダイアログでも[OK] ボタンをクリックします。

WindowsNT4.0編

1 Ethernet上のパソコンのコントロールパネルを開き、[ネットワーク] を選択します。

2 [ネットワークプロトコル] のリストから [TCP/IPプロトコル] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

3 [DNS] タブをクリックし、各項目を次のように設定します。
[ホスト] ：パソコンに付ける名前を入力します。
[ドメイン] ：プロバイダから指定されているドメイン名を入力します。
[DNSサーバの検索順序] ：プロバイダから指定されているDNSサーバのIPアドレスを入力します。

4 [OK] ボタンをクリックし、次のダイアログでも[OK] ボタンをクリックします。

Macintosh（TCP/IP）編

1 Ethernet上のパソコンのコントロールパネルの中の[TCP/IP] を開き、[ネームサーバアドレス] にプロバイダから指定されているDNSサーバのIPアドレスを入力します。
※ 文字入力ができない場合は、[編集] メニューから [利用者モード] を選択し、[利用者モード] ダイアログで [詳しい情報も指定] を選択します。

2 クローズボックスをクリックして [TCP/IP] を閉じます。

3 [保存の確認] ダイアログが表示されるので、[はい] ボタンをクリックします。

Macintosh（MacTCP）編

1 Ethernet上のパソコンのコントロールパネルの中の[MacTCP] を開き、[Ethernet] あるいは [内蔵Ethernet] を選択し、[詳しく] ボタンをクリックします。

2 [ドメイン・ネーム・サーバ情報] の [IPアドレス] にプロバイダから指定されているDNSサーバのIPアドレスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。

3 クローズボックスをクリックして [MacTCP] を閉じます。

4 パソコンを再起動します。

そのほかのトラブル

※トラブルの解決方法は、活用ガイド CD-ROM にも記載されています。あわせて参照してください。

◎本製品全体

・本製品の電源をONにしたとき、液晶ディスプレイに「カイセンイジョウ　レイヤ１エラー」と表示され、B1とB2のLEDが同時に点滅している
  →本製品のDSUを使う場合、ISDN（U点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈巻頭ページ〉
  →ほかのDSUを使う場合（本製品のDSUを使わない場合）、ISDN（S/T点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈巻頭ページ〉
  →本製品のDSUを使う場合、U点の極性が反転していることがあります。U点極性反転スイッチ（REV/NOR）を切り替えて、本製品を再起動してください。〈P.2〉
  →各ケーブルの接続が間違っていないか確認してください。
  →終端抵抗が正しく設定されているか確認してください。〈P.2〉
  →DSUスイッチ（DSU ON/OFF）が正しく設定されているか確認してください。〈P.2〉
  →上記以外の場合は、一度最寄りのNTTまでご連絡ください。回線状態に問題がないときは、サポートセンターまでご連絡ください。〈P.121〉

・ATコマンドを入力できない
  →パソコンのシリアルポートと本製品のDTEポートが正しく接続されているか、確認してください。〈巻頭ページ〉
  →本製品の専用シリアルケーブルを使っていますか？〈巻頭ページ〉
  →ほかの通信ソフトを起動していませんか？
  →使用していない通信ソフトを終了してください。
  →本製品を接続しているシリアルポートを、通信ソフトなどで正しく設定していますか？
  →ターミナル画面を持つ通信ソフトを使用していますか？

詳細設定ページ［情報表示（通信料金）］画面の内容と実際に請求された金額が違う
  →本製品は、INSネットから通知される料金情報によって通信料金を積算します。
  INSネット64のテレホーダイやエリアプラスなどのサービスを利用する場合も、通常の通信時と同様にINSネットから接続時間当たりの料金情報が通知されます。そのため、実際に請求される金額と異なることがあります。
  →「001（KDD株式会社）」「0088（日本テレコム株式会社）」などの番号を利用して電話をかけた場合、INSネットから正しい料金情報が通知されないため、［情報表示（通信料金）］画面に正しい通信料金が表示されません。

◎アナログ機器

・電話をかけたり、受けたりすることができない
  →本製品の電源をONにしたときに、B1、B2のLEDが同時に点滅していませんか？
  点滅するときは、「本製品全体」の「本製品の電源をONにしたとき、液晶ディスプレイに「カイセンイジョウ レイヤ1エラー」と表示され、B1とB2のLEDが同時に点滅している」を参照してください。
  →「ISDNサービスは申し込みましたか？」〈P.4〉の内容どおりにINSネット64の契約をしているか確認してください。
  →本製品のDSUを使う場合、ISDN（U点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈巻頭ページ〉
  →ほかのDSUを使う場合（本製品のDSUを使わない場合）、ISDN（S/T点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈巻頭ページ〉
  →アナログ機器と本製品のアナログポートが正しく接続されているか確認してください。〈巻頭ページ〉
  →ISDNのBチャネルが２本とも使用されていませんか？
  データ通信でBチャネルを２本とも使用しているときも、アナログ機器の発着信を行いたいときは、リソースBOD機能の設定を行ってください。なお、リソースBOD機能を使うには、通信中着信通知サービスの契約（無料）が必要です。（「パソコンでの通信を気にせずに、電話やFAXを使うことができます」〈P.64〉参照）

・電話をかけることができない
  →パルスダイヤル式の電話機などを使用していませんか？
  アナログ機器はプッシュボタン式を使用し、その機器の切替スイッチを「PB」または「トーン」に設定してください。

・電話を受けることができない
  →着信ポートの設定内容を確認してください。（「電話の受け方を詳しく設定しましょう」〈P.41〉参照）
  →サブアドレスの登録内容を確認してください。（「電話機とFAXを区別する番号を付けられます（サブアドレス）」〈P.60〉参照）
  →グローバル着信の設定内容を確認してください。（「電話の受け方を詳しく設定しましょう」〈P.41〉参照）
  →電話帳の設定内容を確認してください。（「相手先を登録しましょう」〈P.47〉、「電話をかけてきた相手の条件によってなりわけ/迷惑電話の防止を設定しましょう（擬似ナンバー・リクエスト）」〈P.52〉参照）

・呼び出し音が鳴らない
  →着信ポートの設定内容を確認してください。（「電話の受け方を詳しく設定しましょう」〈P.41〉参照）
  →サブアドレスの登録内容を確認してください。（「電話機とFAXを区別する番号を付けられます（サブアドレス）」〈P.60〉参照）
  →ポート接続機器の設定が、「サイレントFAX2」になっていませんか？（「電話機やFAXを使う前に」〈P.30〉参照）
  →外線呼び出し音の設定が、「無鳴動着信」になっていませんか？（「電話の受け方を詳しく設定しましょう」〈P.41〉参照）
  →電話帳の設定内容を確認してください。（「相手先を登録しましょう」〈P.47〉、「電話をかけてきた相手の条件によってなりわけ/迷惑電話の防止を設定しましょう（擬似ナンバー・リクエスト）」〈P.52〉参照）

・擬似キャッチホン機能（マルチアンサー）が使えない
  →マルチアンサーを利用する設定になっていますか？（「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」〈P.56〉参照）
  →話中着信をする設定になっていますか？（「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」〈P.56〉参照）
  →ポート接続機器の設定が、電話以外（「ファクシミリ」、「サイレントFAX1」または「サイレントFAX2」）になっていませんか？（「電話機やFAXを使う前に」〈P.30〉参照）

→ISDNのBチャネルをデータ通信で2本とも使用していませんか？

・通話中発信の機能が利用できない

→通話中発信をする設定になっていますか？（「通話中に他の相手に電話をかけられます」〈P.58〉参照）

→電話機を使用していますか？

→ISDNのBチャネルをデータ通信で2本とも使用していませんか？

・通信中機器移動ができない

→通信中機器移動サービスの契約（無料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→中断の識別番号と再開の識別番号は、同じ番号を押しましたか？（「通信中機器移動サービスを利用できます」〈P.61〉参照）

→フレックスホンやマルチアンサーなどを利用して、1つの電話機で2つの外線を切り替えて通話していませんか？

→三者通話（三者通話ミキシングモード）を行っていませんか？

→通話中に着信があり、受話器に話中着信音が聞こえていませんでしたか？

→再開しようとした通信機器は、中断したときと同じ回線に接続されていますか？

→中断してから3分以上経過していませんか？
3分経過すると通信は終わり、再開することはできません。

・リソースBOD機能（アナログ通信割り込み）が使用できない

→通信中着信通知サービスの契約（無料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→Etherポートのパソコンによる通信中に、アナログ通信割り込みを許可する設定にしましたか？（「パソコンでの通信を気にせずに、電話機やFAXを使うことができます」〈P.64〉参照）

→DTEポートのパソコンによる通信中に、リソースBOD機能を使用する設定にしましたか？（活用ガイド CD ROM 「第2部　DTEポートのパソコンを使う」の「4-2　リソースBOD機能を使う」参照）

・i・ナンバーを利用した鳴り分けができない

→i・ナンバーの契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→i・ナンバーを利用する設定になっていますか？（「i・ナンバーを利用できます」〈P.67〉参照）

→カスタマイズモードで利用する設定にしている場合、着信ポートの設定を行っていますか？（「i・ナンバーを利用できます」〈P.67〉参照）

・キャッチホン（コールウェイティング）ができない

→キャッチホン（コールウェイティング）の契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→通信中着信通知サービスの契約（無料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→キャッチホン（コールウェイティング）を利用する設定になっていますか？（「キャッチホン（コールウェイティング）を利用しましょう」〈P.71〉参照）

→マルチアンサーを利用する設定になっていませんか？（「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」〈P.56〉参照）

→通話中発信をする設定になっていませんか？（「通話中に他の相手に電話をかけられます」〈P.58〉参照）

→話中着信をする設定になっていますか？（「キャッチホン（コールウェイティング）を利用しましょう」〈P.71〉参照）

→ポート接続機器の設定が、電話以外（「ファクシミリ」、「サイレントFAX1」または「サイレントFAX2」）になっていませんか？（「電話機やFAXを使う前に」〈P.30〉参照）

・三者通話ができない

→三者通話の契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→三者通話を利用する設定になっていますか？（「三者通話を利用しましょう」〈P.73〉参照）

→マルチアンサーを利用する設定になっていませんか？（「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」〈P.56〉参照）

→通話中発信をする設定になっていませんか？（「通話中に他の相手に電話をかけられます」〈P.58〉参照）

・通信中転送ができない

→通信中転送の契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→通信中転送を利用する設定になっていますか？（「通信中転送を利用しましょう」〈P.76〉参照）

→マルチアンサーを利用する設定になっていませんか？（「通話中に他の電話を受けられます（擬似キャッチホン）」〈P.56〉参照）

→通話中発信をする設定になっていませんか？（「通話中に他の相手に電話をかけられます」〈P.58〉参照）

・着信転送ができない

→着信転送の契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→通信中着信通知サービスの契約（無料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→着信転送を利用する設定になっていますか？（「着信転送を利用しましょう」〈P.78〉参照）

→ダイヤルインの設定は、着信転送する設定になっていますか？（「着信転送を利用しましょう」〈P.78〉参照）

→転送先の電話番号は正しいですか？（「着信転送を利用しましょう」〈P.78〉参照）

・INSボイスワープサービス/マジックボックスが利用できない

→INSボイスワープサービス/マジックボックスの契約（有料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルイン契約をしている場合、発信者番号通知サービスの契約（無料）をしましたか？
詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインまたはi・ナンバーの契約をしている場合、INSボイスワープサービス/マジックボックスの契約をした契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録しましたか？（「INSボイスワープサービス/マジックボックスを利用できます」〈P.79〉参照）

→ダイヤルインまたはi・ナンバーの契約をしている場合、カスタマコントロールの操作を行う電話機が接続されているポートの発信者番号を正しく設定しましたか？（「INSボイスワープサービス/マジックボックスを利用できます」〈P.79〉参照）

・なりわけサービスが利用できない

→なりわけサービスの契約（有料）をしましたか？

詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインの契約をしている場合、発信者番号通知サービスの契約（無料）をしましたか？

詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインの契約をしている場合、なりわけサービスの契約をした契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録しましたか？（「なりわけサービスを利用できます」〈P.81〉参照）

→ダイヤルインの契約をしている場合、カスタマコントロールの操作を行う電話機が接続されているポートの発信者番号を正しく設定しましたか？（「なりわけサービスを利用できます」〈P.81〉参照）

・迷惑電話おことわりサービスが利用できない

→迷惑電話おことわりサービスの契約（有料）をしましたか？

詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインの契約をしている場合、発信者番号通知サービスの契約（無料）をしましたか？

詳しくは最寄りのNTTまでお問い合わせください。

→ダイヤルインの契約をしている場合、迷惑電話おことわりサービスの契約した契約者回線番号およびダイヤルイン番号を登録しましたか？（「迷惑電話おことわりサービスを利用できます」〈P.84〉参照）→

→ダイヤルインの契約をしている場合、迷惑電話の登録・解除の操作を行う電話機が接続されているポートの発信者番号を正しく設定しましたか？（「迷惑電話おことわりサービスを利用できます」〈P.84〉参照）

→迷惑電話を受けた後、電話を切ってから60秒以内に登録の操作をしましたか？

60秒を過ぎると迷惑電話の登録はできません。

→60秒以内に2回以上電話がかかってきませんでしたか？

60秒以内に2回以上電話がかかってきた場合、すべて迷惑電話として登録できません。

・設定が消えてしまう（保存できない）

→アナログポート設定のページで設定を行った場合、設定値を入力後に［設定］ボタン（「電話帳登録」画面では［実行］ボタン）をクリックして設定を保存していますか？

→アナログ機能用ATコマンドで設定を行った場合、「@B」で設定を保存していますか？（リファレンス・ハンドブック「DTEポートのパソコンからATコマンドを使って」参照）

◎ルータ機能（Ethernet）

・自動接続できない

→詳細設定ページ［自動接続相手先］画面の相手先を変更しませんでしたか？〈P.89〉〈P.91〉

［自動接続相手先１］で、自動接続したい相手を選択してください。

→詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［時間帯による制限］を［以下の時間帯のみ自動接続可能］に設定していませんか？

この場合、設定している開始時刻から終了時刻までの時間帯しか、自動接続できません。

→詳細設定ページ［情報表示（接続／切断ログ）］画面を確認してください。

エラーが表示されているときは、活用ガイド CD-ROM 第３部「設定ページのエラー一覧」を参照して対処してください。

→詳細設定ページ［情報表示（自動接続制限）］画面を確認してください。

［再接続制限］の欄に「禁止」と表示されているときは、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4　接続を制限する」を参照して対処してください。

・プロバイダに接続できない

→「ISDNサービスは申し込みましたか？」〈P.4〉の内容どおりにINSネット64の契約をしているか確認してください。

→本製品のDSUを使う場合、ISDN（U点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈巻頭ページ〉

→ほかのDSUを使う場合（本製品のDSUを使わない場合）、ISDN（S/T点）ケーブルが抜けていないか確認してください。〈巻頭ページ〉

→プロバイダの電話番号が間違っていないか確認してください。〈P.88〉〈P.90〉

→送信ユーザID・送信パスワードが間違っていないか確認してください。〈P.88〉〈P.90〉

→ISDN回線のＢチャネルは空いていますか？

→プロバイダなど、相手先のISDN回線のＢチャネルが空いていない（通信中）かもしれません。

しばらく時間を置いてから、再度接続してください。

→詳細設定ページ［情報表示（接続／切断ログ）］画面を確認してください。

エラーが表示されているときは、活用ガイド CD-ROM 第３部「設定ページのエラー一覧」を参照して対処してください。

→アクセスポイントの回線速度を確認してください。本製品が接続できるのは、同期64Kbps、同期128Kbps、非同期38.4Kbps、PIAFS 32Kbps、PIAFS 64Kbpsです。

詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［相手先電話番号１/２］で、その回線速度に対応している電話番号を設定していますか？

・インターネットにアクセスできない

→パソコンのTCP/IP関連の設定は正しいですか？〈P.23〉

→AutoDNS機能が使用できないプロバイダかもしれません。〈P.112〉

詳細設定ページ［接続/相手先登録］画面の［DNSサーバアドレス］にプロバイダのDNSサーバアドレスを入力してください。

→WWWブラウザ、メールソフトなどの設定は正しく行っていますか？

・回線が切断されてしまう

→一定時間アクセスがないと、本製品は自動的に回線を切断します。〈P.93〉

出荷時の設定では、150秒間アクセスがないと回線が切断されます。自動切断までの時間を変更したいときは、詳細設定ページ［接続／相手先登録］の［自動切断タイマ１］の時間を変更してください。

→詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［使用するタイマ］を「タイマ１、以下の時間帯のみタイマ２に変更」に設定し、［終了時刻で強制切断］をチェックしていませんか？

この場合、設定している終了時刻になると同時に、自動的に回線が切断されます。

→詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［時間帯による制限］を［以下の時間帯のみ自動接続可能］に設定し、［終了時刻に強制切断］を［する］に設定していませんか？

この場合、設定している終了時刻になると同時に、自動的に回線が切断されます。

・本製品の設定ができない/通信できない

→本製品の電源がONになっていることを確認してください。〈巻頭ページ〉

→本製品とEthernet上のパソコンが正しく接続されていることを確認してください。〈巻頭ページ〉

→パソコンのTCP/IP関連の設定は正しいですか？〈P.23〉

→設定ページで設定するときにエラーが表示されていませんか？

→設定ページは表示できますか？〈P.27〉〈P.106〉〈P.109〉

お使いのWWWブラウザのバージョンを確認してください。バージョンによっては、設定ページを表示できないことがあります。WWWブラウザは、本製品に付属のCD-ROMに収録されている「Microsoft Internet Explorer」を使用することをお勧めします。
また、WWWブラウザの［オプション］メニューなどで、「プロキシサーバ（あるいはプロクシ）を使用しない」ように設定してください。
上記の設定を行っても設定ページを表示できない場合は、ルータ機能に関する設定を消去してください。ルータ機能に関する設定の消去について詳しくは、「ルータ機能の設定を購入したときの状態に戻すには」〈P.101〉を参照してください。それでも表示できない場合は、MN128-SOHOサポートセンター〈P.121〉までご連絡ください。

◎その他

・CD-ROMドライブがない

→MN128-SOHOサポートセンター〈P.121〉までご連絡ください。3.5インチのフロッピーディスクを有償でお送りします。

切断理由の表示（液晶ディスプレイ）

通信を切断したり、接続を失敗したりすると、本体の液晶ディスプレイに切断理由が表示されます。エラーのメッセージが表示されたときは、下記を参照して対処してください。
※液晶ディスプレイについては、「液晶ディスプレイ・LEDを確認しましょう」〈巻頭ページ〉を参照してください。
※（＊）が付いているメッセージが何度も表示される場合は、最寄りのNTTまでご連絡ください。

001　ケツバン　（＊）
→発信した電話番号は使われていません。

002　ルートナシ　（＊）
→相手先の電話番号を確認してください。

017　ビジー　（＊）
→相手先のISDN回線のBチャネルが空いていません。相手先のBチャネルが空いてから、再度発信してください。

018　オウトウナシ　（＊）
→相手先が応答しません。
相手先の電話番号を確認してください。
→相手先の機器が正しく接続されているか確認してください。

021　ツウシンキョヒ
→相手先に接続を拒否されました。
相手先が着信を許可しているか確認してください。

026　ホカノキキオウトウ
→同じISDN回線上のほかの機器が応答しました。
相手先の電話番号およびサブアドレスを確認してください。

027　アイテコショウ　（＊）
→相手先に次のことを確認してください。
機器の電源をONにしていますか？
各機器を正しく接続していますか？

028　ムコウバンゴウ　（＊）
→相手先の電話番号を確認してください。

034　アキチャネルナシ
→こちら側のほかの機器がISDN回線を使っているため、Bチャネルが空いていません。Bチャネルが空いてから、再度発信してください。

041　ショウガイ　（＊）
→しばらく待ってから、再度発信してください。

044　リヨウフカ　（＊）
→相手先のISDN回線のBチャネルが空いていません。相手先のBチャネルが空いてから、再度発信してください。

088　ゾクセイフイッチ
→ほかの機器が応答しました。
相手先の電話番号を確認してください。
→相手先に次のことを確認してください。
各機器は正しく接続していますか？
各機器にサブアドレスを正しく設定していますか？

レイヤ1エラー
→レイヤ1エラーが起きました。
本製品のDSUを使う場合、U点ケーブルが抜けていないか確認してください。
ほかのDSUを使う場合（本製品のDSUを使わない場合）、S/T点ケーブルが抜けていないか確認してください。

レイヤ2エラー
→レイヤ2エラーが起きました。
再度発信してください。

レイヤ3エラー
レイヤ3エラーが起きました。
再度発信してください。

ハッシンタイムアウト（TAのみ）
→「ATD」コマンドで発信後、1分以上呼び出しても相手が応答しませんでした。
再度発信してください。

PIAFSエラー
→PIAFSの同期がとれませんでした。
再度発信してください。

PPPエラー（ルータ機能のみ）
→発着信の際、PPPネゴシエーションに失敗しました。
詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［認証プロトコル］の設定を変更して、再発信してください。

ニンショウエラー（ルータ機能のみ）
→発信の際、認証に失敗しました。
詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［送信ユーザID］［送信パスワード］の設定を変更して、再発信してください。

サイハッシンキセイ
→3分待ってから、再度発信してください。

リョウキンセイゲン（ルータ機能のみ）
→設定している料金制限を越えたので、自動接続できなくなりました（詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［料金による制限］）。
手動で発信する、あるいは、［情報表示（自動接続制限）］画面でリセットしてください。
詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4　接続を制限する」を参照してください。

カイスウセイゲン（ルータ機能のみ）
→設定している接続回数の制限を越えたので、自動接続できなくなりました（設定ページ［接続／相手先登録］画面の［接続回数による制限］）。
手動で発信する、あるいは、［情報表示（自動接続制限）］画面でリセットしてください。
詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4　接続を制限する」を参照してください。

サイセツゾクセイゲン（ルータ機能のみ）
→設定している最大接続時間を越えて、切断されました。その後、再自動接続制限によって自動接続できなくなりました（詳細設定ページ［接続／相手先登録］画面の［最大接続時間］）。
［情報表示（自動接続制限）］画面でリセットしてください。

ジカンタイセイゲン（ルータ機能のみ）
→現在の時刻は、自動接続できない時間帯です（設定ページ［接続／相手先登録］画面の［時間帯による制限］）。
手動で発信してください。
詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第１部「2-4　接続を制限する」の「指定時間内だけ自動接続できる」を参照してください。

これだけは知っておきましょう～ネットワークと通信の基礎知識～

ここでは、本製品を使用するときに必要となる、ネットワークと通信に関する一般的な知識について解説します。

◎INSネット64について

「INSネット64」とは、NTTのISDN回線サービスのことです。INSネット64には、従来の電話回線と比べて、次のような特長があります。

※ここで紹介しているサービスは、一部です。INSネット64について詳しくは、最寄りのNTTまで問い合わせてください。

・高速・高品質での通信が可能

1秒間に64Kビット（64Kbps）の情報を高品質で送ることができます。

・1回線で複数の相手と通信可能

ISDN回線は、Bチャネル（64Kbps）2本、Dチャネル（16Kbps）1本、計3本で構成されています。

・3種類の通信が可能

1本のISDN回線で、アナログ通信、デジタル通信、パケット通信の3種類の通信が行えます。

・ISDNで提供されるサービス

ISDN回線では、次のような便利なサービスがあります。基本サービスと付加サービスとがあり、付加サービスを利用するときは、別に契約する必要があります。

（1）基本サービス（無料）
発信者番号通知／サブアドレスの指定／料金情報通知／通信中機器移動など
（2）付加サービス
ダイヤルイン／通信中着信通知／フレックスホン／INSボイスワープサービスなど
※付加サービスには有料のものがあります。

◎IPアドレスとは

インターネットなど、TCP/IPプロトコルを使用して構築されているネットワークで、接続しているすべての機器を区別するために付けられるアドレスのことです。IPアドレスは、「192.168.0.1」のようにピリオドで区切った4つの部分から構成されています。

インターネットに接続するときは、インターネット上のどの機器とも重複しないIPアドレスを使用しなければいけません。このIPアドレスのことを「グローバルIPアドレス」といいます。

一方、インターネットに接続しないときに限って、自由に使用できるIPアドレスがあります。このIPアドレスのことを「プライベートIPアドレス」といいます。

次のIPアドレスをプライベートIPアドレスとして自由に使用できます。

クラスA：10.0.0.0～10.255.255.255
クラスB：172.16.0.0～172.31.255.255
クラスC：192.168.0.0～192.168.255.255

※本製品の購入時のIPアドレスは、「192.168.0.1」に設定されています。

※TCP/IPについては、用語解説〈P.128〉を参照してください。

※本製品は、プライベートIPアドレスをグローバルIPアドレスに変換するAutoNAT機能を搭載しています。そのため、ネットワークでプライベートIPアドレスを使用したままインターネットを利用できます。詳しくは、活用ガイド CD-ROM 第3部「技術解説」を参照してください。

◎OCNエコノミーサービスとは

「OCN」とは、NTTが提供するインターネット接続のための回線サービスのことです。OCNには、インターネットと常時接続する「OCN常時接続サービス」と、必要なときに回線を接続してインターネットに接続する「OCNダイヤルアクセスサービス」とがあります。

※OCNについて詳しくは、最寄りのNTTに確認してください。

OCN常時接続サービス	OCNエコノミーサービス
	OCNスタンダードサービス
	OCNエンタープライズサービス
OCNダイヤルアクセスサービス	

「OCNエコノミーサービス」とは、OCN常時接続サービスのうち、最も低料金のサービスのことです。OCNエコノミーサービスを契約すると、アクセス時間や電話料金を気にせず、インターネットを利用できます。

※本製品で利用できるOCN常時接続サービスはOCNエコノミーサービスだけです。

※OCNエコノミーサービスを利用する場合、本製品のアナログポートにつないだアナログ機器を使って外線通話することはできません。

OCNエコノミーサービスを契約すると、同時にIPアドレスを取得できます。取得できるIPアドレスの数は、利用者の環境によって次のように異なります。（1997.12現在）

OCN側のDNSサーバを使用する場合：8個
DNSサーバを自分のLAN内に設置する場合：16個

ただし、インターネットを利用する際の規定により、取得したIPアドレスのうち最初と最後のIPアドレスはネットワークの特別なアドレスとして使用し、残りのIPアドレスのうち1個をルータに割り当てる必要があります。たとえば、8個のIPアドレスを取得した場合、パソコンに割り当てることができるIPアドレスの数は、「8-2-1=5個」となります。

（例）192.168.10.0～192.168.10.7までのIPアドレスを取得した場合

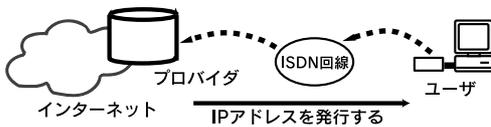
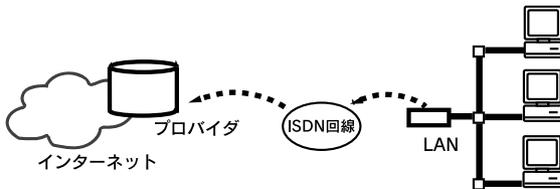
192.168.10.0	固定（ネットワークアドレスとして使用）
192.168.10.1	固定（ルータに割り当て）
192.168.10.2	空き（パソコンに割り当て可能）
192.168.10.3	空き（パソコンに割り当て可能）
192.168.10.4	空き（パソコンに割り当て可能）
192.168.10.5	空き（パソコンに割り当て可能）
192.168.10.6	空き（パソコンに割り当て可能）
192.168.10.7	固定（ブロードキャストアドレスとして使用）

※上記の例では、プライベートIPアドレスを使って説明していますが、実際には、OCNからグローバルIPアドレスを取得します。

◎端末型ダイヤルアップ接続とLAN型ダイヤルアップ接続

ダイヤルアップ接続とは、利用時に回線を接続してネットワークにアクセスする方法です。通常、ダイヤルアップ接続でインターネットにアクセスするときは、プロバイダとの契約が必要です。ダイヤルアップ接続の契約には、「端末型」と「LAN型」があります。

※インターネットにアクセスする方法には、ダイヤルアップ接続のほかに、「専用線接続」があります。これは、専用の電話回線を引いて、インターネットに常時アクセスする接続方法です。

端末型ダイヤルアップ接続とは、1台のパソコンでインターネットを利用するための契約です。この契約をしたときは、プロバイダに接続したときに、そのパソコンにIPアドレスが割り当てられます。

LAN型ダイヤルアップ接続とは、LANでつながっているパソコンでインターネットを利用するための契約です。この契約をしたときは、LANの規模に応じた数のIPアドレスがプロバイダから指定され、そのIPアドレスを設定してプロバイダに接続します。

※本製品では、LAN内のパソコン（Ethernet上のパソコン）でも、端末型ダイヤルアップ接続の契約でインターネットを利用できます。

◎TAとルータについて

TAは、ISDN回線にパソコンや一般電話回線用の電話機、ファクシミリまたはモデムなどを接続するためのハードウェアです。TAからインターネットを利用する場合は、端末型ダイヤルアップ接続の契約が必要です。

ルータは、複数のLANを相互に接続するためのハードウェアです。インターネットにLAN型ダイヤルアップ接続するときは、ルータが必要です。

※本製品では、LAN内のパソコン（Ethernet上のパソコン）でも、端末型ダイヤルアップ接続の契約でインターネットを利用できます。

お問い合わせ先

◎メンテナンスサービスについて

・本製品に含まれるソフトウェアが保存されている媒体に欠陥があった場合、お買い上げの販売代理店または小売店に返却してください。無償にて新品と交換いたします。なお、欠陥品送付にともなう送料は、送り主負担とさせていただきます。

・本製品に含まれるハードウェアが購入後1年間に通常のご使用において故障した場合、これを保証します。故障品に保証書を添えて、お買い上げの販売代理店または小売店に返却してください。無償にて修理いたします。なお、修理品送付にともなう送料は、送り主負担とさせていただきます。

・保証期間でも次のような場合には、有償修理になります。

（1）本保証書のご提示がない場合
（2）本保証書に機器の製造番号、ご購入日、販売店名の記入がない場合、または字句を書き替えられた場合
（3）接続しているほかの機器に起因して生じた故障、または不当な修理や改造、調整をされた場合
（4）使用上の誤り、または故意・他意に関わらず、ほかの要因による損傷および故障の場合
（5）火災、地震、風水害、落雷、そのほかの天災地変、公害や異常電圧による損傷および故障の場合
（6）購入後の輸送、移動時の落下など、お取り扱いが不適当なため生じた損傷および故障の場合
（7）購入後の取り付け場所の移動、落下などにより生じた損傷および故障の場合

◎お問い合わせ先

本製品について技術的なご質問、または製品のアップグレードに関するご質問は、お買い上げの販売代理店、小売店、またはMN128-SOHOサポートセンターまでお問い合わせください。

MN128-SOHOサポートセンター
Tel.03-3813-5400　Fax.03-5802-0761
※祝祭日を除く、月～金曜日 9:30～12:00、13:00～18:00までの間、受け付けております。

◎ホームページのご案内

株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー、および、株式会社ビー・ユー・ジーのWWWホームページで、製品のサポート情報、ユーザ登録、最新のファームウェア、アプリケーションなどを提供していますので、ご活用ください。

MN128-SOHOホームページ
株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー：http://www.ntt-me.co.jp/
株式会社ビー・ユー・ジー：http://www.bug.co.jp/

◎ユーザ登録

ユーザ登録は、WWWホームページで行います。本製品の設定ページで「ユーザ登録」の文字をクリックすると、自動的に回線を接続してユーザ登録のページを開きます。
ユーザ登録を行うと、ファームウェアのバージョンアップを電子メールでお知らせします。

◎ファームウェアのバージョンアップ

・最新のファームウェアの入手
本製品のファームウェアは、不定期にバージョンアップを行っています。
MN128-SOHOホームページに定期的にアクセスして、最新のファームウェアの情報を入手してください。
なお、本製品のファームウェアのバージョンは、次の方法で確認してください。

（1）本製品の電源をONにしたとき、液晶ディスプレイに表示されます。
　　詳しくは、「液晶ディスプレイ・LEDを確認しましょう」〈巻頭ページ〉を参照してください。
（2）Ethernet上のパソコンから設定ページを開くと、左側画面に表示されます。
　　詳しくは、「３　設定の準備をしましょう」の「設定ページを開きましょう」〈P.27〉を参照してください。
（3）DTEポートのパソコンから通信ソフトでATコマンドの「ATI3［Enter］」と入力すると表示されます。
　　詳しくは、リファレンス・ハンドブック「２　設定リファレンス」の「TA機能用　ATコマンドリファレンス」を参照してください。

・ファームウェアをアップデートする方法
入手したファームウェアを使って、本製品をアップデートするときは、Ethernet上のパソコンやDTEポートのパソコンからアップデータ「MNMASTER11」を使います。
※「MNMASTER11」は、Windows95/98とMacintoshに対応しています。
　Windows95/98用は、添付のCD-ROMの［WIN］フォルダ→［MNMASTER］フォルダに収録されています。
　Macintosh用は、添付のCD-ROMの［MAC］フォルダ→［MNMASTER］フォルダに収録されています。
※「MNMASTER11」の使い方については、各フォルダ内のREADMEファイルを参照してください。

用語解説

※技術解説や用語解説は、活用ガイド CD-ROM にも記載されています。あわせて参照してください。

ATコマンド　米国のモデムメーカ、ヘイズ社によって開発されたモデム（TA）制御用のコマンドです。コマンドの先頭が「AT」という文字で始まることから、このような名前で呼ばれます。ATコマンドでは、本製品の機能を設定したり、実際に動作させたりします。

AutoDNS™　ドメインネームサービス（DNS）サーバのIPアドレスを自動的に取得したり、DNSの代理応答をしたりする本製品の機能です。この機能を使用すると、端末型ダイヤルアップ接続する相手先を変更しても、DNSサーバのIPアドレスの設定を変える必要がなくなります。

AutoMP™　PPPとMPを自動的に変換する本製品の機能です。INSネット64のBチャネルが2本空いているときは128Kbpsで、１本しか空いていないときは64Kbpsで同期通信を行います（RFC1990対応）。MPに対応した通信機器とMPによる通信を行うことができます。

AutoNAT™　「NAT」と「IP Masquerade」に対応した本製品の機能です。この機能を使用すると、プロバイダと端末型ダイヤルアップ接続しているときでも、LAN側の複数台のパソコンが同時にインターネットを利用できます。

AutoPPP™　パソコンから送られてくる非同期PPPのデータをHDLCに変換して回線に送信したり、回線から受信したHDLCのデータを非同期PPPに変換してパソコンに送信したりする本製品の機能です。HDLC通信に対応した通信機器と通信することができます。

Bチャネル　ISDNで用いられる、64Kbpsの速度のデジタル通信を実現する情報チャネルです。INSネット64では、１契約回線で２本のBチャネルを提供します。本製品では、Bチャネル2本を独立した接続回線とみなすので、同時に異なる２つのネットワークと接続することができます。

CHAP（Challenge Handshake Authentication Protocol）　PPP接続で使用されるユーザ認証方法の１つです。最初にPPPサーバが乱数をPPPクライアントに送ります。PPPクライアントはその乱数を使ってパスワードを演算し、その結果をPPPサーバに返します。PPPサーバは受け取った値と自分で計算した値とを比較し、同じであれば接続を許可します。ユーザ名とパスワードだけで単純に認証するPAPよりセキュリティの高い方法といえます。

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）　TCP/IPネットワークにおいて、クライアントがシステムの起動に必要なプログラムをサーバから自動的に取得するプロトコルです。DHCPサーバは、ネットワークに関連した情報（IPアドレス、デフォルト・ルータのIPアドレス、設定ファイルのファイル名、ドメイン名）などを管理しています。DHCPクライアントが起動すると、DHCPサーバが動的にIPアドレスを割り振ります。本製品のDHCP/BOOTPサーバ機能を使う場合、DHCPサーバをサポートしているTCP/IPでは、IPアドレスのほかにデフォルト・ルータのIPアドレスなどが割り当てられます。

DNS（Domain Name System）　TCP/IPネットワークにおける名前解決サービスのことです。DNS（ドメイン・ネーム・システム）にしたがってドメインネームサーバにコンピュータ名やドメイン名を登録して、ドメインネームサービスを提供しています。ドメインネームサービスを利用すると、「192.168.0.1」などの分かりにくい数字ではなく、分かりやすいドメイン名やホスト名で目的のサイトを指定することができます。

DTE（Data Terminal Equipment）　データ端末装置。RS-232Cなどのシリアルインタフェースに接続される機器のうち、パソコンやルータなどのデータ送信用端末装置を指します。

DTE通信速度　→ポート速度

Dチャネル　ISDNで用いられる、16Kbpsの制御用信号チャネルです。通信をコントロールする信号のやりとりを行います。回線接続点切断などの制御情報や、電話料金の通知など付加サービスの提供は、このチャネルが利用されます。また、パケット通信サービス（INS-P）を利用することもできます。

Ethernet　ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発されたLANの通信方式です。ハブという配線装置に接続したり、１本の同軸ケーブルを張り巡らせてケーブルの途中にピンを刺したりして簡単にネットワークが構築できます。使用するケーブルには「10BASE-T」「10BASE-5」「10BASE-2」があり、10BASE-Tがもっともポピュラーです。

HDLC（High Level Data Link Control Procedure）　ハイレベル・データ・リンク制御手順。同期式シリアル伝送方式の１つで、高速で安全性の高い通信が可能な伝送制御手段です。次のような特徴があります。1）任意のビットパターンの伝送が可能。2）受信側からの応答を待たずに、連続してデータを伝送できる。3）誤りの制御が厳密。4）コンピュータ間の通信に適している。HDLCの適用分野は広く、近代的なプロトコルのデータリンク層の大部分がHDLCに準拠しています。

INSネット64　→これだけは知っておきましょう〈P.119〉

IP Masquerade　LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに複数：１で変換する機能です。

IPアドレス　→これだけは知っておきましょう「IPアドレスとは」〈P.119〉

ISDN（Integrated Services Digital Network）　「総合デジタル通信網」と呼ばれるサービス体系の総称で、デジタル化された情報を伝送する通信方式の国際規格です。日本では、NTTがINSネット64、INSネット1500というサービスを、KDDが国際ISDNサービスを提供しています。

ISP（Internet Service Provider）　→インターネットサービスプロバイダ

LAN（Local Area Network）　会社・ビルなどの同一建物内、あるいは同一敷地内などの比較的狭い地域に設置されているサーバ・ワークステーション、パソコンなどの各種コンピュータを結び、データのやり取りしたり、どのコンピュータからでもプリンタを利用できるようにする構内ネットワーク・システムのことを指します。もっともポピュラーなLANの通信方式が、バス規格であるEthernetです。

LAN型ダイヤルアップ接続　LANでつながっているパソコンでインターネットを利用するための契約です。この契約をしたときは、LANの規模に応じたIPアドレスがプロバイダから指定され、そのIPアドレスを設定してプロバイダに接続します。

MacTCP　MacintoshでTCP/IPプロトコルのネットワークが利用できるように、TCP/IPをMacintoshに組み込むためのコントロールパネル書類です。

MODEM.INF　Windows95/98で使用されているモデム（TA）制御ファイルのことです。モデム（TA）を設定するコマンドとモデムからの応答コードが記述されています。

MP（Multilink PPP）　複数のチャネルを使用してPPP通信する方式のことです。INSネット64の2つのBチャネルを同時に接続すると、128Kbpsの通信速度が可能になります。

MP通信　→AutoMP

NAT　LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに１：１で変換する機能です。

NTPサーバ　このサーバは、ネットワーク内に正確な時刻情報を供給するためのプロトコルNTPに対応しています。ネットワーク内のコンピュータは、NTPサーバに問い合わせると、正確な時刻をコンピュータに設定することができます。

OCN（Open Computer Network）　NTTが提供するデータ通信用の回線サービスのことです。インターネットで使用されているTCP/IPを基調にしていて、インターネットにも接続されています。OCNのサービスには、インターネットへ常時接続する「OCN常時接続サービス」と、必要なときに電話をかけて接続する「OCNダイヤルアクセスサービス」があります。

OCNエコノミーサービス　→これだけは知っておきましょう「OCNエコノミーサービスとは」〈P.119〉

ODN（Open Data Network）　日本テレコムが提供するデータ通信用の回線サービスのことです。OCNと同様にインターネットと常時接続する専用アクセス型サービスと、必要なときに電話をかけて接続するダイヤルアップ接続サービスとがあります。

PAP（Password Authentication Protocol）　PPP接続で使用される認証プロトコルの１つです。ユーザ名とパスワードが暗号化されずに、そのままサーバへ送信されます。

PHS（Personal Handy-phone System）　移動体通信機器の一種で、簡易型携帯電話のことです。屋内ではコードレス電話、屋外では携帯電話として使用することができます。データ通信にも利用することができます。

PIAFS（PHS Internet Access Forum Standard）　PHSを利用した32Kbps/64Kbps（Ver.2.0/Ver.2.1）のデータ通信サービスの標準規格のことです。

POP（Post Office Protocol）　メールを受信するときに使用するプロトコルの1つです。送られてきたメールは、メールサーバに蓄えられます。メールソフトでメールを受信するときは、POPサーバからこのプロトコルを使ってメールを取り出します。現在はVersion 3の仕様なので、POP3とも呼ばれています（1999.11現在)。

PPP（Point to Point Protocol）　遠隔地にある２点間でパケットを送受信するために設計されたWAN用のプロトコルで、インターネットに接続するための代表的なプロトコル。TCP/IPやIPX、AppleTalkなど、複数のプロトコルを同時にサポートできます。

PPPソフト　PPPを使用してネットワークに接続するときに使用するソフトウェアのことです。Windows95やWindowsNT4.0のダイヤルアップネットワーク、MacintoshのFreePPP、MacPPP、Open Transport/PPPなどがあります。

RADIUS（Remote Authentication Dial In User Service）　リモートアクセスで接続するユーザを認証するための手続きを決めたプロトコルです。RADIUSに対応していると、UNIXやWindowsNTなどのRADIUSサーバによって、ユーザの認証を行うことができます。また、ユーザのアカウンティング情報もRADIUSサーバを利用して管理できます。

SMTP（Simple Mail Transfer Protocol）　メールを送信するときに使用するプロトコルです。送信されたメールはまず始めに指定されたSMTPサーバに送られます。その後、場合によってはいくつかのSMTPサーバを経由して、宛先までメールが配信されます。

SYSLOG　システムメッセージをネットワーク上で転送したり、ファイルに残したりする仕組みです。SYSLOGに対応していると、UNIXなどのSYSLOGサーバによって、ログ情報を管理できます。

TA　→ターミナルアダプタ

TCP/IP　主要なOSでサポートされる現在最も普及したプロトコルで、インターネットの基本プロトコルです。ファイル転送を行うFTP、電子メールの転送を行うSMTP、他のワークステーションに外部からログインするTELNETなどは、TCP/IPを利用したアプリケーションです。Windows95やWindowsNT4.0は標準でTCP/IP接続機能を持っています。Open Transportを搭載したMacintoshには、TCP/IPコントロールパネルが標準で搭載されています。

URL（Uniform Resource Locator）　ウェブアドレスの別名です。インターネット上のリソース（ホームページなど）にアクセスするために指定します。URLは次の部分で成り立っています：「プロトコル名://サーバ名/ファイル名」。プロトコルには、http, nntp, ftp, telnet, fileなどがあります。

VPN（Virtual Private Network）　インターネットなどの公衆網上で論理的なグループを構成し、そのグループ間で閉域性を保つ仕組みを設けたネットワークのことです。公衆網には不特定多数のユーザが接続していますが、VPNを実現することによって、特定のユーザの間だけの通信が可能になります。

V.110　ITU-T（国際電気通信連合電気通信標準化部門）の電話網経由のデータ通信の規約のうち、TAなどのISDN機器をISDN回線に接続するために必要な速度整合などに関する規約です。TAは一般的にシリアルポートなどに接続しますが、シリアルポートの速度は接続相手によって異なるため、速度変換などの処理を行って相手先との整合を取っています。V.110の通信速度は9600bpsおよび19200bpsですが、38400bpsも事実上の標準となっています。

WAN（Wide Area Network）　離れた場所のLAN同士を、一般電話回線やISDN回線、専用線などを介して接続するネットワークのことです。接続には、モデム、TA、ブリッジ、ルータなどの機器が必要です。

WWW（World Wide Web）　インターネット上に分散しているファイルやサービスなどの、コンピュータに存在する情報を参照・検索できる仕組みのことです。この仕組みを利用すると、世界中に点在しているテキスト、音、画像などの情報を共有することができます。

WWWブラウザソフト　WWWホームページを閲覧したり、WWWサーバを検索したりするためのソフトウェアです。マイクロソフト社の「Internet Explorer」、ネットスケープ・コミュニケーションズ社の「Netscape Navigator」は、代表的な製品です。

アップデート　本製品では、本製品内部のファームウェアを入れ替えるとき、「ファームウェアをアップデートする」といいます。

インターネットサービスプロバイダ　主にインターネットへの接続サービスを提供している会社のことです。単に、「プロバイダ」と呼ばれることもあります。

オフフック　受話器を上げるなどして、電話機線を接続できる状態にすることです。

オンフック　受話器を置くなどして、電話機線を切断することです。

回線速度　自分側のISDN機器と接続相手先のISDN機器間の通信速度のことです。インターネットサービスプロバイダやパソコン通信ネットによって、サポートしている回線速度は異なります。

クライアント　ネットワーク上で、ほかのコンピュータやソフトウェアからサービスを受ける側のコンピュータのことです。ネットワークでは、サービスを提供するサーバに対して、サービスを要求するものです。

グローバルIPアドレス　インターネット上のどの機器とも重複しないIPアドレスのことです。このIPアドレスを使ってインターネットにアクセスすることができます。

グローバル着信　ダイヤルインサービスを使用しているときに利用できる機能です。NTTと契約するときに「グローバル着信あり」にすると、契約者回線番号に電話がかかってきたとき、相手が通信できるすべての機器が着信します。このとき、本製品でグローバル着信の設定を行うと、特定の機器のみ着信するようになります。

サイレントFAX　本製品にFAXをつないでいるとき、1300Hz信号で呼び出し、FAXの着信音を無音に設定できる機能です。ただし、無鳴動着信可能なFAXをつないでいるときに限ります。

ターミナルアダプタ（TA）　パソコンや従来のアナログ回線用の機器（電話機、FAX、モデムなど）をISDN回線に接続できるようにするハードウェアです。パソコンや電話機などといった端末（ターミナル）が発信する信号を、ISDN回線で使用できる信号に適合／変換するもの（アダプタ）です。

ダイヤルインサービス　INSネット64の付加サービスの1つです。ISDN回線に複数の機器がつながっている場合に、契約者回線番号とは別に、各機器ごとの回線番号（ダイヤルイン番号）を付けることができます。このサービスを利用すると、相手がこちらに接続するときに、特定の機器に直接接続させることができます。

端末型ダイヤルアップ接続　１台のパソコンでインターネットを利用するための契約です。この契約をしたときはプロバイダに接続したときに、そのパソコンのIPアドレスが割り当てられます。ただし、本製品ではLANでつながっているパソコンでも端末型ダイヤルアップ接続の契約でインターネットを利用できます。

着信パスワード　本製品が外部のネットワークのユーザに対し、照合するときに使用するパスワードのことです。外部から接続要求があったとき、あらかじめ登録されているパスワードと相手が送出したパスワードを照合します。

通信ソフト　パソコンで通信するためのソフトウェアです。パソコンからコマンドを送信して通信相手先を呼び出し、相手先がアカウントを求めればIDとパスワードを送信するなどの一連の手順を行います。パソコン通信ネットの各社が専用の通信ソフトを用意している場合があります。

同期通信　データ通信を行うときに、送信側と受信側でタイミングを一致させながらデータを転送する方法です。送信側は、あらかじめ転送するデータの開始位置や終了位置などの情報を信号として送信し（同期信号）、受信側の準備を確立してからデータ転送を開始します。受信側はその情報を基準として、受信したデータをキャラクタに翻訳していきます。余分な情報を含めずにデータ転送が行なえるため、転送効率がよい方法といえます。

ディジタルアクセス64　サービス提供距離を30km以下に限定したNTTのデジタル専用回線のことです。故障監視機能や故障修理時間など保守サービスが簡素化されているので、ハイ・スーパーディジタル回線よりも低料金で使用することができます。

ドメイン名　インターネットに接続するコンピュータはIPアドレスと呼ばれる数字を使って識別されていますが、数字よりも簡単に覚えられるように考えられた文字で表現された名前のことです。ドメイン名は、文字の並びであるラベル、あるいはピリオドで区切られた複数のラベルから構成されます。（例）株式会社ビー・ユー・ジーのドメイン名「bug.co.jp」の場合は、bug、co、jpの3つのラベルがあり、ドメイン名としては、bug.co.jp、co.jp、jpの3つのレベルのドメインから構成されます。

トラフィック　ネットワーク経路上のパケットの流れや、ネットワークの回線にかかる負荷（接続者数やデータ量）のことです。ネットワークに大量のデータが流れて混雑している状態を「トラフィックが大きい」、データ量が少なく空いている状態を「トラフィックが小さい」といいます。トラフィックが増大しすぎると、データ転送の遅れや、データが失われる可能性が高くなります。

トーンダイヤル　２種類の音の組み合わせを信号にして電話番号を電話局の交換機に知らせるタイプの電話機、またはその電話回線のことです。押しボタンがこの方式を採用しています。

認証　公衆電話回線などを使用してネットワークにアクセスしてくるユーザが、アクセスの権利があるかどうかを確認することです。インターネットでは、ユーザIDとパスワードを入力させる方法が一般的です。各ユーザにユーザIDを割り当て、パスワードとともにサーバに記録しておきます。認証時にはこれらの組み合わせをユーザに要求し、正しければアクセス権を与えます。

ネットワーク　データなどを伝送する通信網のことです。情報交換のために、サーバ、ワークステーション、パソコンなどの各種装置、機器などがケーブルや電話回線を介して接続された状態になっています。

パケット　ネットワーク上を流れるデータの単位で、制御信号からなるヘッダと情報データを含むビット列のことです。ヘッダには宛先アドレスや送信元アドレス、データの内容を表わすフラグなどが記録されており、プロトコルや通信方法によって多様です。

パスワード　ファイルやネットワークにアクセスする際に鍵の役目をする文字列のことです。ネットワークのセキュリティ上、ユーザを識別するためにあらかじめ設定します。パスワードを設定すると、設定されている文字列を正しく入力したときだけアクセスが許可されます本製品には、「受信パスワード」、「送信パスワード」、「ログインパスワード」の3種類を設定することができます。

バス接続　ISDNの場合、ISDNコネクタを使用してISDN機器を数珠つなぎに配線していく方法です。１つのISDN回線に最大８台までのISDN機器を接続することができます。配線の最後には、終端抵抗（ターミネータ）を入れる必要があります。

発信パスワード　本製品から外部のネットワークに接続するときに、相手に送出するパスワードのことです。相手は本製品から送られてきたパスワードとあらかじめ登録しているパスワードを照合します。

ハブ（HUB）　10BASE-Tケーブルを使用してLANを構築するときに必要なハードウェアです。ハブには複数のポートがついていて、各ポートにパソコン、ワークステーション、サーバなどを接続できます。ハブにルーティング、ネットワーク管理などの機能が追加され、ネットワークの中心となっているものもあります。

パルスダイヤル　回したダイヤルが戻るごとに発信される電気信号（パルス）の回数で、電話番号をNTTの交換機に知らせる電話機、またはその電話回線のことです。

非同期通信　データ通信を行う際に、データの開始部分にスタートビット、終了部分にストップビットという印をつけて、不定期に送り出す方式のことです。調歩同期ともいいます。スタートビットとストップビットが付加される分、データの総量が多くなるため、転送効率が下がります。

ファームウェア　ハードウェアを動作させるプログラムです。

プライベートIPアドレス　社内で閉じられているLANなどで使うことを許可されているIPアドレスのことです。IPアドレス管理機関やインターネットサービスプロバイダに申請する必要はありませんが、使用できるIPアドレスの範囲は決められています。このIPアドレスを使用して、インターネットにアクセスすることはできません。
ただし、本製品は、AutoNAT機能によって、プライベートIPアドレスを使用して端末型ダイヤルアップ接続やLAN型ダイヤルアップ接続でインターネットにアクセスすることができます。

フラッシュメモリ　本製品のファームウェアや、設定内容が保存されている書き換え可能な不揮発性メモリです。本製品の電源をOFFにしても、ファームウェアや設定内容が失われることはありません。

フロー制御　データ通信を行うとき、トラフィックが多くなることでデータの取りこぼしを避けるため、データの流れを制御することです。主に受信側の受信能力を超えてデータがあふれそうになったときに、送信側がデータの送信速度を下げたり、停止したりして、データの流れる量を調節します。フロー制御の方法には２種類あり、ハードウェアで制御する方法をハードウェア・フロー制御、ソフトウェアで制御する方法をソフトウェア・フロー制御といいます。

プロトコル　コンピュータ間で、データ通信するために取り決められた約束です。「通信規約」ともいいます。

ホスト　インターネットでは、WWWサーバやメールサーバなどの各種サービスを行うコンピュータをホストとして扱います。

ポート速度　本製品のDTEポートにつないだパソコンと本製品間の通信速度のことです。どんなに高速な回線速度を選択していても、パソコン側のポート速度がそれに合っていなければ、実際の通信速度は下がってしまうため、適切なポート速度を設定する必要があります。

リセット（RST）パケット　このパケットは、再送信などの通常の方法で回復できないエラーが発生した場合や、サーバがシステムダウンした場合に使われます。

リモートアクセス　公衆電話回線などを使用して、遠隔地のパソコンからLANなどのネットワークに接続することです。LANにリモートアクセスすると、LANに直接つながっているパソコンと同様に、データ共有、プリンタ共有などLANの資源を使用することができます。

ルータ　複数のネットワーク同士を互いに接続するためのハードウェアです。ネットワーク間でデータを転送するときは、データがルータを経由して別のネットワーク上のノードへ渡されます。ルータはプロトコルやアドレスをチェックし、適切なパスを選択し、データを送ることができます。

ローカルアクセスサーバ（LAS）機能™　本製品のDTEポートにつないだパソコンをEthernet上に収容する、本製品の機能です。DTEポートのパソコンから本製品に対して疑似的にダイヤルアップ接続することによって、DTEポートのパソコンをEthernet上に収容し、ほかのEthernet上のパソコンと同様の通信が可能になります。

索引

◆数字

◆A

◆B

◆C

◆D

◆E

◆F

◆H

◆I

◆L

◆M

◆O

◆P

◆R～U

◆V

◆W～X

◆あ行

◆か行

◆さ行

◆た行

◆な行

◆は行

◆ま行

◆や行

◆ら行

仕様

ハードウェア仕様

◎ISDNインタフェース部

適用回線	INSネット64　高速ディジタル専用線
適用サービス	Bチャネル回線交換、Dチャネルパケット交換
インタフェース形態	P-MP常時　または　P-MP呼毎
Bチャネル通信速度	非同期　9.6 19.2 32（PIAFS） 38.4（Kbps） 同期　56 64 128（Kbps）
終端抵抗	内蔵、スイッチによって切替可能

◎ISDNインタフェース（U点）部

ポート数	1（スイッチで切離し可能）
コネクタ形状	6ピンモジュラージャック（RJ11）
伝送方式	2線 時分割方式 JT-G.961準拠
極性	スイッチで反転可能
DSU折り返し機能	あり

◎ISDNインタフェース（S/T点）部

コネクタ数	2（バス接続）
コネクタ形状	8ピンモジュラージャック（RJ45）
伝送方式	4線 AMI符号 ITU-T I.430準拠
給電	あり（DSU使用時）

◎ETHERNETインタフェース部

ポート数	4（4ポートハブ、ポート1をスイッチによってストレート/クロス切替可能）
コネクタ形状	8ピンモジュラージャック（RJ45）
物理インタフェース	IEEE802.3 10BASE-T
通信速度	10Mbps

◎DTEインタフェース部

ポート数	1
機械的仕様	DSUB-9コネクタ（付属専用ケーブル使用）
電気的仕様	RS-232C準拠
接続制御手順	Hayes互換ATコマンド　X.28（Dチャネルパケット時）
シリアル通信速度	1.2　2.4　4.8　9.6　19.2　38.4　57.6　115.2　230.4（Kbps）

◎アナログインタフェース部

ポート数	3（ポート2/3の同時使用不可）
コネクタ形状	6ピンモジュラージャック（RJ11）
電気的仕様	2線式アナログインタフェース
給電電圧	約-48V（無負荷時）
発信手順	押しボタンダイヤル（PB）
ブランチ接続	動作保証外

◎ユーザインタフェース

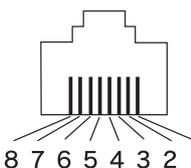
液晶ディスプレイ	英数カナ12文字×2行　状態表示アイコン付
状態表示LED	6個（POWER　D　B1　B2　ETHER　MSG）
スイッチ	終端抵抗切替スイッチ（TERM ON/OFF） DSUスイッチ（DSU ON/OFF） U点極性反転スイッチ（REV/NOR） ETHERNET切替スイッチ（toPC/toHUB、ポート1を切替）

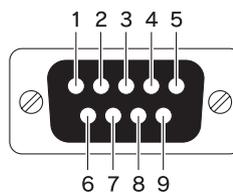
◎その他

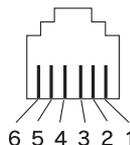
使用電源	AC100V±10%（50/60Hz）
消費電力	9W以下
停電時	連続待ち受け時間約2時間 連続通話時間約1時間
環境条件	温度10～35℃、湿度20～70%（ただし結露しないこと）
電波障害防止	VCCI-A
外形寸法	70（W）×191（D）×176（H）mm （突起部分を含む）
重量	約0.8kg（乾電池を除く）
認定番号	CD99-1126JP　L99-1276

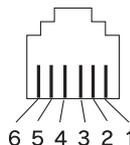
※停電時の動作時間は、電池の使用状況、種類、周辺温度、使用環境などによって異なります。表中の時間を目安にしてください。

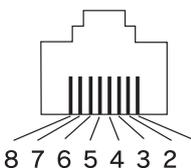
コネクタ仕様

◎ETHERNET1/2/3/4（Etherポート）

1	送信（+）	2	送信（-）
3	受信（+）	4	未使用
5	未使用	6	受信（-）
7	未使用	8	未使用

◎DTE（DTEポート）

1	DCD	2	RxD
3	TxD	4	DTR
5	GND	6	DSR
7	RTS	8	CTS
9	RI		

◎ANALOG1/2/3（アナログポート）

1	未使用	2	未使用
3	L2	4	L1
5	未使用	6	未使用

◎ISDN U

1	未使用	2	未使用
3	L2（NOR時）、L1（REV時）		
4	L1（NOR時）、L2（REV時）		
5	未使用	6	未使用

◎ISDN S/T

1	未使用	2	未使用
3	送信（TA）	4	受信（RA）
5	受信（RB）	6	送信（TB）
7	未使用	8	未使用

機能仕様

◎アナログ部（アナログポート）

-48供給
停電時バックアップ
代理応答
内線通話・内線転送
呼び出しベル音切替え
時間差優先着信機能
FAX無鳴動着信
ダイヤル桁間タイマ
ポート毎に音量調節可能
電話帳128件
通話中電話帳登録
電話機でのアナログポートの設定・音声による確認
電話機でのファームウェアバージョン確認
プリ・ダイヤル機能（発信番号付加機能）
発信者番号通知
料金情報通知
通信中着信通知
擬似ナンバー・アナウンス
擬似ナンバー・リクエスト
擬似フレックスホン（マルチアンサー™・通話中の発信）
擬似迷惑電話おことわり
通信中迷惑電話登録
発信者番号識別機能
通信中機器移動サービス対応
ナンバーディスプレイ対応
サブアドレス識別機能
サブアドレスグローバル着信設定
ダイヤルイン
グローバル着信設定
i・ナンバー対応
マジックボックス対応
フレックスホン対応
INSボイスワープ・INSボイスワープセレクト対応
なりわけサービス対応
迷惑電話おことわりサービス対応

◎ルータ部（Etherポート）※

ユーザアカウント機能
時刻修正機能
自動接続・自動切断機能
マルチダイヤル機能
クイック設定
OCNクイック設定
各種接続制限機能（料金制限機能、長時間接続制限機能、自動接続回数制限機能、スケジュール機能、発信チャネルスケジュール機能）
端末型/LAN型ダイヤルアップ・専用線対応
専用デジタル回線対応
OCNダイヤルアクセスサービス・OCNエコノミーサービス対応
テレホーダイ対応
相手先識別着信
グローバル着信
PIAFS対応（32Kbps/64Kbps［Ver.2.0/Ver.2.1］）
MP対応
BACP対応
V.110
リソースBOD機能
スループットBOD機能
コールバック機能（無課金、Windows互換）
PPTP（Point to Point Tunneling Protocol）対応
PPP暗号化（MN128-SOHO SL10互換）
パケットフィルタリング対応
ソースルーティング機能
優先ルーティング機能
AutoNAT™（NAT、IP Masquerade）
AutoDNS™（DNS代理応答）
DHCP/BOOTPサーバ搭載
DHCPスタティック機能
簡易DNSサーバ機能
リモートアクセスサーバ機能
RADIUS対応
LAS™（ローカルアクセスサーバ）機能
VLSM対応
SYSLOG対応
メール着信通知機能（POP3、APOP）
メール転送機能
PHSメール送受信機能
伝言板
リモートセットアップ
RVS-COM 2000/RVS-COM Lite for ROUTER対応
※ルータ機能を使用するには、ご利用のパソコンにEthernetボード（カード）が必要です。別途ご用意ください。（ただし、LAS™機能を利用する場合のみ、DTEポートに接続したパソコンからでも、ルータ機能を使用できます。）

◎TA部（DTEポート）

Hayes互換ATコマンド対応
最高230.4Kbpsまでのシリアル通信（ビットレートは自動的に判別）
多彩な通信モードをサポート（V.110、64/128Kbps 、MP接続［BOD、BACP］、HDLC、PIAFS通信）
X.25によるパケット通信対応
AutoPPP™（全自動非同期同期PPP相互変換）
AutoARA™（非同期 HDLC パケット変換）
AutoPAD™（無手順での非同期同期変換）
AutoMP™（Bチャネル2本で128Kbps通信）
128Kbpsバルク通信
リソースBOD機能
スループットBOD機能
AutoBACP™（Bチャネル増減自動問い合わせ）
PIAFS対応（32Kbps/64Kbps［Ver.2.0/Ver.2.1］）
RVS-COM対応（※G4 FAX不可）
OCNダイヤルアクセス、OCNエコノミー対応

MN128-SOHO SL11　導入／設定ガイド

発行日：1999年12月20日　　第4版
発　行：株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー
URL　http://www.ntt-me.co.jp/
株式会社ビー・ユー・ジー
URL　http://www.bug.co.jp/

製品お問い合わせ用紙

トラブルなどが発生した場合は、このページをコピーして必要事項をご記入の上、P.121のMN128-SOHOサポートセンターまでFAXしてください。

ユーザ情報

ふりがな 氏名	電話番号 FAX番号
連絡先 〒	ユーザ登録 [済 ・ 未]

製品情報

製品名 MN128-SOHO SL11	ファームウェアバージョン Ver.
購入日 年 月 日	製造番号

使用パソコン情報

メーカ名 [ ]	機種名 [ ]
OS [DOS ・ Windows (3.1 / 95 / 98 / NT) ・ MacOS]	OSバージョン [ ]
本製品を接続しているポート [DTEポート ・ Etherポート (内蔵ポート / 増設ポート)]	

使用ソフトウェア情報

使用ソフト名 [ ]	使用ソフトバージョン [ ]
使用INFファイル、またはCCLファイル名（使用している場合） [ ]	

接続情報

接続先：[プロバイダ（名称： ）・アクセスサーバ・ルータ・他（ ）]

回線速度［非同期（ bps）・ 同期（ bps）・ PIAFS ・ 専用線（ Kbps）]

ISDN回線情報

ISDN回線種別 [INSネット64 ・ 専用線 ( )]	通信中着信通知サービス [なし ・ あり]
フレックスホン [コールウェイティング ・ 三者通話 ・ 通信中転送 ・ 着信転送]	
ダイヤルインサービス [なし ・ あり]	グローバル着信 [あり ・ なし] ※ダイヤルインサービスを契約している場合のみ
Dチャネルパケット通信接続方法 [なし ・ あり (VC / PVC)]	

アナログポート情報

アナログ1 [なし ・ あり]	メーカ名 [ ]	機種名 [ ]
アナログ2 [なし ・ あり]	メーカ名 [ ]	機種名 [ ]
アナログ3 [なし ・ あり]	メーカ名 [ ]	機種名 [ ]

ネットワーク情報 [Ether使用 ・ 不使用]

IPアドレス [ ]	サブネットマスク [ ]	
ゲートウェイアドレス [ ]	デフォルトルータアドレス [ ]	
プリンタ [なし ・ あり]	メーカ名 [ ]	機種名 [ ]
他ルータ [なし ・ あり]	メーカ名 [ ]	機種名 [ ]

症状

※エラーが出ている場合はエラー番号、メッセージも記入してください。

※DTEポートからご使用の方は、AT\S、AT%R、AT@Cコマンドで表示される内容を別途添付してください。

※Etherポートからご使用の方は、設定ページの内容を別途添付してください。

※接続機器構成図を別途添付してください。

アナログ操作早見表　その1

短縮番号で発信
受話器を上げる
↓
#
↓
*
↓
短縮番号
↓
#

内線電話 ～通常発信～
受話器を上げる
↓
フック
↓
0

内線電話 ～すぐ発信～
受話器を上げる
↓
*
↓
0

リダイヤル
受話器を上げる
↓
#
↓
*
↓
0

内線転送
＊相手と通話中
フック
↓
0
↓ ルルル…
受話器を置く

マルチアンサー（擬似キャッチホン）
＊相手と通話中
プップッ
↓
フック
↓
割り込んだ相手と通話
＊通話相手を切り替えるとき
→フック

通話中発信
＊相手と通話中
フック
↓ ＊保留
ダイヤル
↓
ダイヤルした相手と通話
＊通話相手を切り替えるとき
→フック

擬似ナンバー・アナウンス ～直前の番号を聞く～
受話器を上げる
↓
フック
↓ プッ プッ プッ
1 3 6
＊折り返し電話をかけるとき
→　［3］
＊電話帳に登録するとき
→　「106」→［#］
＊迷惑電話として電話帳に登録するとき
→　「1442」→［#］

擬似ナンバー・アナウンス ～過去5件までの番号を聞く～
受話器を上げる
↓
フック
↓ プッ プッ プッ
#
↓
3
↓
#
＊次の番号を聞くとき
→　［#］
＊折り返し電話をかけるとき
→　［0］→［#］
＊電話帳に登録するとき
→　「106」→［#］
＊迷惑電話として電話帳に登録するとき
→　「1442」→［#］

アナログ操作早見表　その2

通信中機器移動 ～通話の中断～

フック
↓ プッ プッ プッ
＊ 識別番号
↓
受話器を置く

通信中機器移動 ～通話の再開～

受話器を上げる
↓
フック
↓ プッ プッ プッ
＊ 識別番号

（フレックスホン） コール ウェイティング

＊相手と通話中
プップッ
↓
フック
↓
割り込んだ相手と通話
＊通話相手を切り替えるとき →フック

（フレックスホン） 三者通話 切替モード

＊相手と通話中
フック
↓
ダイヤル
↓
ダイヤルした相手と通話
＊通話相手を切り替えるとき →フック

（フレックスホン） 三者通話 ミキシングモード

＊一方と通話、一方は保留中
フック
↓ プッ プッ プッ
フック
↓
３人で通話
＊通話相手を切り替えるとき →フック

（フレックスホン） 通信中転送 ～相手応答前～

＊相手と通話中
フック
↓ プッ プッ プッ
ダイヤル
↓ ルルル…
受話器を置く

（フレックスホン） 通信中転送 ～相手応答後～

＊相手と通話中
フック
↓ プッ プッ プッ
ダイヤル
↓
ダイヤルした相手と通話
↓
フック
↓ プッ プッ プッ
受話器を置く

迷惑電話の登録 ～通話終了後～

1 4 4 2
↓
受話器を置く

迷惑電話の登録 ～相手と通話中～

＊相手と通話中
フック
↓ プッ プッ プッ
#
↓ ＊保留
#
↓ ＊保留
1 4 4 2
↓
相手と通話